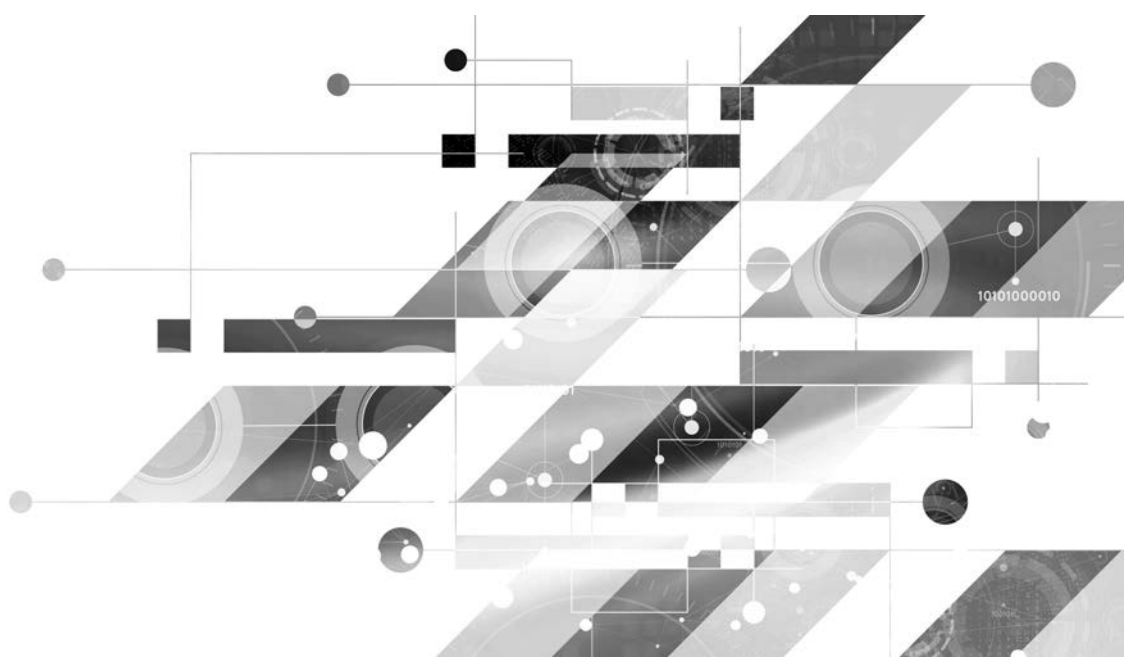

研究・社会連携白書 2018

Okayama University of Science



学校法人 加計学園

岡山理科大学

岡山理科大学 研究・社会連携白書 2018

1	白書発刊にあたって	1
2	活動方針	2
2.1	社会連携・社会貢献に関する方針	2
2.2	組織ならびに業務	3
3	研究・社会連携委員会	5
4	外部資金の獲得状況	11
4.1	科学研究費助成事業	15
4.2	各種助成金（財団／公的資金等）	18
4.3	共同研究	21
4.4	受託研究	26
4.5	受託研究に関する取扱規程および細則	29
4.6	寄付金	31
5	文部科学省等選定事業	34
6	学内共同研究の活性化に向けた取り組み	35
6.1	岡山理科大学プロジェクト研究推進事業	35
6.2	大型機器選定	38
7	不正行為・不正使用防止の取り組み	39
8	産学官金連携に向けた研究シーズの公開	41
8.1	OUS 研究者ナビゲーター	41
8.2	OUS フォーラム	43
8.3	岡山リサーチパーク研究・展示発表会	56
8.4	次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会	57
8.5	新技術説明会	57
8.6	イノベーションジャパン	58
9	知的財産	59
9.1	職務発明判定委員会の活動	59
9.2	特許出願	60
9.3	知的財産権セミナー	64
10	産学官間の協定締結	65
11	産学官金連携活動	67
11.1	地域における主な産学官金連携活動	67
11.2	産学官金連携推進における外部団体役員一覧	73
12	受賞者	76
13	活動報告	78
14	人事の推移	80
15	研究・社会連携白書編集を終えて	82



1 白書発刊にあたって



新たな研究拠点形成を目指して

副学長 研究・社会連携機構長 平野 博之

本白書は、2017 および 2018 年度、本学が行って参りました研究および社会連携に関わる活動をまとめたものです。2017 年度から本学では「岡山理科大学ビジョン 2026」の実現に向け動き出しました。本機構では5つの柱のうち「教育を支える個性的で魅力ある研究を推進する大学」および「地域の課題解決や活性化に貢献し、地域と共に発展する大学」の実現に向けた、研究推進、産学官連携、外部資金等獲得、地域貢献を担っております。

2017 年度は、ワイン発酵科学センターと恐竜学博物館がスタートし、研究のみならず、ワインシンポジウムの開催や博物館の一般開放といった地域貢献的な要素も織り交ぜながら活動して参りました。

2018 年度は、今治キャンパスに獣医学部が設置され、本学が保有する研究シーズの幅も大きく広がりました。今後は、岡山キャンパスと今治キャンパスがそれぞれ有しているシーズを融合させ特色ある研究シーズを発掘するとともに、新たな研究拠点形成を目指して参ります。

本白書を通し、本機構の活動に対しましてご理解をいただきますとともに、今後ご指導ならびにご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



大学パラダイムシフトに沿った研究・社会連携を

研究・社会連携センター長 折田 明浩

これまで大学は、自由闊達な研究拠点として、あるいは、高等教育による「知」の発信地として機能してきました。実直で繊細な日本の「もの作り技術」に支えられながら、大学の研究は推進され、いくつもの研究成果がノーベル賞として世界的に評価されました。その一方で、急激な勢いで進行している少子高齢化やグローバル化に伴う社会構造の変化に対応すべく、大学の研究・教育にも変革の波が押し寄せつつあります。具体的には、「産学官共同研究」から実践的な技術開発を行ったり、「アクティブ・ラーニング」や「高大連携」を通じて、学生の主体的かつ能動的な学修を推し進めることが求められています。また、社会人・技術者としての素養を涵養した学生の育成には、倫理教育の実施も必要です。

研究・社会連携センターは、これら研究・教育・社会貢献という岡山理科大学の使命を見据えながら、学内および学外へ向けて日々様々な活動を行っております。

本白書は、2017～2018 年度の2年間に取り組んだ内容を取りまとめたものです。本学の日頃の活動と成果を知っていただき、本学に対するご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2 活動方針

2.1 社会連携・社会貢献に関する方針

「岡山理科大学ビジョン 2026」に掲げる 5 つの柱に挙げられた「教育を支える個性的で魅力ある研究を推進する大学」および「地域の課題解決や活性化に貢献し、地域と共に発展する大学」を実現するため、次の 3 点を中期目標に掲げ、全学で推進している。

1) 地域社会の活性化・課題解決に関する中期目標

大学の知的資源や人材を活用して、地域社会が抱えている課題に対して地域と協働して取り組み、新しい価値を創出する。

2) 教育機関との連携・協力に関する中期目標

大学間連携、高大連携、小中学校との連携を強化し、地域の教育・研究の発展に寄与する。

3) 地域連携推進体制に関する中期目標

地域連携の実質化と質向上のために、地域連携を迅速かつ的確に推進できる体制を整備する。

研究・社会連携センターおよび研究・社会連携部では、これらの中期目標を達成するため、次の方針を掲げ活動している。

(1) 地域社会の活性化・課題解決に向けての取り組み方針

①産学官金連携

産学官金連携においては、「知」の創造と活用を図ることに大きな価値が置かれる「知識社会」の到来に伴い、技術移転や新産業創出を通じて社会に貢献する。社会からの多様なニーズに対して、研究者の紹介、共同研究や受託研究等の受け入れ、知的財産の活用など、積極的に連携を推進する。また、本学の研究成果をフォーラム等の開催や紹介パンフレット、ホームページなどを通じて広く社会に発信する。

ア) 特許・技術移転の促進

知的財産に関する特許及び技術移転を積極的に促進する。

イ) 国や地方自治体等の政策形成への寄与

地方公共団体の運営する産学官金の連携に関する各種会議に委員等を派遣し活動に貢献する。

②地域社会・国際社会への協力

地域貢献においては、地域の研究拠点として、地方自治体、地元企業、教育機関、地域コミュニティなどとの連携・交流を図り、活力ある地域づくりに取り組む。また、大学間連携により積極的な「知」の集積を図り、広く社会へ貢献する。

地方自治体の企画会議などへも参画し、地方公共団体が行うまちづくり事業等へも積極的に参加する。更に、地方から国、国際社会に対して、本学の教育・研究成果が寄与できるように取り組む。

③大学施設・設備の地域社会への開放

総合機器センター、自然フィールドワークセンター、恐竜学博物館等の施設を地域社会へ開放する。

総合機器センターは、研究に必要な最新の大型分析機器を集結した共同利用施設を保有し、一部の機器の学外開放を行う。

自然フィールドワークセンターは、カヌーを利用したエコツアー研修会等を企画し、広く地域市民の方の参加を受け入れる。

恐竜学博物館は、海外での恐竜調査状況、恐竜研究の成果、化石処理作業、化石標本、恐竜骨格標本などを展示し、恐竜の学術研究現場を一般に公開する。

(2) 学外機関との連携・協力についての取り組み方針

国内外機関との連携協力による教育研究の推進を積極的に行う。また、地域交流・国際交流事業についても積極的に参加する。

2019 年度 3 月現在、31 機関と連携に関する協定を締結している。

2.2 組織ならびに業務

本学は、1999 年度、岡山県内の大学では最も早く、産学官の連携を目的とした学外連携推進室を設置した。その後、2016 年度組織改編により、研究推進機構を設置し、教育研究組織として研究連携支援センター、その中の事務組織として研究連携支援室が整備された。その後、組織名称の変更により、2019 年 4 月現在は、教育研究組織は研究・社会連携センター、事務組織は研究・社会連携部として活動している。

本書では、2017～2018 年度の研究・社会連携センターおよび研究・社会連携室の活動として、本学における基礎研究の推進、研究成果の活用や新技術の実用化、外部資金の獲得などの取り組みを報告する。2018 年度における主な業務および組織メンバーを示す。

表 2-1 研究・社会連携センターおよび研究・社会連携室の主な業務

区分	内 容
産学官金連携	1) 産学官金ニーズと研究シーズのマッチング（企業等と研究者とのコーディネート） 2) 産学官金との共同研究、受託研究の推進 3) 産学官金連携会議への専門委員としての参画 4) 研究シーズの発信 ・ OUS フォーラムの開催（大学の研究成果の紹介） ・ OUS 研究者ナビゲーター、産学官金連携情報誌（LIAISON）の発刊 ・ イノベーションジャパン、新技術説明会等での研究者による研究成果発表支援 5) 学外機関との連携協定の締結
地域貢献	1) 地方公共団体、各種団体への委員やアドバイザー等への就任 2) 地方公共団体が行うまちづくり事業への参画 3) 企業等からの技術相談への対応 4) 大学施設・設備の地域社会への開放
外部資金獲得・研究支援・知的財産権	1) 各種研究費・助成金に係る情報収集、学内説明会の開催、申請業務、公的研究資金の適正な運用に関する業務及び事務取扱（科学研究費助成事業、省庁・国立研究開発法人等の公的研究費、各種財団研究助成金） 2) 文部科学省の大型プロジェクト事業等の申請および企画運営業務 3) 学内公募型プロジェクト研究推進事業の運営 4) 公的資金の適正な運用のための体制整備、研究倫理・コンプライアンスに係る教育の企画、運営
知的財産権	1) 発明の啓発活動（特許セミナー、研究者との交流） 2) 発明の権利化（職務発明委員会） 3) 職務発明の特許出願及び技術移転（共同出願、独自出願、実施許諾）
学内調整	1) 国・自治体等が実施する各種調査に係る報告書作成 2) 研究・社会連携機構運営委員会の運営 3) 研究・社会機構部会の運営 4) 研究・社会連携委員会の運営

表 2-2 2018 年度研究・社会連携センターおよび研究・社会連携室メンバー

職 名	氏 名	主たる担当業務
セ ン タ ー 長	折田 明浩	全体統括者（工学部教授）2018 年度就任
副センター長	赤木 徹也	副統括者（工学部教授）2018 年度就任
センター次長	岩永 哲夫	副統括者（理学部准教授）2018 年度就任
センター教授	中村 修	産学連携コーディネータ（研究・社会連携センター教授）2014 年度就任
室 長	御倉 賀恵	管理運営全般 2009 年度就任
次 長 兼 課 長	竹内 雅彦	研究支援・外部資金獲得 2018 年度着任
参 与	藤原 俊明	附属施設管理 2017 年度着任
コーディネータ	桑本 誠	産学連携コーディネータ、知的財産権 2015 年度着任
コーディネータ	多田 章利	産学連携コーディネータ 2017 年度着任
事 務 職 員	倉藤美紀子	産学官金連携（契約業務等）2018 年度着任
事 務 職 員	藤原 誉子	外部資金（助成事業等）、研究倫理 2017 年度着任
事 務 職 員	太田 謙	産学官金連携（広報）2017 年度着任
事 務 補 佐	近藤美和子	事務担当 2016 年度着任
事 務 補 佐	堀田 一美	事務担当 2018 年度着任

3 研究・社会連携委員会

研究及び社会連携を本学の取り組みとして推進するため、主として産学官との連携に関する事項を審議する目的で本委員会を設けている。

2017 年度に改定された本委員会の役割を示した規程は下記のとおりである。

岡山理科大学研究・社会連携委員会規程

(目的)

第 1 条 教育研究等の分野において、岡山理科大学の研究の推進及び学外との連携に関する事項を審議するため、岡山理科大学研究・社会連携委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号の者（以下「委員」という。）をもって構成する。

- (1) 研究・社会連携機構長
- (2) 各学科代表者 1 名
- (3) 研究・社会連携機構所属の各センター等の代表者
- (4) 就職部門担当の長
- (5) 広報部門担当の長
- (6) 各学部長、研究科長の代表者 1 名
- (7) 大学事務局長
- (8) 研究・社会連携室長
- (9) 研究・社会連携センター教授及び次長以上の役職者
- (10) その他委員長が必要と認めた者

(委員長等)

第 3 条 委員会に委員長と副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は委員の中から互選する。

3 委員長は会務を総括し、副委員長は委員長を補佐する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときの補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議の招集)

第 5 条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

(審議事項)

第 6 条 審議事項は次の事項とし、委員会の審議を経て、研究・社会連携機構長が決定する。

- (1) 産学官金の連携事業について
- (2) 地域との連携業務に関すること
- (3) 研究成果に関すること
- (4) 公的研究資金に関すること
- (5) 知的財産の基本方針に関すること
- (6) その他必要事項

(報告)

第 7 条 委員会は、前条の審議事項の審議結果を教授会に報告し、趣旨の徹底を図る。

(委員会の事務)

第 8 条 委員会に係る事務は、研究・社会連携室において行う。

(改廃)

第 9 条 岡山理科大学研究・社会連携委員会規程の改廃は、委員会及び大学協議会の審議を経て、学長

が決定する。

附 則

この規程は、平成 15 年 7 月 10 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2017 年度及び 2018 年度に実施された委員会での議案を以下に示す。

2017 年度 研究・社会連携委員会議事の抜粋

●第 1 回 2017 年 4 月 26 日

議案 委員長 1 名、副委員長 6 名の選任（各学部 1 名）の選任

報告 1) 研究・社会連携室（旧研究連携支援室）の業務について

2) 外部資金の状況について（2016 年度）

3) 新規外部資金獲得速報（2017 年度）

○科研費

新規の外部からの助成金公募情報は学外連携推進室の Website に随時掲載

全学へ一斉配信できるメールアドレス（OUSALL）でも配信

4) OUS フォーラム 2017 の開催について

実施日 2017 年 11 月 27 日(月)

5) OUS 研究者ナビゲーター 2017（日本語印刷版）

配付済み

依頼事項

1) OUS 研究者ナビゲーター Web 版作成について

2) 新任教員に対してのヒアリング

研究・社会連携室のコーディネータが研究分野などの話を聴きに行く予定。

3) 教員を対象とした知財権セミナーについて

（新任教員の方は是非ご参加下さい。）（追ってメールで配信致します。）

●第 2 回 2017 年 6 月 30 日

議案 1) OUS フォーラム 2017 プログラム（案）

特別記念講演：大日本印刷(株) 情報イノベーション事業部

事業企画本部 本部長 越智 由香子 氏

プログラム案の説明、今後のスケジュール

2) 共同研究受入れについて（岡山大学他との共同研究の受入れ報告）

報告 1) 研究・社会連携委員会規程について

2) コーディネータによる新規採用教員の研究室訪問について

依頼事項

1) OUS フォーラム ポスター発表テーマの募集

2) 知財セミナー（7 月 14 日 7 月 19 日）の開催について

- 3) OUS 研究者ナビゲーター 2017 英語版（冊子）について
- 4) 2017 年度研究倫理教育について

●第3回 2017 年 9 月 15 日

議案 1) OUS フォーラム 2017 プログラム（案）

- プログラム案、プロジェクターを用いた口頭発表リスト、ポスター出展者リスト、ステーション編成 応募状況
- 2) 今後の出展者のスケジュール
 - 3) 研究・社会連携委員会規程改定について
 - 4) 共同研究受入れについて（協定を結んでいる大学との）

依頼事項

- 1) 応募依頼 2018 年度科研費応募締切日及び説明会
文部科学省主催「公募説明会」9 月 6 日(水) 9 月 8 日(金)
獲得に向けた取組は以下の予定で実施
①採択された計画調書は公開中です。ご参考にして下さい。
②計画調書提出締切 10 月 5 日(木) ブラッシュアップ
→ ブラッシュアップ後、計画調書返却 ～10 月 18 日(水)
→ 学内最終提出締切 10 月 25 日(水)
③学内応募説明会は 9 月 22 日(金)
C1 号館 4F (C0142 講義室) 17:00 - 18:00
- 2) 千葉科学大学 CIS フォーラム 2017
本学から 3 テーマ野嶽先生、橋川先生、高橋先生
10 月 14 日(土) 13 時から 銚子プラザホテルにおいて開催
- 3) OUS フォーラム招待者名簿、最新情報に更新のために新名簿を作成中。
追加修正を研究・社会連携室までご連絡下さい。
(10 月 3 日(火)締切)

報告 1) OUS 研究者ナビゲーター（英語版）について

- 2) 知財セミナーについて
10 月に学生向けセミナーを開催いたします。
- 3) 新規外部資金獲得状況（2017 年度 科研費）

今後の予定

- 1) 9 月 22 日(金) 2018 年度科研費応募説明会
C1 号館 4F C0142 講義室
- 2) 10 月 3 日(火) OUS フォーラム 2017 のアブストラクト、写真締切日
- 3) 10 月 4 日(水) OUS フォーラム 2017 出展者説明会
C1 号館 4F C0144 教室
- 4) 10 月 5 日(木) 2018 年度科研費応募締切
- 5) 10 月下旬 第 4 回研究・社会連携委員会

●第4回 2017 年 10 月 20 日

議案 1) OUS フォーラム準備状況

- ①会場の準備についてポスター作製、搬入等の依頼、ポスター展示方法、会場配置
交流会：17:00 - 18:00
※学外参加者及び教員、学生は 1 テーマに一人
- ② OUS フォーラム「奨励賞」審査方法について
賞状について：正本は後日
- ③広報状況
パンフレット、リエゾン：学内教員に配付済み

パンフレット、リエゾン、ちらし：産学官金、プレス等に1,600部以上送付済み
(一部パンフレット、リエゾン、ちらしは、会社訪問手渡し済み)

メールでの配信 (OPTIC NEWS 会員：10/12 済み、10/23、11/6、11/13 予定)

(ミクロものづくり岡山メールニュース No246：10/16 済み)

(さんさんコンソニユース：10/11 済み)

申し込み方法：研究・社会連携室 HP から申し込みを可能としています。

<http://renkei.office.ous.ac.jp/forum>

ちらし (ビジネス交流会にて、各種経済団体等に配付済み)

報告、依頼

- 1) 千葉科学大学 CIS フォーラム 2017 について
実施日 2017 年 10 月 14 日(土) 13:00 - 17:00
場 所 銚子プラザホテル
(野嶽先生、橋川先生、高橋先生)
- 2) 2018 年度科研費 応募状況
- 3) 特許出願状況と知財セミナーの案内

2018 年度 研究・社会連携委員会議事の抜粋

●第1回 2018 年 4 月 24 日

- 議案 1) 委員長 1 名、副委員長 7 名の選任
2) 研究・社会連携委員会規程について

- 報告 1) 研究・社会連携室の業務について
2017 年度の活動実績報告
2) 外部資金の状況 (2017 年度) について
3) 新規外部資金獲得速報 (2018 年度) 科研費
新規の外部からの助成金公募情報は研究・社会連携室の Website に随時掲載
OUSALL でも配信中です
4) OUS フォーラム 2018 の開催について
実施日 2018 年 11 月 26 日(月)

依頼事項

- 1) OUS 研究者ナビゲーター Web 版 (日本語、英語) について
- 2) 新任教員に対してのヒアリング
(研究・社会連携室のコーディネータが研究分野などの話を聴きに行く予定です。)
- 3) 教員を対象とした知財権セミナーについて

●第2回 2018 年 6 月 28 日

- 議案 1) OUS フォーラム 2018 開催について
○OUS フォーラム 2018 プログラム案
実施日 2018 年 11 月 26 日(月)
今後のスケジュール
○OUS フォーラム 2018 ポスター発表のお願いについて
ポスター発表テーマを募集します (7 月 31 日(火)締切)
学科別過去のフォーラム参加状況
アブストラクト等の発表者の明記について
申し込みフォーマット等

- 報告 1) コーディネータによる新規採用教員の研究室訪問について
2) 安全保障貿易管理の必要性

3) その他

依頼事項

- 1) 知財セミナー（7月13日岡山会場 7月20日今治会場）の開催について
○OUS フォーラム 2018 にて発表予定の場合、その内容の知財化を考えられている場合、出席していただきたい
- 2) OUS 研究者ナビゲーター 2018Web 版について
- 3) 2018 年度研究倫理教育について
- 4) 科研費の応募申請書や流れについて

●第3回 2018年9月14日

議案 1) OUS フォーラム 2018 プログラム案

実施日 2018年11月26日(月) 13:00 - 18:00

開催場所 岡山プラザホテル

ポスター出展者リスト、ステーション案等について

2) 今後の出展者のスケジュール

アブストラクトの締切など

依頼事項

- 1) 応募依頼 2019 年度科研費応募締切日
文部科学省主催「公募説明会」9月13日(木)
変更点は後日、案内致します。
獲得に向けた取組は以下の予定で実施
①採択された計画調書は公開中です。ご参考にして下さい。
②ウォームアップ ～10月3日(水)
③計画調書提出締切 10月4日(木) ブラッシュアップ
→ ブラッシュアップ後、計画調書返却 ～10月17日(水)
→ 最終提出締切 10月24日(水) 17:00
- 2) 研究倫理教育について
受講期限 9月30日(日)
- 3) 千葉科学大学 CIS フォーラム 2018
実施日 2018年9月29日(土) 13:00 -
場 所 銚子プラザホテル 本学から1テーマ
(折田先生 題名:カーボンナノチューブ内包型光電変換色素の開発)
- 4) OUS フォーラム招待者名簿
最新情報に更新のために新名簿を作成中
追加がある場合、研究・社会連携室までご連絡下さい。
(10月3日(水)締切)

報告 1) OUS 研究者ナビゲーター (Web 版) の進捗について

- 2) 知財セミナーについて
10月12日、10月19日、10月26日に開催します
- 3) イノベーションジャパン 2018 の報告
- 4) 新規外部資金獲得状況 (平成 30 年度科研費)

今後の予定

- 1) 9月21日(金) OUS フォーラム 2018 出展者説明会
C1号館 4F C0144 教室
- 2) 10月3日(水) OUS フォーラム 2018 のアブストラクトの締切日
- 3) 10月4日(木) 2019 年度科研費応募 ブラッシュアップ締切
- 4) 10月22日(月) 第4回研究・社会連携委員会

●第4回 2018年10月22日

議案 1) OUS フォーラム依頼と準備状況

①展示者へのポスター作製、搬入等の依頼

ポスター展示方法、会場配置

交流会：17:00 - 18:00

※学外参加者及び教員、学生は1テーマに一人

② OUS フォーラム「奨励賞」審査方法について

賞状について：正本は後日

③広報状況

パンフレット、リエゾン：学内教員に配付済み

パンフレット、リエゾン：産学官金、プレス等に1,500部以上送付済み

(一部パンフレット、リエゾン、ちらしは、会社訪問手渡し予定)

メールでの配信 (OPTIC NEWS 会員：9/4、9/26、10/17 済み、11/5、11/12 予定)

(ミクロものづくり岡山メールニュース No338：10/2 済み)

(さんさんコンソニュース：9/27 済み)

(中国地域産学官コラボレーション会議イベントカレンダー掲載済み)

申し込み方法：研究・社会連携室 HP から申し込みを可能としています。

<http://renkei.office.ous.ac.jp/forum>

ちらし (ビジネス交流会で配付、各種経済団体等に配付済み)

報告、依頼

1) 千葉科学大学 CIS フォーラム 2018 について

実施日 2018年9月29日(土) 13:00 -

場 所 銚子プラザホテル 本学から1テーマ

(折田先生 題名：カーボンナノチューブ内包型光電変換色素の開発)

2) 2019 年度科研費 応募状況

3) 特許出願状況と知財セミナーの案内

4) 第23回岡山リサーチパーク研究・展示発表会

日 時 2019年2月15日(金)

会 場 テクノサポート岡山 (岡山市北区芳賀 5301)

主 催 岡山県、公益財団法人岡山県産業振興財団

学内から4件受付中

●第5回 2018年11月30日～12月10日 メール審議

議案 1) 研究・社会連携委員会規程の改定について

4 外部資金の獲得状況

2016 年度に策定した中期計画において、外部資金の獲得に関する中期目標として「科研費および各種団体の研究助成金などの獲得を支援する全学的な取り組み体制を整備する」ことを掲げ、全学的に外部資金の獲得に積極的に取り組んでいる。また、産学官金のニーズと研究シーズのマッチングを図り、共同研究・受託研究に繋げている。

具体的には、科学研究費助成事業に代表される競争的資金の獲得にあたっては、2016 年度より申請書のブラッシュアップ（趣旨の伝わる申請書の書き方等採択を目指した申請書の作成支援）制度を導入し、多くの研究者が利用している。また、2018 年度よりは、若手研究者・新任研究者を対象とし、申請書の作成前（アイデア段階）から担当エディターに相談しながら申請書を作成する「ウォームアップ制度」を導入している。

加えて、科学研究費助成事業の公募開始前には、全研究者を対象とした応募説明会を実施し、科研費制度変更点の説明や、科学研究費委員会専門委員経験者等による講演などの採択に向けた取り組みを実施している。



科研費応募説明会の様子

各省庁等が募集する事業や各種助成金の公募情報について、研究・社会連携室のホームページに掲載するとともに、学内一斉配信メールにて広く周知を図っている。また、新学部設置（2016 年：教育学部、2017 年：経営学部、2018 年：獣医学部）に伴い、研究助成に関する情報を収集する研究領域の拡大を図っている。

過去 5 年間の外部資金（科学研究費助成事業・各種助成金・共同研究・受託研究・寄付金）の獲得状況を、図 4-1、図 4-2 および表 4-1、表 4-2 に示す。この 5 年間に於いて、獲得件数、獲得金額とも約 50% 増加している。新学部の設置に拠ることに加え、工学部において著しい伸長がみられる。

科学研究費助成事業、各種助成金、共同研究、受託研究、寄付金ごとの状況については、4. 1 から 4. 6 に示す。

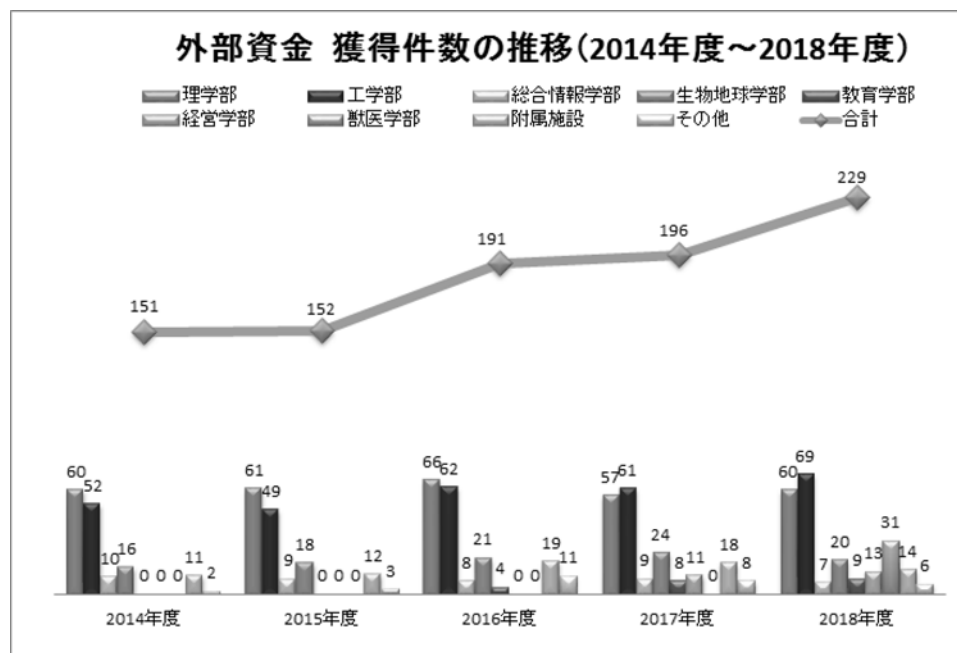


図 4-1 外部資金獲得件数の推移

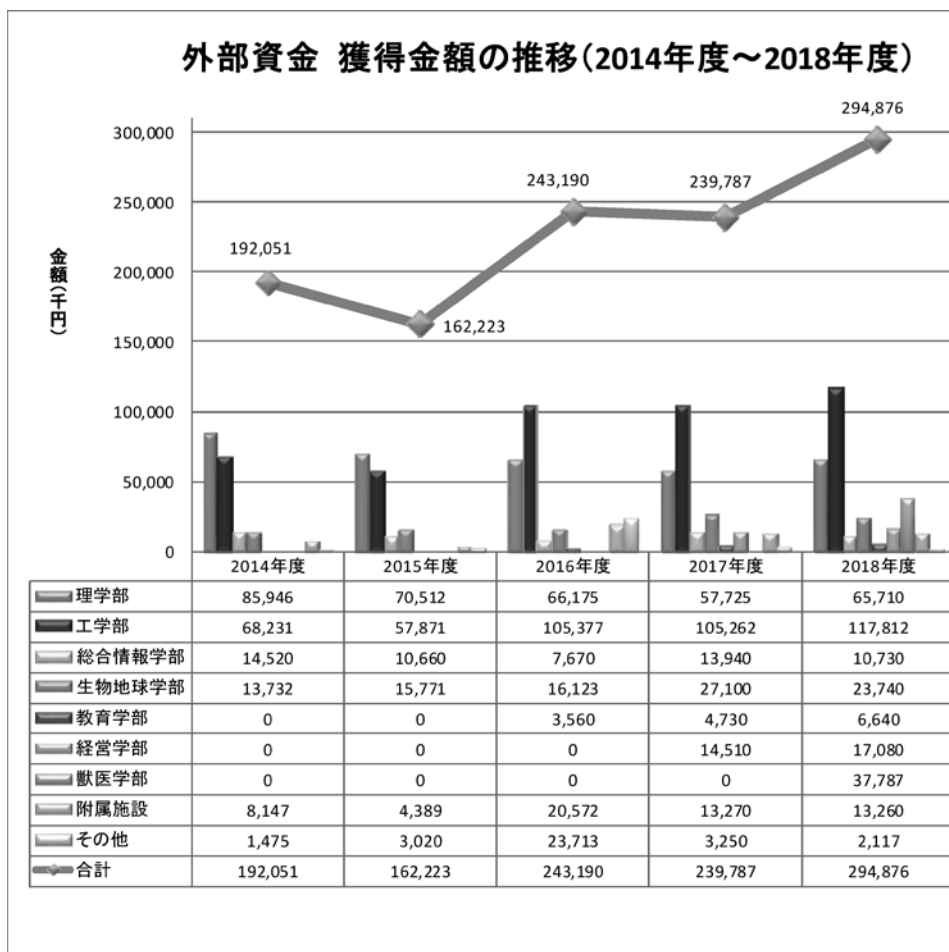


図 4-2 外部資金獲得金額の推移

表 4-1 外部資金の獲得件数

■外部資金の獲得件数

※科研費：当該年度交付件数

科学研究費助成事業（4章1）	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
理学部	22	23	28	30	28
工学部	13	12	14	18	24
総合情報学部	8	8	6	5	6
生物地球学部	4	6	8	8	6
教育学部			1	5	6
経営学部				7	9
獣医学部					13
附属施設	0	0	3	2	3
その他	1	1	2	2	1
合計	48	50	62	77	96
各種助成金（4章2）	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
理学部	8	8	10	7	9
工学部	6	5	5	3	2
総合情報学部	1	0	0	1	0
生物地球学部	6	1	3	2	3
教育学部			2	2	2
経営学部				0	1
獣医学部					10
附属施設	0	0	0	3	1
その他	1	2	3	0	2
合計	22	16	23	18	30

共同研究（4章3）	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
理学部	8	11	14	13	12
工学部	17	19	26	26	23
総合情報学部	1	1	2	2	1
生物地球学部	2	3	4	3	2
教育学部			0	0	0
経営学部				3	2
獣医学部					2
附属施設	3	6	10	10	7
その他	0	0	0	0	0
合計	31	40	56	57	49
受託研究（4章4）	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
理学部	13	11	4	2	3
工学部	11	10	9	10	14
総合情報学部	0	0	0	1	0
生物地球学部	4	7	5	8	5
教育学部			1	1	1
経営学部				0	0
獣医学部					3
附属施設	3	3	3	3	1
その他	0	0	0	0	0
合計	31	31	22	25	27
寄付金（4章6）	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
理学部	9	8	10	5	8
工学部	5	3	8	4	6
総合情報学部	0	0	0	0	0
生物地球学部	0	1	1	3	4
教育学部			0	0	0
経営学部				1	1
獣医学部					3
附属施設	5	3	3	0	2
全学	0	0	6	6	3
合計	19	15	28	19	27
外部資金 総数	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
理学部	60	61	66	57	60
工学部	52	49	62	61	69
総合情報学部	10	9	8	9	7
生物地球学部	16	18	21	24	20
教育学部			4	8	9
経営学部				11	13
獣医学部					31
附属施設	11	12	19	18	14
その他	2	3	11	8	6
合計	151	152	191	196	229

表 4-2 外部資金の獲得金額

■外部資金の獲得金額

※科研費：当該年度交付額

科学研究費助成事業（4章1）	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
理学部	48,763	43,680	35,530	39,390	43,160
工学部	18,460	16,900	26,130	32,370	47,840
総合情報学部	14,170	10,660	7,670	6,630	7,930
生物地球学部	7,410	10,790	12,350	20,540	12,220
教育学部			1,820	3,900	5,850
経営学部				12,350	13,780
獣医学部					17,623
附属施設	0	0	6,240	2,470	3,510
その他	1,100	1,000	6,890	2,850	800
合計	89,903	83,030	96,630	120,500	152,713

各種助成金 (4章2)	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
理学部	7,738	6,030	12,513	3,060	7,750
工学部	19,177	12,450	4,750	1,100	800
総合情報学部	350	0	0	200	0
生物地球学部	2,318	600	1,100	700	1,618
教育学部			1,260	350	310
経営学部				0	1,200
獣医学部					10,162
附属施設	0	0	0	2,000	200
その他	375	2,020	15,880	0	1,247
合計	29,958	21,100	35,503	7,410	23,287
共同研究 (4章3)	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
理学部	1,300	2,334	3,950	6,900	6,350
工学部	12,020	18,897	51,299	59,540	35,205
総合情報学部	0	0	0	4,542	2,800
生物地球学部	0	0	1,000	1,914	4,727
教育学部			0	0	0
経営学部				2,160	1,100
獣医学部					944
附属施設	3,300	2,300	7,460	7,100	7,850
その他	0	0	0	0	0
合計	16,620	23,531	63,709	82,156	58,976
受託研究 (4章4)	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
理学部	19,895	15,673	3,982	2,975	5,250
工学部	16,774	8,249	16,168	9,952	30,267
総合情報学部	0	0	0	2,568	0
生物地球学部	4,004	4,281	1,573	3,536	4,702
教育学部			480	480	480
経営学部				0	0
獣医学部					6,063
附属施設	3,247	1,314	4,000	1,500	1,000
その他	0	0	0	0	0
合計	43,920	29,517	26,203	21,011	47,762
寄付金 (4章6)	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
理学部	8,250	2,795	10,200	5,400	3,200
工学部	1,800	1,375	7,030	2,300	3,700
総合情報学部	0	0	0	0	0
生物地球学部	0	100	100	410	473
教育学部			0	0	0
経営学部				0	1,000
獣医学部					2,995
附属施設	1,600	775	2,872	200	700
全学	0	0	943	400	70
合計	11,650	5,045	21,145	8,710	12,138
外部資金 総額	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
理学部	85,946	70,512	66,175	57,725	65,710
工学部	68,231	57,871	105,377	105,262	117,812
総合情報学部	14,520	10,660	7,670	13,940	10,730
生物地球学部	13,732	15,771	16,123	27,100	23,740
教育学部			3,560	4,730	6,640
経営学部				14,510	17,080
獣医学部					37,787
附属施設	8,147	4,389	20,572	13,270	13,260
その他	1,475	3,020	23,713	3,250	2,117
合計	192,051	162,223	243,190	239,787	294,876

4.1 科学研究費助成事業

中期計画の達成に向けて全学的な取り組みを開始した2016年度（2017年度採択）以降、科研費への申請数、採択数ともに飛躍的に伸びており、2018年度の採択数は2014年度の2倍となっている。過去5年間の申請数、採択数、当該年度における交付額の推移を下图に示す。

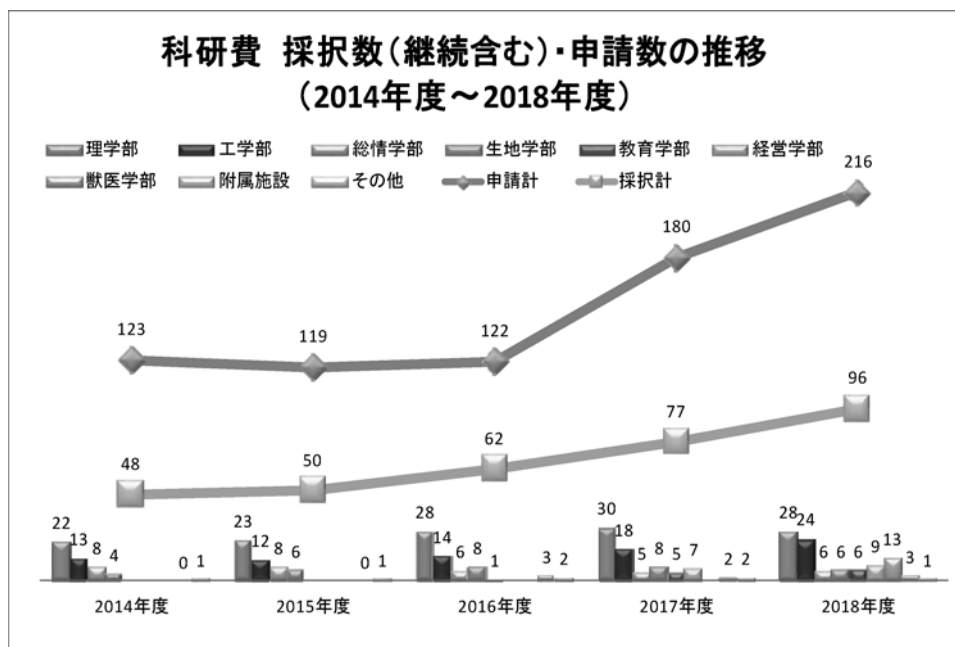


図 4-3 科学研究費助成事業 採択数・申請数の推移

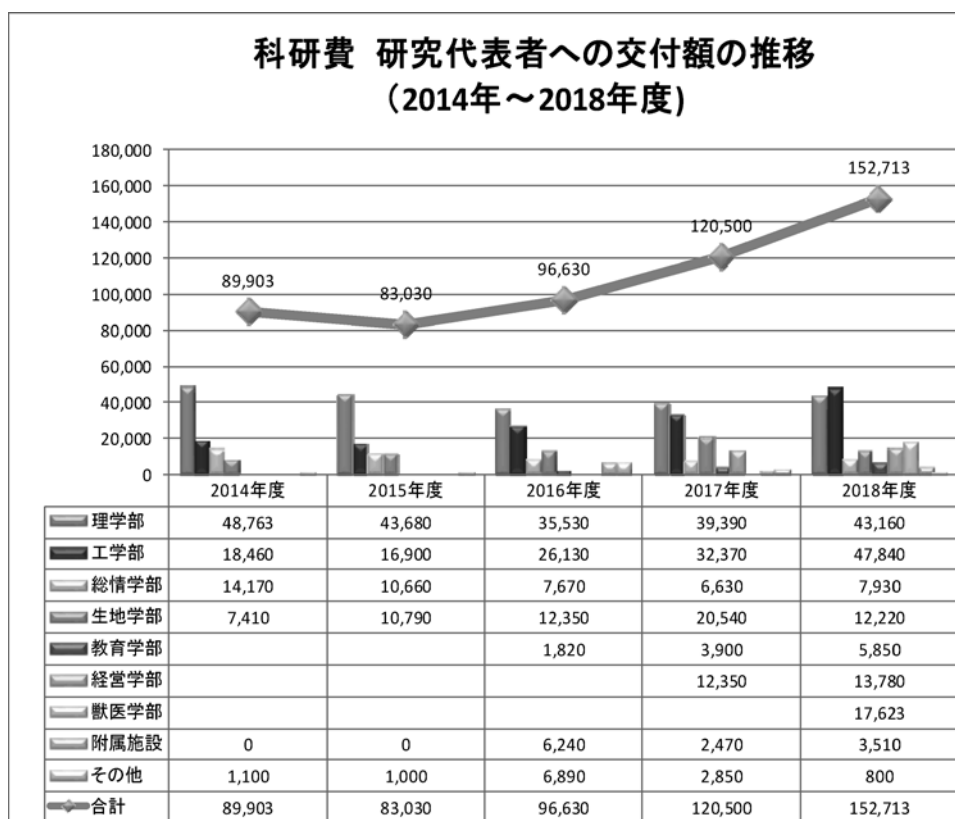


図 4-4 科学研究費助成事業 研究代表者への交付額の推移

表 4-3 2017 年度新規採択研究課題

種 目	研究代表者	研究課題名
新学術領域研究	満身 稔	双安定な分極とキラル中心の導入に基づく強誘電性金属錯体の設計指針の確立
基盤研究 (B)	那須 浩郎	縄文時代の植物大型化のメカニズム解明
基盤研究 (B)	山形真理子	インドシナ半島における古代国家の形成：ベトナム・チャーキュウ遺跡からのアプローチ
基盤研究 (B)	亀田 修一	西日本における地方窯業生産の研究－古墳時代・古代から中世へ－
基盤研究 (C)	森 裕一	尺度混在・複雑化大規模データの特徴抽出と対話的情報把握の研究
基盤研究 (C)	宮島 洋文	クラウドサービス利用者の安心感を高めるセキュアマルチパーティ簡易計算
基盤研究 (C)	安田 貴徳	耐量子暗号への非可換構造の応用と解析
基盤研究 (C)	松尾 美香	アクティブ・ラーニングに適応できない学生のための授業設計とその支援に関する研究
基盤研究 (C)	林 良太	筋電位から随意運動を推定するリハビリ支援ロボットのための促進的訓練システムの開発
基盤研究 (C)	藤本 真作	空気圧柔軟アクチュエータによるアクティブ補装具の開発
基盤研究 (C)	汪 達紘	健康人を対象とした森林浴による体内酸化・抗酸化バイオマーカーの比較検証
基盤研究 (C)	香ノ木隆臣	ロバート・ペン・ウォーレンの想像力形成とニュー・クリティシズム成立の連関
基盤研究 (C)	奥西 有理	グローバル共生を可能にする英語教育－共感的異文化理解の概念化と検証
基盤研究 (C)	徳澤 啓一	インドシナ半島における窖窯を用いた焼き締め陶器製作の比較研究
基盤研究 (C)	宮本 真二	アジア・モンスーン地域における「土地開発史モデル」の構築
基盤研究 (C)	水谷 直樹	レビューデータを用いたマーケット・セグメンテーション手法の開発
基盤研究 (C)	大藪 亮	消費文脈における価値生成に関する研究：マクロ的視点とミクロ的視点の横断
基盤研究 (C)	井本 美穂	近代日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動に関する研究
基盤研究 (C)	岡本 弥彦	ESD の視点を踏まえた「地球」領域の見方・考え方の育成に関する実践的研究
基盤研究 (C)	大熊 一正	有効場の理論に基づくトップクォーク崩壊相互作用の拡張とその観測可能性
基盤研究 (C)	東村 秀之	嵩高い置換基をもつフェノール類のラジカル制御酸化重合
基盤研究 (C)	衣笠 哲也	身体の変動性を活かした多足ロボットの実現とそのロコモーションに関する研究
基盤研究 (C)	森 嘉久	高効率 Mg ₂ Si 熱電モジュール開発に向けた熱電材料の高圧合成
基盤研究 (C)	三井 亮司	植物に共生するメタノール資化性細菌のランタノイドを利用した生育環境認識機構の解明
基盤研究 (C)	中村 元直	リガンド濃度勾配で起こるシグナル経路の切換え機構とその生理学的意義の解明
基盤研究 (C)	辻極 秀次	歯源性腫瘍の骨浸潤過程における間質細胞の関与とその機能解明
基盤研究 (C)	草野 圭弘 ※※	備前焼「金・銀彩」模様の形成機構の解明とそれらの再現法の確立
基盤研究 (C)	村松 潤一 ※	消費概念の拡張に伴う顧客の消費プロセスにおけるマーケティングの研究
若手研究 (B)	三原 裕子	世代間の出生率の習慣形成がマクロ経済に及ぼす影響について
若手研究 (B)	加瀬 遼一	傾変異がなす組合せ論的構造の研究
若手研究 (B)	黒木慎太郎	群作用を持つ多様体の組合せ的不変量の構成
若手研究 (B)	鬼塚 政一	フラクタル解析による常微分方程式系の安定性理論の構築
若手研究 (B)	寺野 元規	せん断ひずみと熱処理による結晶方位制御法の開発

種 目	研究代表者	研究課題名
若手研究 (B)	荒井伸太郎	高速回転式 LED 送信機を用いたカメラ型可視光通信の高速化及び全方位受信の実現
若手研究 (B)	笹山 健作	子どもの身体活動ガイドラインの目標値達成率を評価する方法の開発と検証
若手研究 (B)	大坂 昇	相分離と結晶化の競合による多孔性イオン液体ゲルの作製とゲル化機構の解明
若手研究 (B)	託見 健 ※	生殖機能中枢キスペプチンニューロンを制御する神経ネットワークの解明
若手研究 (B)	馬淵 大宇 ※	没入型仮想環境技術を活用した寸法感学習スキーム「スケトレ」の開発とその効果の実証
若手研究 (B)	廣田 雅春 ※	不均質なメタデータを含むマルチメディアビッグデータの可視化に関する研究
特別研究員奨励費	松井 保子	柔軟空気圧シリンダを用いた低コスト・可搬型上肢リハビリ機器の開発

※ 2017 年度他機関より転入、研究課題は 2016 年度からの継続
 ※※ 2017 年度他機関より転入、研究課題は 2015 年度からの継続

表 4-4 2018 年度新規採択研究課題

種 目	研究代表者	研究課題名
新学術領域研究	折田 明浩	電子チューニングによる官能基精密集積化法の開発と光線力学中分子治療薬の創製
基盤研究 (B)	藤木 利之	東ポリネシアにおける人類到達時期とその後の植生変化
基盤研究 (B)	押谷 潤	粉体工学的手法を用いた建設廃棄物残渣の革新的適正処理技術の開発
基盤研究 (B)	藤本 義博 ※※※	協働学習支援ツールによる活用型授業とブレンディッドラーニングによる教員研修の開発
研究活動スタート支援	向田 昌司	活性酸素種によるリンパ管の血圧緩衝機能障害：高血圧症の新規病態機序
研究活動スタート支援	中村 翔	哺乳類の発情行動を制御する GnRH ニューロンの同定
基盤研究 (C)	地村 彰之	コンピュータによる『カンタベリー物語』諸写本・諸刊本と 16 世紀印刷本の計量的比較
基盤研究 (C)	坂本 南美	ALT が語るナラティブとアイデンティティ変容に関する研究：社会文化的・言語的視点
基盤研究 (C)	池田 岳	量子 K 理論におけるシュレーベルト・カルキュラス
基盤研究 (C)	大江 貴司	層状領域における異常拡散方程式に対する代用電荷法の適用と評価
基盤研究 (C)	大田 靖	逆問題の手法を用いたファイナンス市場における諸問題への総合的研究
基盤研究 (C)	今山 武志	北西インドヒマラヤの地質年代学的・岩石学的研究：大陸衝突帯初期プロセスの解明
基盤研究 (C)	清水 一郎	準安定 β チタン合金の変形双晶に基づく多軸応力下塑性加工性向上機構の解明と定式化
基盤研究 (C)	石田 弘樹	パリティ・時間対称性に学ぶ新たな高口バスト・ワイヤレス給電システムの創造
基盤研究 (C)	佐藤 泰史	バンドギャップ制御を用いた新しい狭帯域 f-f 発光型蛍光体の物質設計
基盤研究 (C)	折田 明浩	小分子型可視光アンテナ色素：反芳香族ペンタレンの自在合成と光学材料への応用
基盤研究 (C)	宇根 ユミ	両生類の新興病原体「ラナウイルス」はどのように拡散するのか？
基盤研究 (C)	池谷 祐幸	古い時代に導入された木本性栽培植物の遺伝的多様性の解明のための基礎的研究
基盤研究 (C)	神吉けい太	IDH 賦活化による癌悪性化抑制法開発のための基盤研究
基盤研究 (C)	伊豆 弥生	12 型コラーゲンによる変形性関節症の病態解明
基盤研究 (C)	長田 洋輔	脂質スフィンゴミエリンの合成系によって制御される筋肥大の解明と筋肥大促進法の開発

種 目	研究代表者	研究課題名
基盤研究 (C)	中川 重和	高次元データに対する正規性の検定
基盤研究 (C)	松浦 宏治	精子運動性の制御に基づく運動精子選別システムの開発
基盤研究 (C)	岩井 良輔	立体臓器チップ構築に向けた細胞単層の自動 3D 化技術の基盤開発
基盤研究 (C)	水野 信哉 ※※※	HGF による骨髄移植での樹状細胞制御を介した免疫寛容誘導機構の解析
基盤研究 (C)	水野 理介 ※※	リンパ管 Na ⁺ ポンプによる食塩感受性高血圧症の新規治療法の開発的研究
基盤研究 (C)	杉山 晶彦 ※	メダカを用いた新規精巣毒性評価系の構築
基盤研究 (C)	汾陽 光盛 ※	卵巣におけるキスペプチンネットワークの機能
若手研究 (B)	千葉 秀一 ※※※	社会報酬反応の減退に関与する分子基盤に関する研究
若手研究 (B)	堀田 和義 ※※	ジャイナ教の死生観に関する基礎的研究－断食死儀礼の規定を中心として
若手研究 (B)	松井 利康 ※※	網様体コリン作動性介在ニューロンによる運動ニューロン調節機構の形態学的解析
若手研究 (B)	横山ひとみ ※	日常業務コミュニケーション場面における対人コミュニケーション・チャンネルの検討
若手研究 (B)	麻原 寛之	熱電用電力変換回路の定性的性質の解明と最大電力整合

※ 2018 年度他機関より転入、研究課題は 2017 年度からの継続

※※ 2018 年度他機関より転入、研究課題は 2016 年度からの継続

※※※ 2018 年度他機関より転入、研究課題は 2015 年度からの継続

4.2 各種助成金（財団 / 公的資金等）

研究助成団体等や文部科学省等から公募された助成金の過去 5 年間の申請数、採択数、採択金額の推移を下図に示す。採択金額は、1 件あたりの助成額の影響で増減があるが、採択数は新学部設置等により増加傾向にある。

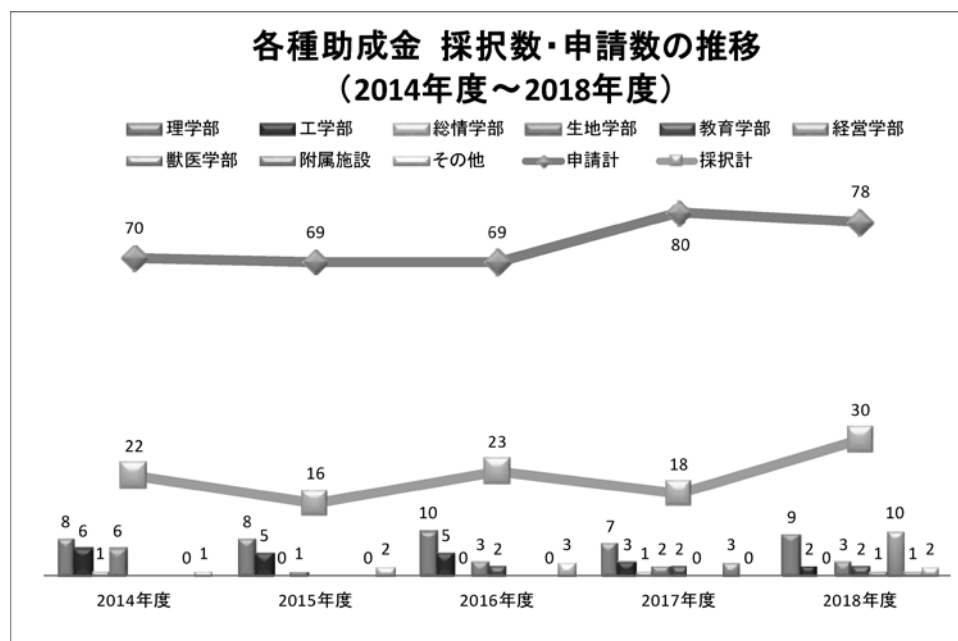


図 4-5 各種助成金 採択数・申請数の推移



図 4-6 各種助成金 採択金額の推移

表 4-5 2017 年度採択研究課題

種 目	研究課題名	研究代表者
(公財)ウエスコ学術振興財団	高効率な発光を目指した有機蛍光材料の開発	岩永 哲夫
(公財)ウエスコ学術振興財団	RNA による DNA トポイソメラーゼ I の酵素活性制御メカニズムの解析	河野 真二
(公財)ウエスコ学術振興財団	効果的ながん治療を目指したホウ素化合物の液液界面における反応挙動の解明	坂江 広基
(公財)ウエスコ学術振興財団	ヒト・オキシトシン受容体の試験管内発現と部位特異的安定同位体標識資料を用いた構造解析	山口 悟
(公財)ウエスコ学術振興財団	電子分極で駆動する有機強誘電体研究のための反射型旋光分光顕微鏡開発	山本 薫
(公財)ウエスコ学術振興財団	MMS で取得した大規模全球画像群による高精度な空間検索	太田 寛志
(公財)ウエスコ学術振興財団	細胞内エネルギー代謝シフトを利用した iPS 由来肝細胞成熟化の検討	神吉けい太
(公財)ウエスコ学術振興財団	段ボール受動歩行ロボットを用いた実験授業およびその評価	衣笠 哲也
(公財)ウエスコ学術振興財団	日本産ヤリテンツキ (カヤツリグサ科植物) の系統分類学的研究	矢野 興一
(公財)ウエスコ学術振興財団	質問紙と加速度計で評価した小学生の運動時間は一致するか？	笹山 健作
(公財)ウエスコ学術振興財団	石英地質温度計の高温変成岩および変形岩への適用	今山 武志
(公財)カシオ科学振興財団	環境問題を題材に人類史を反省するとともに今日的な統計的リテラシーを備えた人材を育成する実証的研究	福田 博人
(公財)山陽放送学術文化財団	Nd-Sr 同位体組成による隠岐変成岩の岩石推定：日本列島基盤起源の探究	今山 武志
(公財)中国電力技術研究財団	研究発表会等開催助成 (2017 年度 (第 68 回) 電気・情報関連学会中国支部連合大会)	澤見 英男
(公財)八雲環境科学振興財団	アクセプター集積多孔性亜鉛ポルフィリン錯体に基づく光電荷分離システムの創製と光電変換特性評価	満身 稔

種 目	研究課題名	研究代表者
(公財)八雲環境科学振興財団	国際研究交流助成（第 19 回国際植物科学会議）	矢野 興一
(公財)八雲環境科学振興財団	研究集会助成（第 54 回フローインジェクション分析講演会－FIA 及び関連技術による環境化学分析の新展開－）	横山 崇
(公財)両備檉園記念財団	岡山県下の小中高等学校における方言教育の過去・現在の様相、および未来に向けての方言教材の作成	札埜 和男

表 4-6 2018 年度採択研究課題

種 目	研究課題名	研究代表者
(公財)ウエスコ学術振興財団	含ヘテロパイ電子系ユニットを有するプリンタブル太陽電池材料の開発	岩永 哲夫
(公財)ウエスコ学術振興財団	高梁市布賀鉾山産ホウ酸塩鉾物のホウ素同位体に基づく鉾床生成環境とホウ素の起源について	小林 祥一
(公財)ウエスコ学術振興財団	高分子基複合材料の衝撃層間せん断特性評価法の確立	中井 賢治
(公財)ウエスコ学術振興財団	防災気象情報基準を備えた雨量計システムの開発	佐藤 丈晴
(公財)ウエスコ学術振興財団	日本産ヤリテンツキ（カヤツリグサ科植物）の系統分類学的研究	矢野 興一
(公財)ウエスコ学術振興財団	International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity 2018 の国際学会参加への助成	笹山 健作
う ま 味 研 究 会	うま味成分長期投与による糖尿病性消化管運動機能不全の改善を目指した基盤研究	江藤 真澄
(公財)大 林 財 団	レブカの歴史的建造物の特徴と発展に関する研究	福本 雅美
(公財)岡 山 工 学 振 興 会	炭素（sp）－窒素結合形成を経由したイナミン誘導体の合成と続く応用反応	奥田 靖浩
(公財)小野医学研究財団	ロイコトリエン B ₄ 受容体の段階的リン酸化による細胞応答変換機構の発見と新規阻害剤開発への応用	中村 元直
(公財)小野小児医学奨学財団	BBB 透過型エピゲノム作用薬による発達障害の新しい治療法の開発	濱田 博喜
(公財)コスメトロジー研究振興財団	有害物侵入を最前線で防ぐ新規な皮膚細胞機構の発見と皮膚保護剤創製への応用	中村 元直
(公財)小 柳 財 団	未利用資源のピオーネ廃棄物を利用した機能性食品・機能性化粧品の開発	濱田 博喜
(公財)鈴木謙三記念医科学応用研究財団	活性酸素種によるリンパ管の血圧緩衝作用障害：高血圧症の新規病態機序	向田 昌司
(公財)中 央 教 育 研 究 所	統計教育における日本とニュージーランドの教科書比較	福田 博人
(公財)電 気 通 信 普 及 財 団	顧客との価値共創とキャッシュレス化の影響	張 婧
(公財)日 本 科 学 協 会	14th International congress of parasitology（第 14 回国際寄生虫学会）	林 慶
(公財)三 島 海 雲 記 念 財 団	皮膚での苦味受容体を起点とした新奇生体防御機構の解明とその応用	中村 元直
(公財)八雲環境科学振興財団	岡山県牛窓海域におけるスナメリの生育個体数の把握	亀崎 直樹
(公財)両備檉園記念財団	第 73 回日本衛生動物学会西日本支部大会ならびに第 13 回日本衛生動物学会西日本支部例会	小林 秀司
(公財)両備檉園記念財団	ロイコトリエン B ₄ 受容体の親和性変換機構の発見と新規拮抗剤開発への応用	中村 元直
(公財)両備檉園記念財団	池田光正ほか筆「射山百首和歌」（林原美術館蔵）の研究	山崎 桂子

4.3 共同研究

本学の研究者と企業や学外の研究機関等が役割分担を決め、共同で研究を推進する共同研究の過去5年間の推移を下図に示す。尚、下図のデータは研究完了年度で集計している。また、2017年度および2018年度に共同研究を行った各年度全ての研究題目を表4-7、表4-8に掲載する。

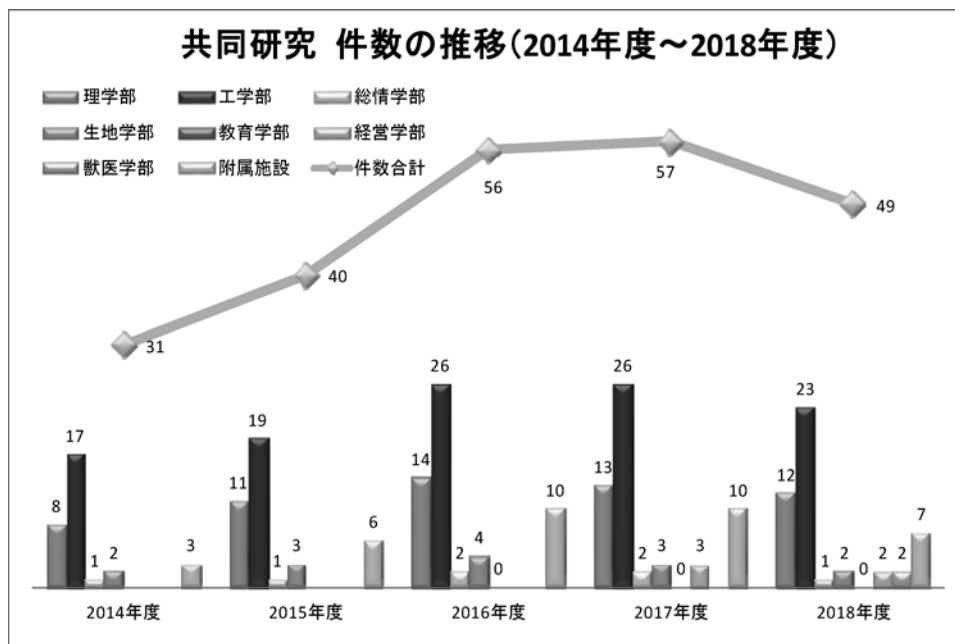


図 4-7 共同研究 契約件数の推移

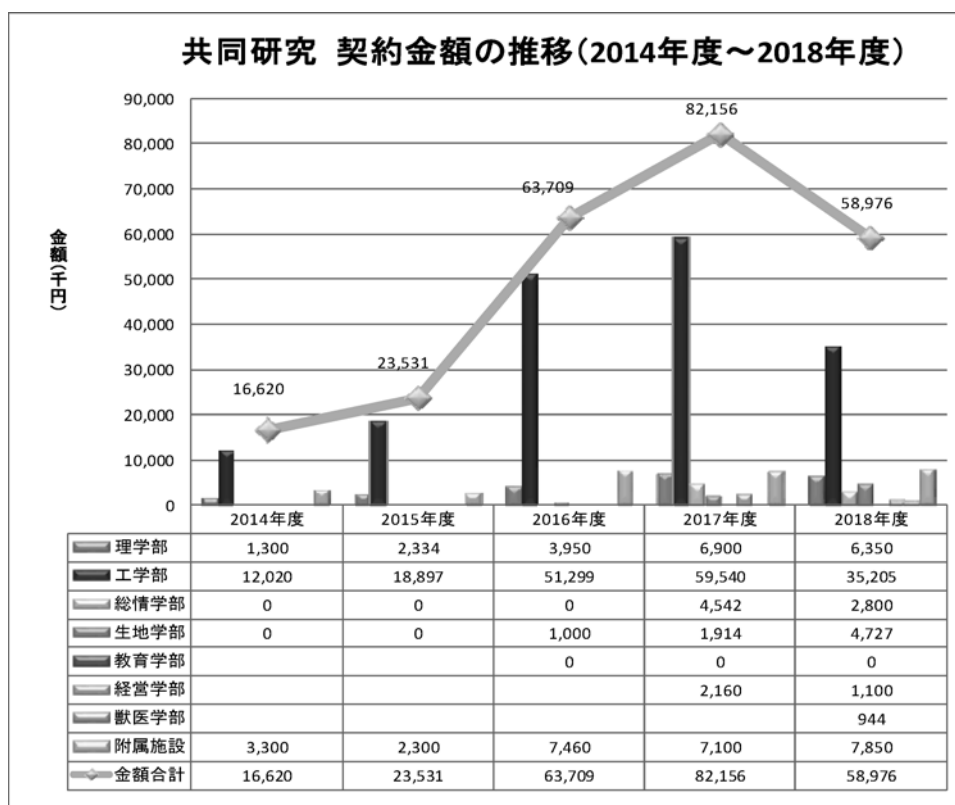


図 4-8 共同研究 契約金額の推移

表 4-7 2017 年度共同研究 研究題目

所 属	氏 名	共同研究先	研究題目
理 学 部	石田 弘樹	医療機器関連企業	体外循環用血液回路等の流れの計測と解析
理 学 部	伊代野 淳	名古屋大学 未来材料・システム研究所	原子核乾板超高速読み取り装置 HTS によるミュー粒子トモグラフィーのバックグラウンドとなる低エネルギー粒子解析と重原子核同定への応用
理 学 部	尾崎 真啓	エレクトロニクス関連企業	尿素センサー向け共同開発
理 学 部	小林 秀司	岡山県ツキノワグマ研究グループ	岡山県における哺乳動物、特に中・大型獣の保全と管理に関する研究
理 学 部	小林 祥一	(株)蒜山地質年代学研究所	熱水および断層活動に伴う変質鉱物に関する研究
理 学 部	佐藤 泰史	東北大学 多元物質科学研究所	白色 LED・LD 応用が可能な新しい無機系蛍光体の高純度合成と分光学的手法を用いた欠陥および局所構造変化の評価
理 学 部	豊田 新	(株)蒜山地質年代学研究所	断層岩の年代測定および堆積物の起源地推定
理 学 部	橋川 成美	食品関連企業	乳酸菌が脳機能に及ぼす影響の検討
理 学 部	二見 翠	岡山大学	動物細胞へのタンパク質導入技術の開発
理 学 部	三井 亮司	(公財)あきた企業活性化センター	化粧品・医薬部外品素材としての天然保湿因子の探索と生産技術の開発
理 学 部	三井 亮司	医薬品関連企業	微生物による植物由来成分の変換及びその制御に関する研究
理 学 部	満身 稔	自然科学研究機構 分子科学研究所	フラーレン内包多孔性亜鉛ポルフィリン錯体の光電変換特性評価
理 学 部	渡邊 誠	自然科学研究機構 国立天文台	惑星観測用多層共役大気ゆらぎ補償光学装置の開発
理 学 部	渡邊 誠	計測機器関連企業	波面計を用いた水中の温度揺らぎ構造の測定技術に関する研究
工 学 部	麻原 寛之	東京理科大学	熱電池専用 DC-DC 電力変換器 (コンバータ) 実用化への基礎要素技術開発
工 学 部	安藤 秀哉	化粧品関連企業	しみ、しわなど皮膚の老化現象を予防する新規機能性化粧品を開発するための基礎研究
工 学 部	安藤 秀哉	化粧品・食品関連企業	人種差に対応した皮膚メラニンの美白およびメラニン生成に及ぼす真皮線維芽細胞の影響解析
工 学 部	安藤 秀哉	電気・ガス関連企業	和紙の製造過程で得られるミツマタエキスのしみ予防化粧料としての有効利用
工 学 部	安藤 秀哉	医療品関連企業	JBP 社の各種プラセンタ原料および JBP485 の化粧品原料としての作用を明らかにする
工 学 部	安藤 秀哉	食品関連企業	サンタベリー果実抽出物とレスバートロールの皮膚に与える効果の検討
工 学 部	大塚 隆尚	(独)産業技術総合研究所	鎮痛・麻酔の分子機序に関する研究
工 学 部	押谷 潤	機械関連企業 他 3 機関	流体中の異質物体挙動の数値計算、実験及び計測に係る共同研究
工 学 部	押谷 潤	機械関連企業	粒状混合鉱物の乾式比重分離技術の開発
工 学 部	笠 展幸	岡山県工業技術センター	次世代インバータの制御と性能評価
工 学 部	笠 展幸	総合電機企業	エネルギーハーベスター用高効率 DC 変換回路の開発
工 学 部	笠 展幸	機械関連企業	電気自動車主機モータ用インバータの高性能化・高信頼化に関する研究
工 学 部	草野 圭弘	東京工業大学 フロンティア材料研究所	(Al, Fe) ₂ O ₃ 固溶体の高圧合成と磁気特性
工 学 部	クルモフ バレリー	電気関連企業	電力施設の保守運營業務における産業用ドローンの安全飛行および高解像度撮影技術の研究

所 属	氏 名	共同研究先	研究題目
工 学 部	清水 一郎	岡山県警察本部 他 2 機関	ボール衝突時の車体曲損変形に関する検討
工 学 部	清水 一郎	石州瓦工業組合 他 1 機関	石州軽量瓦の量産化に関する研究
工 学 部	清水 一郎	自動車関連企業 他 1 機関	自動車用材料の微細構造分析技術
工 学 部	清水 一郎	医療機器関連企業	世界初の高性能純国産生体吸収性マグネシウム合金製ステントの形状設計
工 学 部	清水 一郎	防振・除振関連企業	ゴムの二軸圧縮に伴う変形挙動の解明
工 学 部	中川 恵友	金属加工関連企業	液体急冷法による急凝固合金薄帯の製作について
工 学 部	野嶽 勇一	食品関連企業	乳酸菌飲料『美ら Bio』機能性訴求の検討
工 学 部	野嶽 勇一	化学・製紙関連企業	乳児期の皮膚トラブルの解消を目指したおむつ素材と皮膚常在菌の相関に関する研究
工 学 部	山本 俊政	安芸太田町	好適環境水を利用したサケ・マス類の陸上養殖試験
工 学 部	山本 俊政	北海道大学 低温科学研究所	有機物の安定同位体比技術の産学応用に関する研究
工 学 部	山本 俊政	福島県立福島高等学校	好適環境水による魚の成長変化を追跡して次世代陸上養殖の可能性を探る研究
工 学 部	山本 俊政	食品関連企業	好適環境水を利用したサルエビ等甲殻類の陸上養殖試験
総合情報学部	徳澤 啓一	佐世保市	福井洞窟の研究
総合情報学部	柳 貴久男	ソフトウェア関連企業	顧客と店舗スタッフの関係性を伴うビッグデータ分析手法
生物地球学部	大橋 唯太	(独)農業・食品産業技術総合研究機構	数値気象モデルによる精密気象データ作成技術に関する研究
生物地球学部	西戸 裕嗣	東京大学	鉱物に記録された放射線誘起欠陥の定量評価
生物地球学部	星野 卓二	安芸太田町	三段峡の植物・地質調査
経 営 学 部	村松 潤一	自動車機器関連企業	サービスエコシステムを対象としたサービスロジックに関する研究
経 営 学 部	村松 潤一	建設機械関連企業	サービス概念に基づくビジネスモデルの構築
経 営 学 部	森 裕一	北海道大学 情報基盤センター	大規模データ科学に関する多目的研究
附 属 施 設	赤司 治夫	化学・化粧品関連企業	光増感反応に関する研究
附 属 施 設	岩井 良輔	化学関連企業	細胞凝集塊の形成技術の開発
附 属 施 設	中谷 達行	ちゅうごく産業創造センター	Diamond-Like-Carbon による透析用人工血管の機能
附 属 施 設	中谷 達行	東北大学 流体科学研究所	プラズマ流による気泡生成機構に関する研究
附 属 施 設	中谷 達行	医療機器関連企業	生体吸収性マグネシウム合金製ステントの表面機能化
附 属 施 設	中谷 達行	機械関連企業	医療デバイスに有効な成膜法及び電源開発
附 属 施 設	中村 修	埼玉大学	希土類水素化物の物性とデバイス応用
附 属 施 設	中村 修	東京大学 物性研究所	YbH _{2+x} の磁性と伝導
附 属 施 設	兵藤 博信	(株)蒜山地質年代学研究所	高精度高確度の放射年代測定

表 4-8 2018 年度共同研究 研究題目

所 属	氏 名	共同研究先	研究題目
理 学 部	石田 弘樹	総合電機企業附属研究所	家電向け低周波 Wireless 給電の研究
理 学 部	石田 弘樹	精密機器関連企業	腕時計への低周波無線給電の適用可能性の検討
理 学 部	石田 弘樹	医療機器関連企業	体外循環用血液回路内等の流れの可視化と解析
理 学 部	伊代野 淳	名古屋大学 未来材料・システム研究所	全粒子検索可能な原子核乾板解析による宇宙線重原子核の自動同定への応用
理 学 部	大坂 昇	化学関連企業	セルロースナノファイバーを添加剤とした高強度・新素材「水膨張ゴム」の開発
理 学 部	尾崎 真啓	エレクトロニクス関連企業	尿素センサー向け共同開発
理 学 部	小林 祥一	(株)蒜山地質年代学研究所	熱水および断層活動に伴う変質鉱物に関する研究
理 学 部	佐藤 泰史	東北大学 多元物質科学研究所	白色 LED・LE に応用できる新規酸化窒化物蛍光体の高純度試料合成と発光特性
理 学 部	豊田 新	高知大学 海洋コア総合研究センター	海底熱水性重晶石及び硬石膏の放射非平衡年代測定
理 学 部	豊田 新	(株)蒜山地質年代学研究所	断層岩の年代測定および堆積物の起源地推定
理 学 部	橋川 成美	食品関連企業	乳酸菌が脳機能に及ぼす影響の検討
理 学 部	林 謙一郎	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所	AID 技術に必要な化合物開発
理 学 部	林 謙一郎	製薬関連企業 他 1 機関	MA-35 に関する研究
理 学 部	三井 亮司	医薬品関連企業	微生物による植物由来成分の変換及びその制御に関する研究
理 学 部	渡邊 誠	計測機器関連企業	波面計を用いた水中の温度揺らぎ構造の測定技術に関する研究
工 学 部	麻原 寛之	学校法人東京理科大学	熱電池専用 DC-DC 電力変換器 (コンバータ) 実用化への基礎要素技術開発
工 学 部	荒木 圭典	自然科学研究機構 核融合科学研究所	拡張 MHD モデルにおける基本的エネルギー輸送特性の解析
工 学 部	安藤 秀哉	化粧品・食品関連企業	人種差に対応した皮膚メラニンの美白およびメラニン生成に及ぼす真皮線維芽細胞の影響解析
工 学 部	安藤 秀哉	食品関連企業	乳酸菌 N320 株による紫外線イメージ軽減効果の作用機序解明
工 学 部	安藤 秀哉	医療品関連企業	JBP 社の各種プラセンタ原料および JBP485 の化粧品原料としての作用評価
工 学 部	安藤 秀哉	化粧品関連企業	しみ、しわなど皮膚の老化現象を予防する新規機能性化粧品を開発するための基礎研究
工 学 部	押谷 潤	機械関連企業 他 3 機関	流体中の異質物体挙動の数値計算、実験及び計測に係る共同研究
工 学 部	笠 展幸	岡山県工業技術センター	次世代インバータの制御と性能評価
工 学 部	笠 展幸	製薬関連企業	電気自動車電気システムに関する研究
工 学 部	笠 展幸	機械関連企業	自動車モータ試験機用インバータの高性能化・高信頼化に関する研究
工 学 部	クルモフ バレリー	電気関連企業	電力施設の保守運營業務における産業用ドローンの安全飛行および高解像度撮影技術の研究 (フェーズⅢ)
工 学 部	近藤 千尋	機械関連企業	エンジン筒内の流動計測に関する基礎研究
工 学 部	近藤 千尋	千葉大学	蛍光トレーサ粒子を使ったエンジン内流動の蛍光 PIV 計測
工 学 部	清水 一郎	機械関連企業	金属材料への細穴化工技術の向上
工 学 部	清水 一郎	防振・除振関連企業	ゴムの二軸圧縮に伴う変形挙動の解明
工 学 部	清水 一郎	石州瓦工業組合 他 1 機関	新規瓦用粘土を用いた業界最軽量の石州瓦の開発

所 属	氏 名	共同研究先	研究題目
工 学 部	清水 一郎	医療機器関連企業	世界初の高性能純国産生体吸収性マグネシウム合金製ステントの形状設計
工 学 部	清水 一郎	機械関連企業	自動車用材料の微細構造分析技術
工 学 部	關 正憲	化学関連企業	スラスト型転動疲労試験機によるグリースの寿命評価
工 学 部	中川 恵友	金属加工関連企業	液体急冷法による急冷凝固合金薄帯の製作について
工 学 部	山本 俊政	安芸太田町	好適環境水を利用したサケ・マス類の陸上養殖試験
工 学 部	山本 俊政	福島県立福島高等学校	好適環境水による魚の成長変化を追跡して次世代陸上養殖の可能性を探索研究
工 学 部	山本 俊政	北海道大学 低温科学研究所	公的環境水で飼育した魚・甲殻類のアミノ酸安定同位体比の測定
工 学 部	山本 俊政	食品関連企業	バナメイエビのせんべい利用の検討
工 学 部	山本 俊政	土木工事関連企業	モンゴル国における好適環境水を用いた海産魚等の養殖試験
総合情報学部	徳澤 啓一	佐世保市	福井洞窟の研究（その2）
生物地球学部	星野 卓二	安芸太田町	三段峡の植物・地質調査
生物地球学部	星野 卓二	倉敷市	栽培ブドウと野生種シラガブドウの交配による新品種の作出
経 営 学 部	村松 潤一	建設機械関連企業	サービス概念に基づくビジネスモデルの構築
経 営 学 部	森 裕一	情報・システム研究機構 統計数理研究所	大規模学術文献 DB による機関内・機関間の研究力の分析と活用
経 営 学 部	森 裕一	情報・システム研究機構 統計数理研究所	大規模データの特徴抽出と情報表現の研究
獣 医 学 部	飯田 貴次	愛媛大学	ヒラメのリンホシスチス病の病態解明に関する研究
獣 医 学 部	伊豆 弥生	順天堂大学	前十字靭帯損傷予防に向けた新たなリスク要因としてのⅫ型コラーゲンの機能の解明
獣 医 学 部	宇根 有美	愛媛大学 沿岸環境科学センター	在来両生類の保全に影響する環境因子に関する研究
獣 医 学 部	杉山 晶彦	健康食品関連企業	2型糖尿病モデルラットにおける石蓮花抽出物の改善効果
獣 医 学 部	竹谷 浩介	製薬関連企業	腎糸球体血行動態に対するバソプレシンの作用の解明
附 属 施 設	赤司 治夫	化学・化粧品関連企業	光増感反応に関する研究
附 属 施 設	岩井 良輔	化学関連企業	細胞凝集塊の形成技術の開発
附 属 施 設	中谷 達行	機械関連企業	医療デバイスに有効な成膜法及び電源開発
附 属 施 設	中谷 達行	医療機器関連企業	生体吸収性マグネシウム合金製ステントの表面機能化
附 属 施 設	中村 修	埼玉大学	希土類水素化物の物性とデバイス応用
附 属 施 設	中村 修	東京大学 物性研究所	YbH _{2+x} の磁性と伝導
附 属 施 設	兵藤 博信	(株)蒜山地質年代学研究所	高精度高確度の放射年代測定

4.4 受託研究

企業や学外の研究機関等からの研究の委託を受けて、研究者が研究を行いその成果を委託者に報告する受託研究の過去5年間の推移を下図に示す。尚、下図のデータは研究完了年度で集計している。また、2017年度および2018年度に受託研究を行った各年度全ての研究題目を表4-9、表4-10に掲載する。

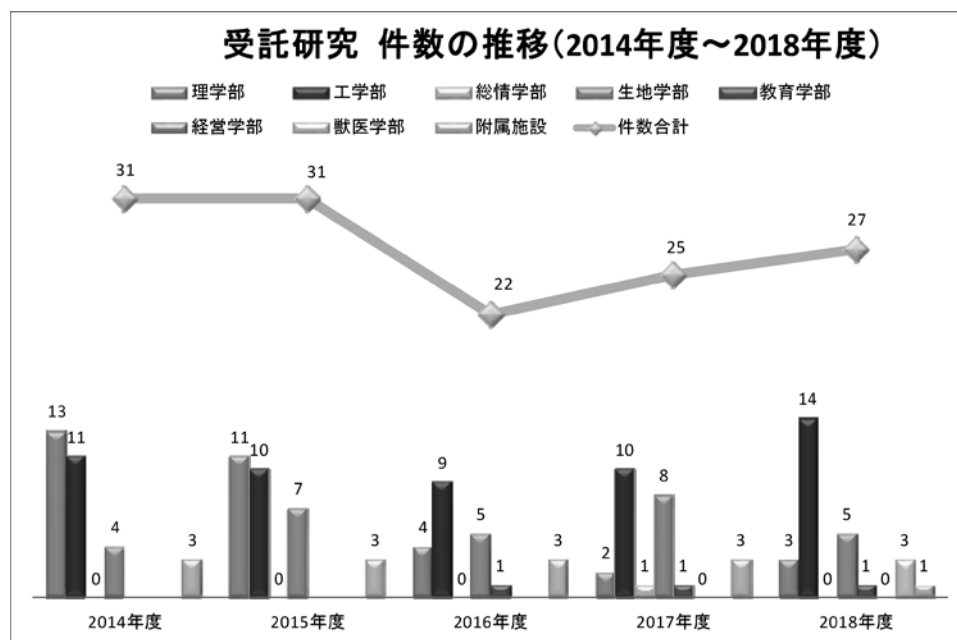


図 4-9 受託研究 契約件数の推移

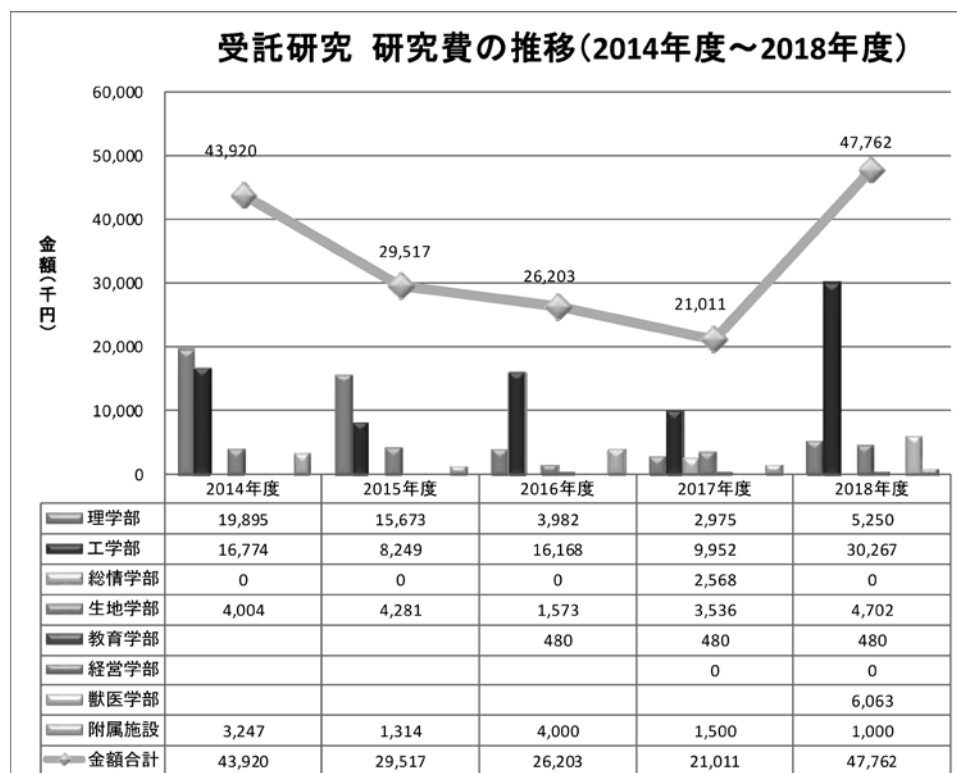


図 4-10 受託研究 研究費の推移

表 4-9 2017 年度受託研究 研究題目

所 属	氏 名	委託元	研究題目
理 学 部	濱田 博喜	岡山県	岡山県産ピオーネ皮由来のレスベラトロールを活用した新規機能性素材の開発
理 学 部	林 謙一郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	植物のタンパク質分解系を応用した高機能 RNA ウイルスベクター遺伝子操作・細胞改変技術の開発
工 学 部	安藤 秀哉	製薬関連企業	プロカル AD（ロート製薬社製）の培養並びに培養産生物に関する基礎的研究
工 学 部	江面 嗣人	大洲市	肱南地区の歴史的町並み保存対策調査
工 学 部	押谷 潤	産業廃棄物処理関連企業	建設混合廃棄物残渣の選別技術の開発
工 学 部	清水 一郎	瓦斯関連企業	プラスチック材料の変形挙動解析に有効な二軸圧縮特性の測定条件検討に関する研究
工 学 部	中西 啓二	建築・施工関連企業	スカイトラス工法の構造耐力に関する研究
工 学 部	中山 哲士	真庭森林組合	事務所棟新築工事に係る建物環境調査
工 学 部	野嶽 勇一	食品関連企業	多菌種発酵ヨーグルトの腸内細菌叢への影響に関する研究
工 学 部	平山 文則	佐那河内村	佐那河内村新庁舎基本設計策定
工 学 部	馬淵 大宇	建材関連企業	デザイン性に優れた壁・天井一体化製品「空間創造システム」開発（天井プロジェクト VR による製品開発の円滑化、建築設計者からのニーズ分析）
工 学 部	八百板季穂	北海道大学	錦帯橋世界遺産登録提案書素案作成等業務（錦帯橋委託第 16 号）
総合情報学部	劉 渤江	岡山県	プログラミングコンテストへの道
生物地球学部	佐藤 丈晴	国土交通省中国地方整備局	異常気象時の交通規制対策
生物地球学部	佐藤 丈晴	地質コンサルタント関連企業	地上雨量計を用いた警戒避難基準の検討
生物地球学部	佐藤 丈晴	地質コンサルタント関連企業	溪流の危険度評価に関する研究
生物地球学部	佐藤 丈晴	地質コンサルタント関連企業	雨量データ災害予測に関する研究
生物地球学部	白石 純	山口市	史跡周防鋳銭司跡出土遺物の胎土分析
生物地球学部	富岡 直人	笠岡市	津雲貝塚出土動物遺存体の研究
生物地球学部	波田 善夫	国土交通省中国地方整備局	百間川・旭川における貴重植物の保全・再生について（百間川におけるオニバス再生の研究）
生物地球学部	宮本 真二	岩国市	文化的景観錦川下流域における土地形成に関する調査業務
教 育 学 部	高原 周一	美作市・美作市教育委員会	理科大好き応援事業 小学校用理科教材の開発と「おもしろ実験授業」の実施
附 属 施 設	中谷 達行	医療器具関連企業	マグネシウムステントの DLC コーティングによる表面機能化
附 属 施 設	中谷 達行	医療器具関連企業	DLC プラズマ技術の応用による医療材料の表面機能化に関する研究開発
附 属 施 設	中谷 達行	機械関連企業	医療用小径長尺チューブ内への DLC 成膜技術の開発

表 4-10 2018 年度受託研究 研究題目

所 属	氏 名	委託元	研究題目
理 学 部	岩永 哲夫	岡山県	大面積プリントブル太陽電池を指向した光耐久性有機色素の開発
理 学 部	林 謙一郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	植物のタンパク質分解系を応用した高機能 RNA ウイルスペクター遺伝子操作・細胞改変技術の開発
理 学 部	東村 秀之	岡山県	安価な材料かつ低環境負荷な製法を用いる高性能絶縁材料の開発
工 学 部	折田 明浩	岡山県	ナノ繊維光触媒を利用した CO ₂ フリー水素製造シートデバイス開発
工 学 部	笠 展幸	岡山県	機電一体化 SiC インバータの小型・高効率化および高信頼性化に関する研究
工 学 部	安藤 秀哉	製薬関連企業	プロカル AD（ロート製薬社製）の培養並びに培養産生物に関する基礎的研究
工 学 部	江面 嗣人	大洲市	肱南地区の歴史的町並み保存対策調査
工 学 部	笠 展幸	総合電機企業	エンジンを有する電動車両における CO ₂ 排出量を改善する排気熱発電機構の実装実証
工 学 部	中井 賢治	輸送用機器関連企業	ガラス繊維強化プラスチック（GFRP）材の破断機構に関する考察
工 学 部	中西 啓二	建築・施工関連企業	エスケーシャーネットのボルト接合に関する研究
工 学 部	松浦 宏治	機械関連企業	ファインバブルの挙動観察とメカニズムの調査
工 学 部	馬淵 大宇	建材関連企業	デザイン性に優れた壁・天井一体化製品「空間創造システム」開発（天井プロジェクト VR による製品開発の円滑化、建築設計者からのニーズ分析）
工 学 部	八百板季穂	北海道大学	錦帯橋世界遺産登録提案書素案作成等業務（錦帯橋委託第 12 号）
工 学 部	八百板季穂	北海道大学	大内宿保存対策調査
工 学 部	八百板季穂	北海道大学	竹富島歴史的景観形成地区保存計画書見直しに関する調査委託
工 学 部	弥田 俊男	人材サービス関連企業	新見市における具体案件を活用したまちづくりの共同研究
工 学 部	弥田 俊男	食品関連企業	魚醤油体験施設を活用した地域活性化手法に関する研究
生物地球学部	佐藤 丈晴	国土交通省中国地方整備局	異常気象時の交通規制対策
生物地球学部	佐藤 丈晴	地質コンサルタント関連企業	雨量データ災害予測に関する研究
生物地球学部	佐藤 丈晴	地質コンサルタント関連企業	雨量データを用いた災害予測手法の高度化
生物地球学部	佐藤 丈晴	地質コンサルタント関連企業	LP データを用いた事業優先度の設定
生物地球学部	佐藤 丈晴	地質コンサルタント関連企業	地上雨量計を用いた警戒避難基準の検討
生物地球学部	白石 純	山口市	凌雲寺跡出土遺物の胎土分析
生物地球学部	波田 善夫	国土交通省中国地方整備局	百間川・旭川における貴重植物の保全・再生について（百間川におけるオニバス再生の研究）
生物地球学部	波田 善夫	特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合	鯉ヶ窪湿原における植生調査
経 営 学 部	山口 隆久	広告関連企業	PBL（課題解決型学習）を用いた商業施設における多様化する地域での役割の再発見と活性化に関する研究
経 営 学 部	鷺見 哲男	吉備高原サラブリトレーニング	PBL（課題解決型学習）を用いて過疎化・少子高齢化する吉備中央町を教材として中山間地域での役割の再発見と活性化に関する研究

所 属	氏 名	委託元	研究題目
教 育 学 部	高原 周一	美作市・美作市教育委員会	理科大好き応援事業 小学校用理科教材の開発と「おもしろ実験授業」の実施
獣 医 学 部	小野 文子	製薬関連企業	低分子シャペロンによるプリオン感染霊長類の治療研究
獣 医 学 部	手島 玲子	厚生労働省	諸外国等における新たな育種技術（NBT）を用いた食品等の開発状況及び規則制度調査
獣 医 学 部	渡辺 俊平	九州大学	構造生物学的手法による麻疹ウイルス中枢神経持続感染の治療薬創出を目指した研究
附 属 施 設	中谷 達行	機械関連企業	医療用小径長尺チューブ内への DLC 成膜技術の開発

4.5 受託研究に関する取扱規程および細則

以下に学校法人加計学園の受託研究に関する取扱規程および細則を示す。

学校法人加計学園受託研究取扱規程

（趣旨）

第1条 この規程は、学校法人加計学園の専任教職員が、学外から委託を受けて行う調査研究で、これに要する経費を委託者が負担するもの（以下「受託研究」という。）の取扱いについて、必要な事項を定める。

（申込み）

第2条 本学園専任教職員に受託研究を依頼しようとする委託者（機関を含む。）は、受託研究申込書（様式第1号）及び研究費支出計画書（様式第2号）を、理事長に提出し、その承認を得なければならない。

（受入れ）

第3条 受託研究は、本学園の教育研究上有意義であり、かつ、本来の教育研究に支障を生ずるおそれがないと認められる場合に限り受け入れるものとする。

（契約）

第4条 受託研究を受け入れるに当たっては、理事長と委託者との間で受託研究契約書（様式第3号）を作成する。

（責任）

第5条 受託した研究事項等については、契約書に定める研究担当者が全責任をもって、これを遂行しなければならない。

（研究の中断及び中止）

第6条 理事長は、本学園の教育研究等に支障があると認めた場合は、受託研究の一時中断又は中止を命ずることがある。

（研究期間の延長等）

第7条 研究担当者は、受託研究の中止又は研究期間の延長の必要が生じたとき、直ちにその旨を理事長に報告しなければならない。

（研究費）

第8条 委託者は、受託研究契約書による研究費を、本学園に納入するものとする。

2 必要な経費は、これを徴収することができる。

（会計処理）

第9条 受託研究費は、受託研究期間内、別途会計により処理するものとする。

(報告)

第10条 研究担当者は、受託研究の終了後、速やかにその旨、理事長に報告しなければならない。

2 研究担当者は、研究期間終了後、原則として1か月以内に、受託研究結果報告書(様式第4号)を理事長を経て委託者に、受託研究費収支決算報告書(様式第5号)を理事長に提出しなければならない。

(物件の帰属)

第11条 受託研究費により購入した施設設備及び備品等の所有権は、本学園に帰属する。

(知的財産権)

第12条 受託研究の結果生じた知的財産権の帰属に関しては、本学園と委託者の協議により決定する。

(事務所管)

第13条 受託研究に関する事務は、研究担当者の所属する設置校が行うものとする。

(適用除外)

第14条 委託者が外国、外国人、国、地方公共団体その他公法人である場合は、本規程の一部を適用しないことができる。

附 則

この規程は、昭和63年3月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

岡山理科大学受託研究取扱に関する細則

第1条 この細則は、学校法人加計学園受託研究取扱規程(以下「規程」という。)の、岡山理科大学(以下「大学」という。)における運用について必要な事項を定める。

第2条 大学に受託研究に関する小委員会(以下「小委員会」という。)を置く。

第3条 大学に係る受託研究の申込みがあったとき、理事長は、その受入れの審査を小委員会に委嘱することができる。

第4条 小委員会の委員は、学長、副学長、各研究科長、各学部長及び大学事務局長とする。

2 小委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

第5条 受託研究の終了後、研究費に残が生じた場合は、その一部を研究担当者の特別研究費等として配分することができる。

第6条 機器備品の取り扱いは、次のいずれかの方法による。

(1) 委託者(機関を含む。)が機器備品を購入し、大学に現物寄付する。

(2) 機器備品金額の25%を、事務雑費として計上する。

2 前項に規定する事務雑費とは、機器備品購入に伴う諸経費等をいう。

第7条 規程の第8条第2項の必要な経費とは、光熱水費、施設設備利用料及び事務経費をいい、その徴収額は、研究費の10%以内であるとする。

第8条 岡山理科大学専門学校、岡山理科大学附属高等学校等においても、この細則を準用する。

附 則

1 この細則は、昭和63年3月15日から施行する。

2 この細則は、平成11年1月7日から施行する。

3 この細則は、平成22年4月1日から施行する。

4.6 寄付金

学外の団体あるいは個人等から研究の奨励・成果等に対する受け付けた寄付金を下図に過去5年間の推移を示す。また、2017年度および2018年度に寄付をいただいた分野と研究者を表4-11、表4-12に掲載する。

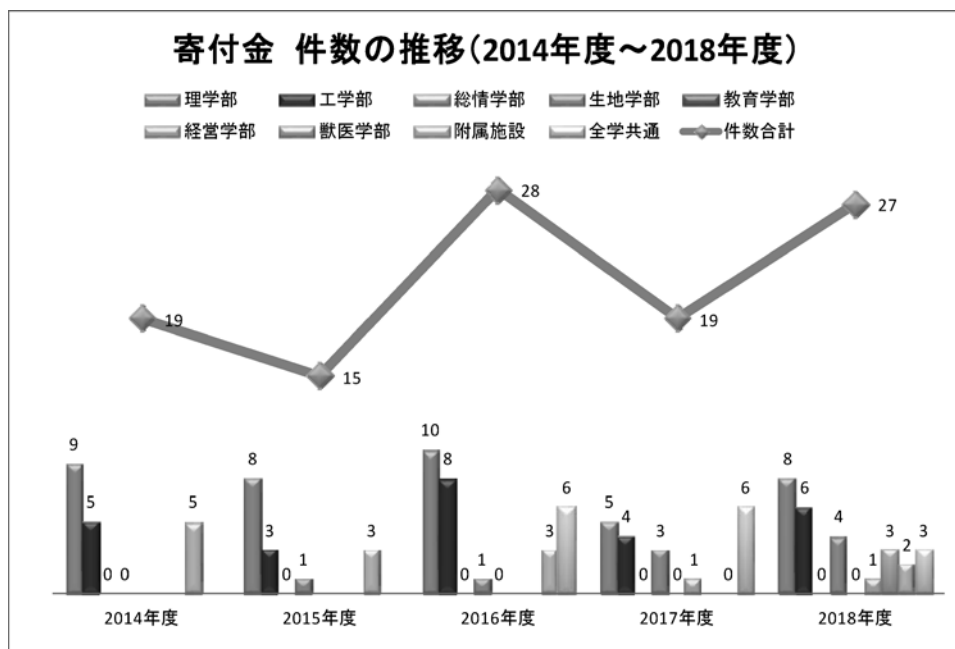


図 4-11 寄付金 件数の推移

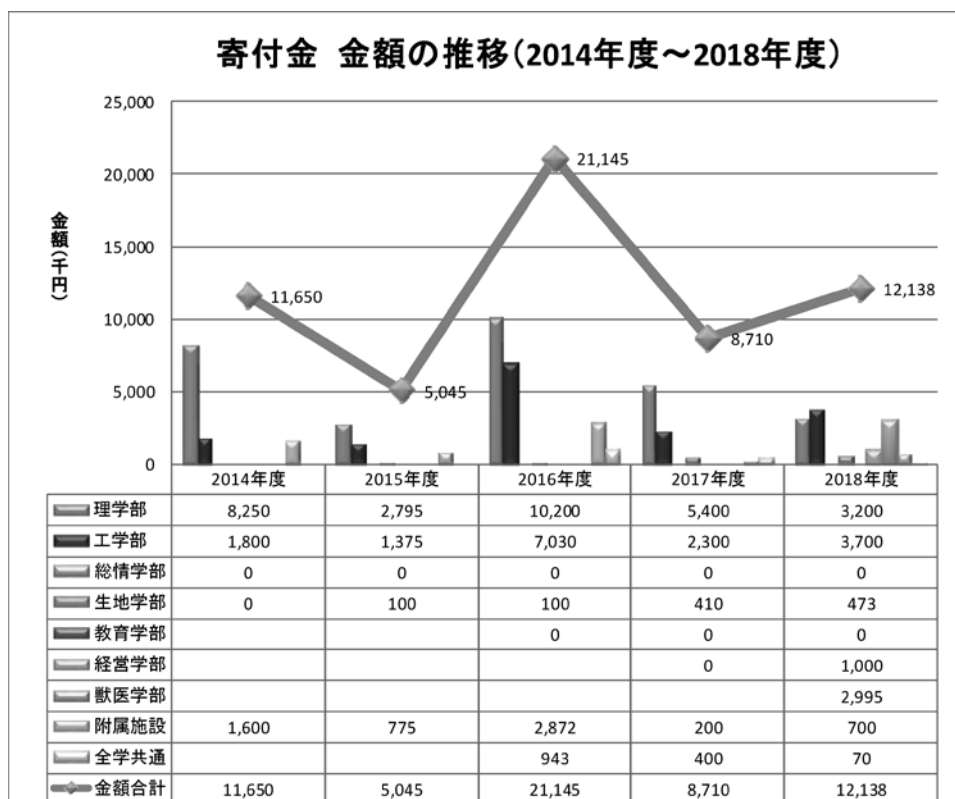


図 4-12 寄付金 金額の推移

表 4-11 2017 年度寄付金

所 属	研究者名	寄 付 者
理 学 部	木場 崇剛	医薬品関連企業
理 学 部	橋川 成美	個人
理 学 部	濱田 博喜	食品・化粧品関連企業
理 学 部	松浦 信康	食品関連企業
理 学 部	三井 亮司	医薬品関連企業
工 学 部	重松 利信	医療機関
工 学 部	重松 利信	医療関連企業
工 学 部	矢城陽一郎	化学関連企業
工 学 部	山崎 雅弘	設備関連企業
生物地球学部	石垣 忍	岡山県自然保護センター
生物地球学部	石垣 忍	(公財)岡山県環境保全事業団
生物地球学部	佐藤 丈晴	コンサルティング関連企業
附 属 施 設	中谷 達行	機械関連企業
全 学	共通	食品・化粧品関連企業
全 学	共通	個人
全 学	共通	個人
全 学	共通	個人
全 学	共通	個人
全 学	共通	個人
全 学	共通	個人

表 4-12 2018 年度寄付金

所 属	研究者名	寄 付 者
理 学 部	濱田 博喜	食品・化粧品関連企業
理 学 部	松浦 信康	健康食品関連企業
理 学 部	松浦 信康	食品関連企業
理 学 部	松浦 信康	化学関連企業
理 学 部	松浦 信康	健康食品関連企業
理 学 部	松浦 信康	食品関連企業
理 学 部	松浦 信康	食品関連企業
理 学 部	三井 亮司	製薬関連企業
工 学 部	押谷 潤	鉄鋼関連企業
工 学 部	押谷 潤	リサイクル関連企業
工 学 部	重松 利信	IT 関連企業
工 学 部	重松 利信	医療関連企業
工 学 部	矢城陽一郎	化学関連企業
工 学 部	山崎 雅弘	建材関連企業
生物地球学部	石垣 忍	岡山県自然保護センター
生物地球学部	亀崎 直樹	教育関連企業
生物地球学部	亀崎 直樹	個人
経 営 学 部	辻野 義雄	化粧品関連企業
獣 医 学 部	尾崎 博	前任校より移管
獣 医 学 部	小野 文子	商社
獣 医 学 部	下川 孝子	前任校より移管
附 属 施 設	金枝 敏明	医療関連企業

所 属	研究者名	寄 付 者
附 属 施 設	金子 明裕	製薬関連企業
全 学		個人
全 学		個人
全 学		個人

5 文部科学省等選定事業

研究・社会連携室が申請に係った文部科学省等選定事業において、2017年度～2018年度に教育研究活動を行った事業を示す。

補助事業名	地（知）拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
プロジェクト名	地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業
事業推進責任者	岡山理科大学 副学長 平野 博之
事業期間	2015年度～2019年度 5年間
補助金額	2017年度：2,500,000円 2018年度：750,000円
事業内容	地域の大学が連携し、地方自治体や経済団体等と協働して、地域課題の解決と振興をおこない、「教育改革」「域学連携」「産学連携」を通して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革に取り組むことを目的とする。
連携大学	岡山県立大学（代表校）、岡山大学、岡山理科大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学

補助事業名	私立大学研究ブランディング事業【タイプB】世界展開型
プロジェクト名	恐竜研究の国際的な拠点形成 ーモンゴル科学アカデミーとの協定に基づくブランディングー
研究代表者	生物地球学部 教授 石垣 忍
事業期間	2016年度～2020年度 5年間
補助金額	2017年度 : 47,000,000円 研究施設助成 : 8,177,000円（補助対象事業経費 16,355,250円） 研究装置助成 : 29,183,000円（補助対象事業経費 58,367,520円） 2018年度 : 48,000,000円
事業内容	本事業は、本学が協定を締結しているモンゴル科学アカデミーとの連携に基づき、ゴビ砂漠で豊富に産出する恐竜化石を対象に骨化石の構造分析や生痕化石の形状から恐竜の生理生態学的な特性を解明するとともに、新たな年代測定法を用いて地質層序を明確にして恐竜進化の大陸間対比を行う。また、研究・教育・広報の機能を持つ恐竜学博物館を本学に設置し、モンゴル及び日本の若手研究者育成と本学のブランド形成の拠点とする。
ホームページ	http://dinosaur.ous.ac.jp

補助事業名	2018年度私立大学等研究設備整備費等補助金
事業名	核磁気共鳴装置（FT-NMR）
管理責任者	工学部 バイオ・応用化学科 教授 折田 明浩
事業期間	2018年度
補助金額	2018年度：9,762,000円
補助対象事業経費	30,240,000円
事業内容	核磁気共鳴装置（NMR）は有機化学の合成実験には必須の非破壊分析装置で、原料の純度確認に始まり生成物の同定までルーチンで利用されている。2台の装置がフル稼働していたが、うち1台が老朽化による故障等が頻発し研究に支障があることから、リプレイスして研究の効率化を図ることを目的とする。新規装置はプローブの高性能化により高分解能を有し、また、液体窒素の蒸発抑制装置により自動で再液化ができ、定期メンテナンスの簡略化と、充填忘れによる事故が回避できる。

6 学内共同研究の活性化に向けた取り組み

6.1 岡山理科大学プロジェクト研究推進事業

2016年度より岡山理科大学の研究活動を活性化させ、優れた研究グループの重点化・拠点化を目的とした「岡山理科大学プロジェクト研究推進事業 Grant for Promotion of OUS Research Projects」を開始した。本事業は、岡山理科大学を代表する特色ある研究の育成を目指すものであり、特に社会的要請のある課題解決や学外の競争的資金を獲得するためのスタートアップとなる研究に助成を行っている。

1. 配分対象

岡山理科大学の研究者が共同して取り組む研究グループを対象とし、公聴会の実施後、研究・社会連携機構運営委員会にて審査を行い、学長が決定する。

公募する研究課題は下記区分のとおり。

- (A) 社会的要請の強い研究
- (B) 学外の大型プロジェクトに申請予定の研究
- (C) 若手研究者（採択年度の4月1日現在において39歳以下）が代表の研究

2. 申請要件

- (1) 一人の研究者が参加できるのは1つの研究課題のみ
- (2) (C)は、若手研究者が、イニシアチブをとるグループ研究
- (3) 研究期間は原則2年間

3. 応募資格

2名以上のグループで申請。申請者（研究代表者）およびプロジェクトメンバーは、岡山理科大学の専任教員（教授・准教授・講師・助教）のみ。

4. 課題ごとの応募金額

100万円～500万円（年額）

※2年目の研究費は1年目の配分金額の1/2以下

5. 公聴会

研究代表者によるプレゼンテーションを実施。

内 容：発表15分、質疑応答5分

審査員：学長、副学長、大学事務局長、研究・社会連携機構長、研究・社会連携センター長、研究・社会連携センター副センター長



2016年度公聴会

6. 進捗状況の報告

研究内容を掲載したホームページを作成し、その後随時ホームページを更新。

http://renkei.office.ous.ac.jp/ous_project-2

7. 報告会

年度末に、研究代表者は「研究成果報告書」を提出し、報告会にて「プレゼンテーション」または「ポスター発表」にて研究発表を行う。

学長、副学長、大学事務局長、研究・社会連携機構長、研究・社会連携センター長、研究・社会連携センター副センター長が審査を行い、「最優秀賞」、「学長賞」を決定。



2017 年度報告会

採択一覧

2016 年度

研究代表者	研究テーマ
バイオ・応用化学科 折田 明浩	「医療・生体関連分野への応用展開を指向した発光型センシング小分子の創製」
生命医療工学科 内貴 猛	「再生医療のための巨大筋組織作製技術の開発」
臨床生命科学科 片岡 健	「皮膚組織をモデルとしたハイパー / ハイブリッド型再生医療戦略」
生物地球学科 石垣 忍	「恐竜研究拠点形成」 －新研究手法によって恐竜の生理・生態とアジア環境変遷史研究の新たな地平を拓く－
動物学科 清水 慶子	「巨大動物を媒介とした地域連携の深化と教育普及に関する研究」 －池田動物園、インドゾウのメリーの資料化と全身復元骨格模型による社会貢献－
電気電子システム学科 笠 展幸	「次世代自動車用エコシステム研究開発プロジェクト」 最優秀賞
社会情報学科 大藪 亮	「小売企業のサービス提供と顧客経験のダイナミズムの解明」
生物地球学科 亀田 修一	「古代窯業生産の研究」－備前邑久窯跡群を中心に－ 学長特別賞
生物地球学科 亀崎 直樹	「瀬戸内海に生息する世界最小のクジラ、スナメリの行動研究とモニタリング手法の開発」

※バイオ・応用化学科 折田先生は 2016 年度の 1 年で辞退。生物地球学科 石垣先生はブランディング事業に採択されたため 2017 年度の配分なし。

2017 年度

研究代表者	研究テーマ
バイオ・応用化学科 折田 明浩	「有機合成化学を起点とするものづくり戦略」 最優秀賞
情報科学科 椎名 広光	「プログラミング教育における論理思考の支援システムと教育コンテンツの開発」
初等教育学科 笹山 健作	「活力ある子どもを育成する小学校と大学との協働実践研究」 学長特別賞
生物化学科 森田理日斗	「乾燥耐性生物に着目した生体分子保護機構の解明とその応用」
情報科学科 川島 正行	「Persistent homology を用いた Topological data analysis への応用についての研究」

2018 年度

研究代表者	研究テーマ
臨床生命科学科 橋川 直也	「タンパク質ミスフォールディングは精神障害発症機序の解明・治療のブレイクスルーとなり得るのか？」
バイオ・応用化学科 草野 圭弘	「土と炎が織りなす芸術の科学」
動物学科 中本 敦	「モンゴルにおける民族の歴史と自然環境変遷の解析」
機械システム工学科 桑木 賢也	「産学連携を目指した CAE によるマルチスケール熱流動解析」
電気電子システム学科 麻原 寛之	「IoT クリーンエネルギー技術研究開発プロジェクト」

6.2 大型機器選定

岡山理科大学で行われる特色ある研究の活性化を推進するため、2016年に学内規程として「岡山理科大学における私立学校施設整備費補助金及び私立大学等研究設備整備費等補助金で購入する大型機器の選定に関する申合せ」を定め、これに基づいて、研究・社会連携機構が私立学校施設整備費補助金及び私立大学等研究設備整備費等補助金を利用して購入する大型機器の選定を行っている。

選定結果を受け、2017年度は共焦点レーザー顕微鏡を全額大学経費負担で導入し、2018年度は経費の一部を私立大学等研究設備整備費等補助金を受け、核磁気共鳴装置を導入した。

2019年度購入希望機器の選定においては、選定方法の改善を図り、選定委員が「機器の性能・特徴」、「必要性や公共性」、「ユーザーグループの構成とアクティビティ」および「波及効果と将来性」の4つの項目について評価し、優先順位を決定した。

2019年度購入希望機器の選定の概要は以下のとおりであった。

《申請書提出期間》	2018年11月15日～2018年11月28日 (申請書類は学内にWeb上で公開)
《公聴会》《選定会議》	2018年12月12日開催
応募機器	・全自動多目的X線回折装置 ・磁気特性測定装置 ・透過型電子顕微鏡
選定結果	1位 全自動多目的X線回折装置
《研究・社会連携機構運営委員会》	2018年12月12日開催
《学長会議》	2018年12月26日開催
審議結果	・大型機器整備の優先順位の決定

7 不正行為・不正使用防止の取り組み

研究活動における不正行為防止および公的研究費の不正使用防止への取り組みについて、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日文部科学大臣決定「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（平成19年2月15日文部科学大臣決定、平成26年2月18日改正）」及び）に基づき、規程および体制の整備、全構成員（教職員、学生等）を対象に研究倫理教育を実施した。

研究倫理教育の実施においては、多くの研究機関に導入実績のある一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）が運営しているeラーニングプログラムを本学でも導入した。また、学部学生や事務職員に対しては研修会を開催した。

また、公的研究費に係る学内ルールや科学研究費研究者使用ルールを分かりやすくVOD化し、公的研究費を使用する研究者に対して視聴を義務化した。



研究活動における研究倫理・研究費の
コンプライアンスについての研修会

下表にて、2017年度～2018年度の不正行為・不正使用防止の取り組みに関する活動状況を示す。

表 7-1 規程等整備の取り組み状況

年月	区分	実施区分	名 称
2017年 9 月	規程	改正	岡山理科大学研究活動における不正行為の防止及び対応に関する規程
2017年 9 月	マニュアル	改訂	公的研究費の運営・管理を適正に行うための実施要領
2018年 4 月	規程	制定	岡山理科大学における研究データの保存等に関する取扱要領
2018年 4 月	規程	制定	岡山理科大学における研究倫理教育に関する申合せ
2018年 4 月	取引業者 説明資料	改訂	岡山理科大学公的資金不正防止に伴う物品検収（検品）について
2018年 12 月	マニュアル	改訂	公的研究費の運営・管理を適正に行うための実施要領
2019年 4 月	取引業者 説明資料	改訂	岡山理科大学公的資金不正防止に伴う物品検収（検品）について

表 7-2 2017 年度 研究倫理教育・コンプライアンス教育実施状況

実施内容	実施日	説明者等
（方針決定）学部長等会議 2017年度研究倫理教育・コンプライアンス教育の実施要領	2017年 3 月 9 日	研究・社会連携室 室長 御倉賀恵
（実施）学部学生対象（春入学） 研究倫理教育（フレッシュマンセミナー）	2017年 5 月 23 日～ 2017年 5 月 26 日 （全4回）	研究・社会連携センター センター長 松浦洋司 副センター長 三井亮司
（実施）研究者・事務職員・大学院生対象 研究倫理教育（eラーニングプログラム）	2017年 6 月 6 日～ 2017年 9 月 30 日	学長通知（メール配信）
（実施）公的研究費使用者・事務職員対象 公的研究費学内ルール・科研費使用ルール（VOD）	2017年 10 月 2 日～ 2017年 11 月 30 日	研究・社会連携室通知 （2017年 10 月 2 日付メール配信）
（実施）学部学生対象（秋入学） 研究倫理教育（フレッシュマンセミナー）	2017年 10 月 24 日	研究・社会連携センター 副センター長 三井亮司

表 7-3 2018 年度 研究倫理教育・コンプライアンス教育実施状況

実施内容	実施日	説明者等
(実施) 学部学生対象 (春入学) 研究倫理教育 (フレッシュマンセミナー)	2018 年 5 月 8 日～11 日 2018 年 5 月 21 日 (全 5 回)	研究・社会連携センター センター長 折田明浩 副センター長 赤木徹也
(実施説明) 研究者対象 2018 年度研究倫理教育・コンプライアンス教育 実施要領	2018 年 7 月 18 日～19 日 (各学部教授会)	研究・社会連携機構 機構長 平野博之 研究・社会連携センター センター長 折田明浩 副センター長 赤木徹也 次長 岩永哲夫 教授 中村 修
(実施) 研究者・事務職員・大学院生対象 研究倫理教育 (e ラーニングプログラム)	2018 年 8 月 1 日～ 2018 年 9 月 30 日	学長通知 (2018 年 8 月 1 日付メール配信)
(実施) 事務職員対象 研究倫理教育研修会	2018 年 8 月 31 日	研究・社会連携センター センター長 折田明浩
(実施) 公的研究費使用者・事務職員対象 公的研究費学内ルール・科研費使用ルール (VOD)	2018 年 10 月 9 日～ 2018 年 11 月 30 日	研究・社会連携室通知 (2018 年 10 月 9 日付メール配信)
(実施) 学部学生対象 (秋入学) 研究倫理教育 (フレッシュマンセミナー)	2018 年 10 月 8 日	研究・社会連携センター センター長 折田明浩

表 7-4 研究倫理教育・コンプライアンス研修 (学外) 参加状況

研修会名	受講日	主催	参加者	内容
第 2 回 JST ワークショップ 公正な研究活動の推進	2017 年 9 月 22 日	JST	研究・社会連携室 中山良子	研究倫理の必要性和効果的な教育手法に関するワークショップ
第 3 回 JST ワークショップ 公正な研究活動の推進	2018 年 9 月 19 日	JST	研究・社会連携室 藤原誉子	各研究機関の実情に合わせた教育目標・内容、具体的な研究手法を考えるワークショップ
研究公正シンポジウム	2018 年 11 月 2 日	JST	研究・社会連携室 室長 御倉賀恵	研究倫理教育の先進的な取組事例を学ぶシンポジウム

8 産学官金連携に向けた研究シーズの公開

8.1 OUS 研究者ナビゲーター

岡山理科大学は、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」を建学の理念として1964年に開学しました。理学部応用数学科・化学科のみで発足した本学は、2016年度に教育学部、2017年度に経営学部、2018年度に獣医学部が開設され、研究シーズは、従来からの理工学分野のみならず、より幅広い分野に広がっています。

OUS 研究者ナビゲーターはこのように幅広い分野を専門とする本学の教員が取り組んでいる研究を紹介するために、発行されています。

OUS 研究者ナビゲーターには不定期に発行される印刷版と随時更新される Web 版があり、印刷版は2014年11月と2017年4月に発行されています。

● 2017 年 4 月発行 OUS 研究者ナビゲーター 2017 印刷版



理学部：応用数学科、化学科、応用物理学科、基礎理学科、生物化学科、臨床生命科学科、動物学科

工学部：バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科

総合情報学部：情報科学科、社会情報学科（2017/4：経営学部経営学科に改組）

生物地球学部：生物地球学科

教育学部：初等教育学科（小学校教育コース）、中等教育学科（国語教育コース、英語教育コース）

経営学部：経営学科

附属施設等：グローバル教育センター、キャリア支援センター、研究・社会連携センター、自然科学研究所、技術科学研究所、ワイン発酵科学センター、情報処理センター、大学院

の教員が紹介されている。

● OUS 研究者ナビゲーター Web 版 内容は随時更新

OUS研究者ナビゲーター next 50

ご意見・ご要望・お問い合わせは岡山理科大学研究・社会連携室へお気軽にご連絡ください。

TEL.086-256-9731 FAX.086-256-9732

renkei@office.ous.ac.jp

名前・研究分野・テーマ

検索 Q

理学部

工学部

総合情報学部

生物地球学部

教育学部

経営学部

獣医学部

附属施設等

応用数学科

化学科

応用物理学科

基礎理学科

生物化学科

臨床生命科学科

動物学科

理学部 > 応用数学科

理学部

応用数学科

数学の理論からコンピュータを駆使する情報数学まで、数学に関係する様々な学問を学ぶことにより、数理的な思考力・応用力そして情報技術を身につけることができる学科です。現代社会における基礎科学としての数学に関するニーズの高まりに応えることのできる人材を育成し、数多くの教員や企業人を輩出しています。

教授 いけだ たけし 池田 岳

研究分野 Lie群論及び代数幾何学

キーワード 代数幾何学、Lie群、シュレーベルト・カリキュラス

研究テーマ

- ☒ シュレーベルト・カリキュラス
- ☒ Lie群論
- ☒ 代数幾何学

教授 おおえ たかし 大江 貴司

研究分野 偏微分方程式の逆問題の数値解析的研究

キーワード 偏微分方程式、逆問題、数値計算、数値解析

研究テーマ

- ☒ 波動方程式における逆問題の数値解析的研究
- ☒ 逆散乱問題における散乱物推定法の研究
- ☒ 数値的に不安定な問題に対する安定な

教授 さわえ りゅういち 澤江 隆一

研究分野 整数論計算アルゴリズムと素数分布論

キーワード エラトステネス、双子素数、素数定理

研究テーマ

- ☒ 素数の分布に関する研究
- ☒ 双子素数、いとこ素数...
- ☒ 量子計算

教授 たかしま けいぞう 高嶋 恵二

研究分野 確率数値解析

キーワード Ergodic theory

研究テーマ

- ☒ Ergodic Theory
- ☒ Uniform distribution sequences

教授 たなか さとし 田中 敏

研究分野 微分方程式の定性的理論

キーワード 2点境界値問題、振動解、解のフラクタル次元

研究テーマ

- ☒ 2点境界問題の解の個数
- ☒ 振動解の解の長さフラクタル次元

教授 はまはた よしのり 浜畑 芳紀

研究分野 保型形式・数論的多様体に関連する数論

キーワード 保型形式、関数体、ゼータ関数

研究テーマ

- ☒ 関数体の数論

教授 みき こうじ 三木 恒治

研究分野 ドイツ文学、ことわざ

キーワード ロマン主義、映像表現、ヨーロッパの文化、旅

研究テーマ

- ☒ ドイツロマン主義の作品、ドイツ表現主義映画の研究
- ☒ ことわざの研究

准教授 おにつか まさかず 鬼塚 政一

研究分野 常微分方程式の安定性

キーワード 常微分方程式、定性的理論、安定性

研究テーマ

- ☒ 非自励システムの指数安定性
- ☒ 非自励システムの安定性と有界性に関する研究
- ☒ 解空間に同次性を有する常微分方程式

8.2 OUS フォーラム

OUS フォーラムは研究を通じた地域貢献を目的に、2001 年度から岡山理科大学の独自の取り組みとして、県内の他大学に先駆けてスタートし、2018 年度で第 18 回の開催となった。

図 8-1、図 8-2 に過去 10 年の参加人数および出展テーマ数の推移を示す。2018 年度は学内外から合わせて 400 名を越える参加者となり、地域に定着した取り組みとなっている。

2016 年度に教育学部、2017 年度に経営学部、2018 年度には獣医学部が開設され、それに伴い、OUS フォーラムで公開される研究テーマの分野の広がりとともに、今後はより一層、地域社会との連携を深める取り組みとして期待されている。

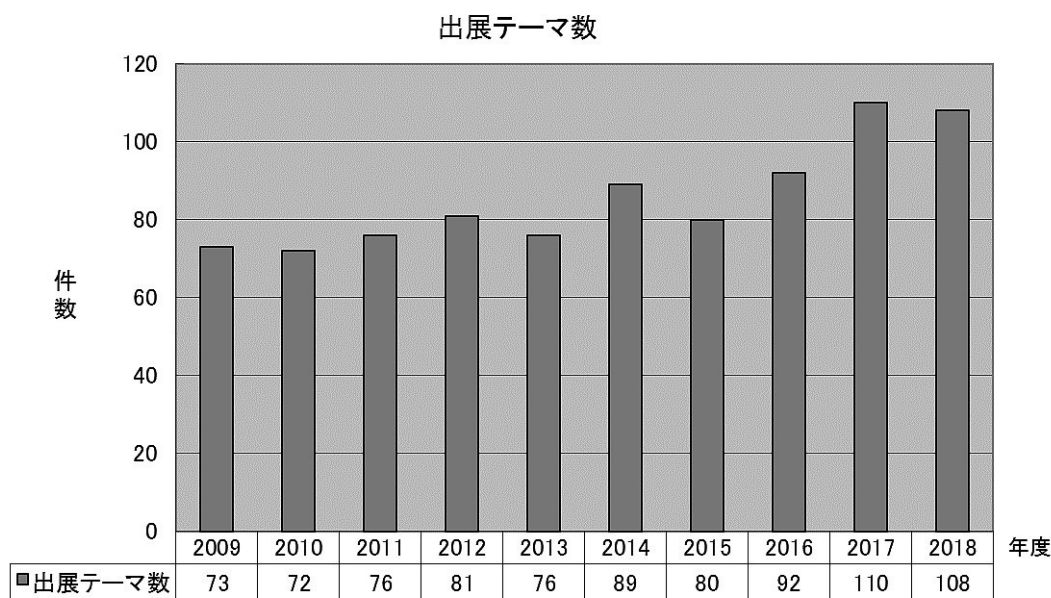


図 8-1 出展テーマ数の推移

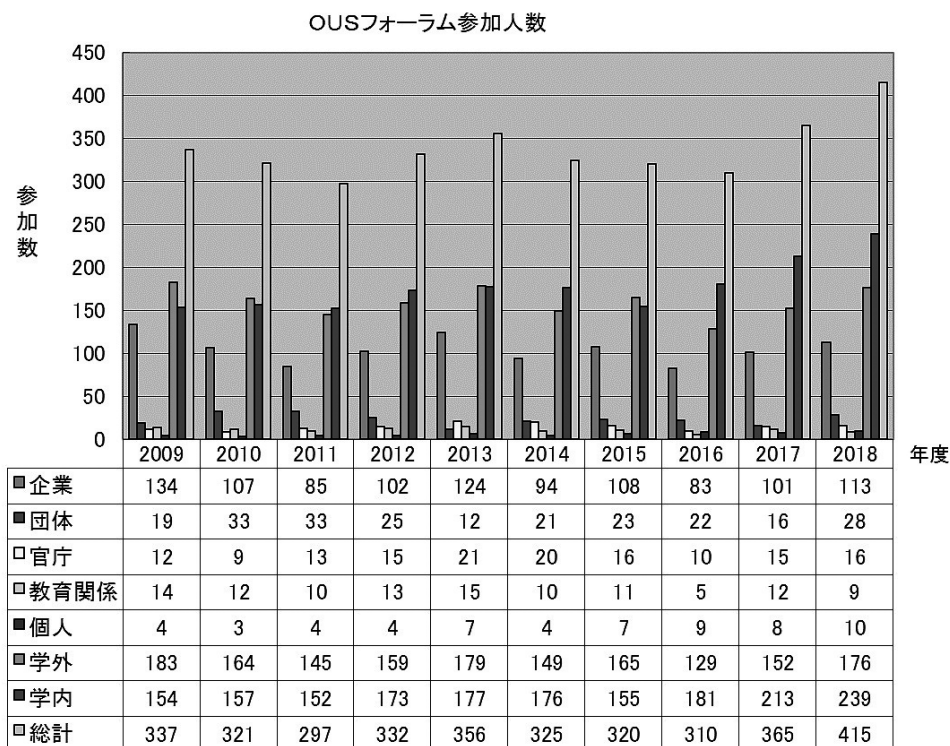


図 8-2 参加人数の推移

■ OUS フォーラム 2017

開催日：2017 年 11 月 27 日(月)

開催場所：岡山プラザホテル（岡山市中区浜 2-3-12）

365 名（学外から 152 名、学内から 213 名）が参加し、OUS フォーラム 2017 が開催された。

特別記念講演では大日本印刷（株）情報イノベーション事業部 事業企画本部本部長 越智由香子氏を迎え、社会のパラダイムシフトに負けない、DNP の新たな価値づくりについて、ご講演があった。本学から産学官金連携事例紹介として 2 件の講演があった。

ポスター展示では、本学及び関連大学の倉敷芸術科学大学、千葉科学大学などによる 110 件（11 ステーション）の研究成果等の発表がなされた。

ポスター展示と並行して、プロジェクターを使用した 10 件の口頭発表（鷺羽の間）も行った。

【特別記念講演】 13：10～14：00

「印刷と情報技術で‘未来のあたりまえをつくる’」

～社会のパラダイムシフトに負けない、DNP の新たな価値づくり～

大日本印刷（株）

情報イノベーション事業部 事業企画本部

本部長 越智由香子 氏



特別記念講演風景

【産学官連携プレゼンテーション】 14：00～14：35

- ①「課題解決型授業 PBL への挑戦～実践と評価、そして今後の方向性～」

経営学部 学部長 教授 山口 隆久

- ②「ワイン発酵科学センターの取り組みと機能性評価について」

ワイン発酵科学センター 教授 金子 明裕



産学官連携プレゼンテーション風景

【口頭発表】 14：50～16：45

- ①うつ病に関わる新たなタンパク質を発見～うつ病の予防・治療に期待～

理学部 講師 橋川 直也

- ②臓器チップの開発に向けた細胞の 2D-3D 連結構造体“立体細胞回路”の作製

技術科学研究所 講師 岩井 良輔

- ③ HiPIMS 法を用いた医療用 DLC コーティング技術の開発

技術科学研究所 教授 中谷 達行

- ④空気圧柔軟アクチュエータによるアクティブ補装具の開発

工学部 教授 藤本 真作

- ⑤ソーシャルビッグデータを用いた観光情報の分析

総合情報学部 講師 廣田 雅春

- ⑥ものづくり教育のためのプラスチック段ボールを用いた 3D 受動歩行機の開発

工学部 教授 衣笠 哲也

- ⑦看護基礎教育における一次救命処置プロバイダー資格取得の試み

千葉科学大学 准教授 城戸口親史

⑧皮膚組織における皮下脂肪細胞の機能解析とその制御に関する研究

工学部 教 授 安藤 秀哉

⑨マスカットオブアレキサンドリア種の醸造用ブドウ栽培と醸造特性

ワイン発酵科学センター 准教授 高橋 千秋

⑩機能性食品・化粧品素材ジヒドロフェルラ酸の乳酸菌による発酵生産

理学部 教 授 三井 亮司



口頭発表の様子

【ポスター発表】 14:45 ~ 16:50

110 件 (11 ステーション) (★印は奨励賞受賞)

A 機能材料・デバイス分野

発表テーマ	発表者
マグネシウム合金長尺材の変形双晶を利用した力学的性質制御 塑性加工による機能性材料の開発	清水一郎、趙 薪茗、中井賢治、森 佳太 寺野元規
カイラル超伝導体の自発電流と表面磁化	今井剛樹、 スイス連邦工科大学チューリッヒ校
フラーレン内包多孔性亜鉛ポルフィリン錯体の結晶構造と光誘起 電荷分離挙動	満身 稔、中田智大、羽藤大貴、 大阪大学
車載排熱発電に活用するためのシリサイド系熱電材料の高压物性	森 嘉久、中野法大、藤原 翔、 當房理沙、財部健一、笠 展幸、 麻原寛之 他
風レンズ風車用炭素繊維強化複合材の衝撃圧縮特性の負荷方向と 温度依存性	中井賢治、福島 翼、 九州大学応用力学研究所
半導体ナノワイヤーを用いたガスセンサ（単体型、アレイ分析型、 光電流型）	秋山宜生
半導体ナノワイヤーを用いた水素ガスセンサ	秋山宜生
機能性材料としての希土類水素化物半導体の可能性について	中村 修、埼玉大学、東洋大学
バイオファイバー強化グリーンコンポジットの開発	岡田賢治（倉敷芸術科学大学）
古代ガラスビーズの製作技法の解明と復元 ー 遺物から現代への応用 ー	岡田賢治（倉敷芸術科学大学）

B 機械・シミュレーション分野

発表テーマ	発表者
塩濃度勾配型ソーラーボンドの蓄熱性能	平野博之、中村航大、花本達征
膝の伸縮と股関節トルクを用いた3次元2足動歩行機の開発	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、 多田智貴、ホジャホイ、横山優治 他
柔軟全周囲クローラ RT05-COBRA について	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、 立石孝之、仲川昂希、上田直樹、 奥川雅之、栗栖正充 他

機械的受動性を利用した小型多足ロボットの開発とロコモーションの解析	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、宮本直輝、大阪大学、東北大学、小林 CREST
キャビテーションピーニング条件の最適化に関する基礎的研究	關 正憲、渡部翔万、中野誠也、東北大学
傘歯車による差動機構を用いた減速装置の開発	關 正憲、三木大輔、清水一郎
節電センサを用いたロボットアームの操縦技能獲得に関する研究	林 良太、衣笠哲也、吉田浩治、澤田拓弥、幸田稜平、佐渡功樹
軽量な可撓性シャフトを用いた探索用小型移動ロボットの試作	林 良太、衣笠哲也、吉田浩治、田子智樹、天野久徳 他
トルクユニットマニピュレータの全状態変数を制御するための軌道生成	吉田浩治、衣笠哲也、林 良太、三坂大輝、河副雅彦、大阪大学
走行車両の軸重値推定法の小型実験機を用いた精度検証	吉田浩治、衣笠哲也、林 良太、今倉恭平、(株)創発システム研究所
振動粉体層の数値シミュレーション	桑木賢也、小金篤人、平野博之、九州工業大学、イギリス・バーミンガム大学
固体表面付近のガス流の2次元流速分布計測	近藤千尋、宮本淳平、前 雄也、和田 龍
空気圧駆動配管検査ロボットの配管保持機構の改良	赤木徹也、中川兼吾、堂田周治郎、小林 亘、楠瀬系知、山崎聖也
解析シミュレーションネット OKAYAMA の解析技術と活動	矢城陽一朗、桑木賢也、清水一郎、近藤千尋、解析シミュレーション OKAYAMA
振動流動層を用いた粒状混合物の乾式比重分離技術★	押谷 潤、横内貴正、須郷 涼、平野博之、太洋マシナリー(株)
減圧下における側面冷却加熱による閉空間内の自然対流	平野博之、熊本翔乃、山本萌絵、桑木賢也、タツモ(株)
壁面に凹凸を有するマイクロ流路内における流動様相	平野博之、西山真由、平井貴大、木原朝彦、押谷 潤、(株)化繊ノズル製作所

C エレクトロニクス分野

発表テーマ	発表者
超低周波ワイヤレス給電	石田弘樹、田中貴大
惑星モニター観測用大気ゆらぎ補償光学装置の開発	渡邊 誠、寺地慶祐、鎌苅リズキー洋志、国立天文台、北海道大学
移動ロボットに搭載した雪崩ビーコンによる探索の検討	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、佐藤 礼、宮本直輝、奈良高明、奥川雅之 他
DC-DC コンバータ	麻原寛之、笠 展幸、篠原健太、渡邊大輝、ムハマド ファキヒン
電気自動車主機モータ制御に関する研究開発	笠 展幸
日常生活支援ロボットの研究開発	クルモフ バレリー、高谷健太、中村真尚、今井周良、山手彰悟
高速度カメラを用いた LED 可視光通信に関する研究	荒井伸太郎、大川奨也、古味利有生、三島俊介、唐正 強 他

D ICT 分野

発表テーマ	発表者
環境建築対応型気象データ ー東南アジアでの気象観測システムの構築と展開ー	中山哲士、秋田県立大学、愛知工業大学、シンガポール国立大学、ペトロナス工科大学
VR やストレス指標を用いたコ・クリエーション（共同創作）への挑戦	馬淵大宇

高齢者の視覚特性を用いた明度変換	上田千晶、山口大学
Deep Q-Network に基づくノードの自律移動制御手法の提案	小田哲也
拡張 p-median 問題に対する遺伝的アルゴリズムの解法 災害時避難計画に向けて	片山謙吾、宮武尚之
ゲーミフィケーションを応用したスマートフォン連続利用阻害手法	梶並知記、田口雄大
情報幾何学的手法を用いた画像・形状検索	川島正行、大塚龍一、劉 渤江
トポロジカル・データ・アナリシスを用いた画像・形状検索	川島正行、廣田雅春、加瀬遼一、宮島洋文、劉 渤江
調性音楽の作曲支援	菅野幸夫、濱岡智恵
言語処理技術を用いたプログラム演習のための手順生成	椎名広光
確率分布を用いた単語極性分析によるコメント分析	椎名広光、大谷崇文、高橋明義
ソーシャルビッグデータを用いた観光情報の分析★	廣田雅春、首都大学東京
自然言語による解釈が可能な推論モデルとその学習に関する研究	宮島洋文

E 医療分野

発表テーマ	発表者
うつ病に関わる新たなタンパク質を発見 ～うつ病の予防・治療に期待～	橋川直也、橋川成美、田上 陵、森田裕奈、山本紗由美、徳島大学病院薬剤部
衝撃緩和構造を有するガーターバネ付き Metal-on-Metal 人工股関節の実用化 (Ⅱ)	金枝敏明、趙 薪茗、松浦洋司、帝人ナカシマメディカル(株)
冠動脈ステント留置に対する血管の力学的応答解明のための解析的アプローチ	清水一郎、北川陽菜、中谷達行、趙 薪茗、(株)日本医療機器技研
ミトコンドリア生合成シグナル検出のためのレポーターアッセイ系の確立	神吉けい太、中山琴絵
肝小葉構造構築に向けた管状肝組織体の作製	神吉けい太、福島竜弥、大東拓弥、岩井良輔
発光と蛍光を利用した低酸素応答性デュアルレポーターシステムの構築	神吉けい太、藤井爽平
タンパク質導入法を使った細胞機能の人工制御技術開発	二見 翠、福澤玲於
タンパク質をリガンドとして固定化した血液（血漿）吸着器の開発	二見 翠、原田雄作
人工関節用材料 Crosslinked-UHMWPE の耐摩耗性要因の検討	松浦洋司、宗藤真央、金枝敏明、帝人ナカシマメディカル(株)
フラグメント分子軌道計算による新しいインシリコ創薬	矢城陽一郎、甲南化工(株)、FMO 創薬コンソーシアム
臓器チップの開発に向けた細胞の 2D-3D 連結構造体“立体細胞回路”の作製★	岩井良輔、長島 諒
生体内組織形成術を用いて作製した移植用生体組織体の脱細胞法の検討	岩井良輔、川崎あきは、長島 諒、大分大学、国立循環器病研究センター、北海道大学
細胞の自己集合化誘導剤を用いた細胞凝集塊の大量作製法の開発と評価	岩井良輔、浅見優月、日産化学工業(株)
温度制御による細胞脱着を可能とする細胞培養マイクロキャリアの開発	岩井良輔、大梅有香、小松大貴、北海道大学
細胞の自己集合化技術のがん転移評価培養系への応用検討	岩井良輔、長島 諒
HiPIMS 法を用いた医療用 DLC コーティング技術の開発	中谷達行、福江紘幸、東京電子(株)
複合ワイドレンジ真空計の開発	中谷達行、東京電子(株)、VISTA (株)
義歯への DLC 薄膜の応用	中谷達行、ストロブ(株)、(株)ニッシン、兵庫県立大学
医療用摺動部材向け DLC 薄膜の摩擦摩耗特性	中谷達行、清水一郎、ムハンマド アミナル ヘルミ、岡山県工業技術センター 他
マグネシウム合金製ステントの DLC 被覆による分解速度制御	中谷達行、清水一郎、原 聡史、(株)日本医療機器技研

DLC 被覆による細胞接着制御：再生医療への応用	中谷達行、上村 怜、岩井良輔、松宮 潔、岡山大学
医療用樹脂チューブ内面への DLC 成膜技術の開発	中谷達行、岡山大学、福山市民病院、ストローブ(株)

F 医療福祉機器

発表テーマ	発表者
伸長型アクチュエータを用いたポータブルリハビリテーション機器の開発	赤木徹也、堂田周治郎、下岡 綜
柔軟リニアステッピングアクチュエータにおける空気圧ブレーキの改良	赤木徹也、福川展弘、堂田周治郎、小林 亘、江口裕哉、井上椋太
ウェアラブル手首リハビリテーション機器の開発と制御－姿勢制御系の改良－	堂田周治郎、加藤直熙、赤木徹也、小林 亘
柔軟油圧シリンダを用いた可搬型リハビリテーション機器の試作	堂田周治郎、玉木博章、赤木徹也、小林 亘、松井保子
McKibben 型ゴム人工筋の位置制御と外力推定法	藤本真作、赤木徹也、小林 亘、矢野琢也
空気圧柔軟アクチュエータによるアクティブ補装具の開発	藤本真作、赤木徹也、小林 亘、宇野加余子
股関節機構を用いた 2 足歩行ロボットの 3D 準受動平地歩行	藤本真作、衣笠哲也、村井秀伍、末光智晴

G バイオテクノロジー

発表テーマ	発表者
D 体アミノ酸添加培養による血栓溶解酵素ナットウキナーゼの活性比較	柳澤泰任（千葉科学大学）、高木菜帆（倉敷芸術科学大学）、オルガノフードテック(株)
皮膚組織における皮下脂肪細胞の機能解析とその制御に関する研究	安藤秀哉、金久朱里、井手彩和加、平井由夏、重松千尋、小林愛菜、吉本 聖 他
皮膚における黄変化への真皮線維芽細胞の影響と評価の応用に向けて	安藤秀哉、陶山真幸、大谷光祐、三島裕聖、柳 大樹、大萩権明、吉田萌生 他
赤外超解像顕微鏡を利用した生体試料の観測	酒井 誠、高橋広奈、秦 真誉、藤原光希
機能性食品・化粧品素材ジヒドロフェルラ酸の乳酸菌による発酵生産	三井亮司、向田 潤、丸善製薬(株)
UV-LED を搭載した流水殺菌装置の性能評価に関する検討	猶原 順、万軒 碩、家長宜孝、大橋悠樹央、池野将慶、千代田工販(株)
乳酸菌で元気はつらつ & 美肌菌でお肌ぷりっぷり	野嶺勇一、(株)バイオジェノミクス、(株)石川酒造場、チチヤス(株)、(株)伊藤園 他
ワインをはじめとした醸造・発酵と食品の機能性評価	金子明裕、新見市、tetta (株)
マスカットオブアレキサンドリア種の醸造用ブドウ栽培と醸造特性	高橋千秋、金子明裕、岡田佐和、ふなおワイナリー

H 生物・環境分野

発表テーマ	発表者
UV-LED による微生物の紫外線感受性測定方法に関する検討	猶原 順、万軒 碩、家長宜孝、大橋悠樹央、池野将慶、千代田工販(株)
脊椎動物化石のデジタルデータを用いた研究・教育教材★	林 昭次、石垣 忍、河島歩憂
特定外来生物キョンを対象とした侵入防止柵の開発	加瀬ちひろ（千葉科学大学）、小濱 剛、佐藤那美、東京都立大島公園
藻場観察用海中カメラの開発	重松利信、(株)SEA 創研究

I 教育

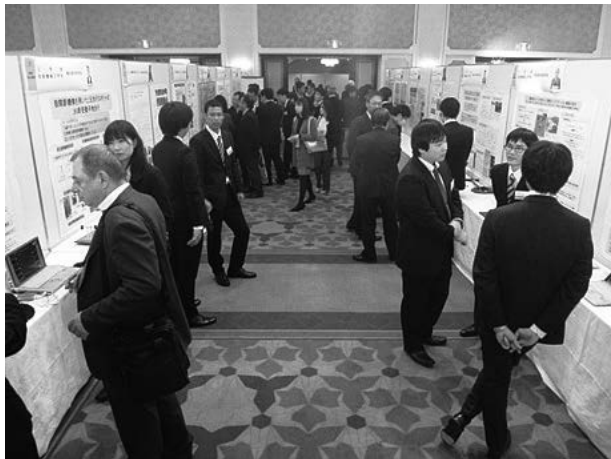
発表テーマ	発表者
環境問題の ESD 教育における産学官連携を目指して：三位一体運動の提案	福田博人
ものづくり教育のためのプラスチック段ボールを用いた 3D 受動歩行機の開発	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、井坂颯利、増本裕己、土師貴史 他
図画工作科における対話的な学びによる表現技術獲得のプロセス	妻藤純子
「家庭科」の本質にせまる授業づくり	原田省吾
教育学部生の小中高での理科実験の経験とその対策	山下浩之
英語教育改革から小・中・高のつながりを見据えた授業づくり	坂本南美
国語科における法教育の岡山県下学校現場への普及	札幌和男、龍谷大学犯罪学研究センター
看護基礎教育における一次救命処置プロバイダー資格取得の試み	城戸親史（千葉科学大学）、富樫千秋、青木君恵、澁佐徳紀

J 社会科学

発表テーマ	発表者
消された古備王国④～古備と委奴国、物部氏～	志野敏夫
フィジー共和国旧首都レブカにおける歴史的建造物の変遷について	江面嗣人、福本雅美、玉田 匠、森山智弘、大庭将大、JICA、北海道大学
出生率の決定要因について	三原裕子、大田 靖
8 月ジャーナリズムと新聞	八木一郎

K 経営

発表テーマ	発表者
小売企業のサービス提供と顧客経験のダイナミズム	大藪 亮、山口隆久、黒田正博、森 裕一
フィリピンの中小企業にみるキャッシュ・フロー会計に関する実態調査	岡部勝成
岡山県の自治体における障害者雇用の 2016 年度調査結果の分析	川島 聡
ブランド・クラスタリング / セグメンテーション	黒田正博、森 裕一、吉岡嵩紹
商品レビューサイトからの評価情報の抽出とビジネス活用	水谷直樹
データサイエンティストを育てる「統計検定」	森 裕一、一般財団法人統計質保証推進協会・統計検定センター
課題解決型授業 PBL への挑戦 ～これまでの実践と評価、そして今後の方向性～	山口隆久、鷺見哲男、経営学部教員全員
アクティブラーニングを活用した大学生による着地型旅行商品企画の取り組み	鷺見哲男



ポスター発表の様子

■ OUS フォーラム 2018

開催日：2018年11月16日(金)

開催場所：岡山プラザホテル（岡山市中区浜2-3-12）

415名（学外から176名、学内から239名）が参加し、OUSフォーラム2018が開催された。

特別記念講演は国立情報学研究所 教授 山田誠二博士から、人工知能 AI の現状と有効性、そしてその限界について話していただいた。

本学からの産学官金連携事例紹介では、2018年度に開設された獣医学部について、吉川学部長から紹介があった。また、(株)エイチケイ商会の内藤会長より産学連携によるミツマタコスメについて話があった。

今年度は新しく、獣医学部の発表コーナーを設け、様々な分野に挑戦する本学を感じ取っていただいた。

【特別記念講演】13:10～14:00

「人工知能 AI の現在と近未来社会への影響」

国立情報学研究所 教授

総合研究大学院大学 教授

東京工業大学 特定教授

(一社)人工知能学会 前会長・顧問

山田 誠二 氏



特別記念講演風景

【産学官金連携事例紹介】14:00～14:30

○「今治獣医学部の現状と未来展望」

岡山理科大学 獣医学部

学部長 教授 吉川 泰弘 氏

○「地域資源活用で世界初の化粧品開発」

～産学連携による地域発コスメの可能性～

(株)エイチケイ商会

代表取締役会長 内藤 靖史 氏



産学官金連携プレゼンテーション風景

【口頭発表】14:50～16:45

①カーボンナノチューブ内包型太陽電池色素の合成

工学部 教授 折田 明浩

②超低周波ワイヤレス給電装置

理学部 准教授 石田 弘樹

③全球画像群の画像照合による撮影位置の推定

工学部 講師 太田 寛志

④産業用ドローンによる電力設備自動点検

工学部 教授 クルモフ バレリー

⑤経営学部による産官学連携イノベーションラボ（課題解決型学習）の紹介

経営学部 准教授 川島 聡

⑥災害復興に向けたデジタルゲーム開発プロジェクト

総合情報学部 講師 山根 信二

⑦産官学協働による CTL モデル建築物「道の駅あわくらんどトイレ」の設計

工学部 准教授 弥田 俊男



口頭発表の様子

⑧3次元デジタルホログラフィ顕微鏡での生殖細胞の観察

工学部 准教授 松浦 宏治

⑨温度制御による細胞脱着が可能な動物細胞の大量培養用ビーズの開発

技術科学研究所 講師 岩井 良輔

⑩アネキシン A5 を利用した GnRH 作用の検出

獣医学部 教授 汾陽 光盛

【ポスター発表】 14:45 ~ 16:50

108 件（9 ステーション）（*印は奨励賞受賞）

A 機能材料・化学分野

発表テーマ	発表者
研究・社会連携機構総合機器センターのご紹介	池田正五、船本利春、櫻井詠司、藤原俊明
周期表の全元素を対象とした無機化合物の電子状態計算	坂根弦太
コンピュータシミュレーションによる新しい創薬	矢城陽一郎、甲南化工(株)、FMO 創薬コンソーシアム
希土類水素化物半導体薄膜 YbH ₂ の作成とその光学特性	中村 修、栗田満史、埼玉大学
DLC 薄膜による樹脂材料の表面機能化*	久保光星、中谷達行、清水一郎、今井裕一、ムハンマド アミヌル ヘルミ、岡山県工業技術センター
風レンズ風車用の炭素繊維強化複合材の衝撃圧縮特性：負荷方向と温度の影響	氏峰大地、福島 翼、中井賢治、横山 隆、九州大学
原子炉用等方性黒鉛の動的引張り応力－ひずみ特性の決定－	シティヌルハニム ビンティ ムハマド スヨド、中井賢治、横山 隆
カーボン/エポキシ積層複合材の板厚方向の動的引張り応力－ひずみ特性の評価－	溝垣悠河、中井賢治、横山 隆
マイクロチャンネル内で生じる液々二相交互流における物質移動	西山真由、津田貴智、平野博之、木原朝彦、小畑秀明、押谷 潤、(株)化繊ノズル製作所
立方体内に生じる温度差自然対流に与える圧力の影響	原村優介、大橋直記、平野博之、桑木賢也、タツモ(株)
塩濃度勾配型ソーラーボンドを用いた太陽光の蓄熱	岡本瑞稀、平野博之
カーボンナノチューブ内包型太陽電池色素の合成	渡部 光、松下雅子、奥田靖浩、折田明浩、岡山大学
機能集積化を指向した連続クリック反応の開発	森 咲丸、山田祐嗣、奥田靖浩、折田明浩
有機 EL 材料への応用を指向したナノワイヤー分子の合成研究	重實悠希、奥田靖浩、折田明浩
イナミンの安定化技術の開発と生理活性アミノトリアゾールへの応用	瀬尾朋世、奥田靖浩、折田明浩

油性インクを利用した微細金属構造作製法の提案	岩佐洋祐、寺野元規、東京工業大学
ケイ素の特長を生かした機能性材料の開発	仲 章伸（倉敷芸術科学大学）、 広島大学
ピアコアを用いる糖鎖－糖鎖間相互作用の解明	山田晴夫、佐田裕樹、山中優介、 兵頭瑞樹、内藤友梨子
高い光耐久性を有する有機機能性材料の創出	岩永哲夫
Cu-Cr-Zr 系合金ロールを用いた液体急冷法による軟磁性急冷凝固合金薄帯の作製条件の検討	中川恵友、中越合金鋳工(株)

B 金属加工・機械分野

発表テーマ	発表者
キャピテーションピーニング条件の最適化に関する基礎的研究	森本達也、永田航平、關 正憲、 東北大学
デフ機構を用いた減速装置の開発	橋本拓実、關 正憲、清水一郎
グリース潤滑下における転動疲労寿命に関する基礎的研究	山田剛寛、森岡侑太郎、關 正憲、 日本グリース(株)
トルクユニットマニピュレータの全状態変数を制御するための軌道の条件	三坂大輝、吉田浩治、河副雅彦、 衣笠哲也、林 良太、大阪大学
走行車両の軸重値推定法の精度向上のための実験装置の改良と精度検証	今倉恭平、吉田浩治、衣笠哲也、 林 良太、(株)創発システム研究所
柔軟リニアステッピングアクチュエータの開発とその応用	福川展弘、赤木徹也、堂田周治郎、 井上椋太
変形双晶を援用したマグネシウム合金長尺材の局所力学的性質制御技術	趙 薪茗、後 公大、清水一郎、 (株)日本医療機器技研
ステント留置に伴う冠動脈内部変形状態の解析的検討	北川陽菜、石田貴也、清水一郎、 中谷達行、(株)日本医療機器技研
伸長型アクチュエータを用いたポータブルリハビリテーション機器の改良★	下岡 紘、赤木徹也、堂田周治郎、 羽根佑典
アクアダライブシステム（ADS）の適用事例と展望	小林 亘、宮本優佑
柔軟全周囲クローラ RT05-COBRA の開発	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、 立石孝之、仲川昂希、山本研登、 吉川和志、消防研究センター、 サンリツオートメイション(株)、 愛知工業大学、東京電機大学
空気圧人工筋を使用したパワーアシストスーツの開発	矢野琢也、藤本真作、赤木徹也、 小林 亘
空気圧柔軟アクチュエータによる腰部アクティブ補装具の開発	宇野加余子、藤本真作、赤木徹也、 小林 亘、ダイヤ工業(株)
パニング加工による素材表面の組織改善	花谷優太、福井友哉、寺野元規
骨用ドリルの穿孔性能に及ぼすドリル材質ならびに刃先形状の影響	金枝敏明、梶田くるみ、寺野元規、 帝人ナカシマメディカル(株)

C ICT・エレクトロニクス分野

発表テーマ	発表者
全球画像群の画像照合による撮影位置の推定	妹尾男宜、太田寛志、道西博行
Unity を用いた自然景観の可視化 ～國崎クリーンセンターの里山を例として～	磯崎大生、劉 渤江、 国崎クリーンセンター啓発施設
全天球カメラを用いた多眼全方位距離計測	北岡拓也、島田英之、島田恭宏、 大倉 充
空気圧センサを用いた呼吸モニタリングと緊急通報システムの検討	久野弘明
野球中継を対象とした状況の瞬間理解と興味継続のためのアノテーション	今村 凌、梶並知記
楽曲の多面体による可視化について	濱岡智恵、川島正行
超低電力型ガスセンサ	秋山宜生

室温動作型水素ガスセンサ	秋山宜生
超低周波ワイヤレス給電装置	石田弘樹、田上善己、寺嶋真一、 中川大地
電気自動車用主機モータ・インバータ制御に関する研究開発	笠 展幸
高速度カメラを用いた LED 可視光通信に関する研究	大磯祐弥、大川 怜、荒井伸太郎、 名古屋大学、長岡技術科学大学、 香川大学
有線 LAN に接続した Raspberry Pi を用いたスピーカ・アレイの構築	薦田光輝、小田哲也
GaN を用いた DC-DC コンバータの開発	前田佳輝、英 慎一郎、森 嘉久、 石田弘樹、笠 展幸、麻原寛之
電源故障によるシステム全損を防ぐインターフェース回路	藤井貴志、内野翔太、森 嘉久、 石田弘樹、笠 展幸、麻原寛之

D AI・ロボット分野

発表テーマ	発表者
ニューラルネットワークを用いたプログラムコメントの自動生成	高橋明義、椎名広光
ニューラルネットワークによるアンケート分析	大谷崇文、椎名広光
産業用ドローンによる送電設備自動点検システムの研究開発★	高谷健太、太田寛志、 クルモフバレリー、中村真尚、 電源開発(株)
日常生活支援ロボット	高谷健太、神田康平、 クルモフバレリー
クワッドローター・ヘリコプターのシミュレーション環境開発とその応用	中村真尚、高谷健太、太田寛志、 クルモフバレリー
ロボットアームの『ありえない』運動モデル	山本大貴、吉田浩治、衣笠哲也、 林 良太
無駄の少ない施設配置を求めるには ー2次割当問題に対する近似解法ー	岡野傑士、片山謙吾
営業先巡回路自動生成システム	金原一步、片山謙吾
受動要素を利用した小型多足類ロボット i-CentiPot の開発	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、 宮本直輝、大谷牧恵、大阪大学、 東北大学、小林 CREST
身体の動力学的特性を巧く利用した3次元2足動歩行の実現	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、 藤本真作、多田智貴、横山優治、 渡部真孝
岡山市北区の飲食店巡回路推薦ウェブサービスの開発	鹿毛宗一郎、小田哲也
“空気を読む”環境知能の実装ーリアルタイム知的制御手法の開発ー	吉岡貴幸、永田智大、小田哲也、 上田千晶、尾崎 亮、片山謙吾
上体運動を用いた2足歩行ロボットの3D準受動平地歩行	ナビートハムザ、藤本真作、末光智晴、 衣笠哲也
空気圧駆動伸長型アクチュエータを用いた配管検査ロボットの開発	中川兼吾、赤木徹也、堂田周治郎、 楠瀬系知
データの安全性を考慮した機械学習	宮島洋文
ニューラルネットワークによる楽音の認識	西垣祐紀、菅野幸夫

E 教育・地域貢献分野

発表テーマ	発表者
経営学部イノベーションラボ（課題解決型学習）のご紹介ー1 「私たちが目指すもの」	川島 聡、松村博之、横山ひとみ、 鷺見哲男
経営学部イノベーションラボ（課題解決型学習）のご紹介ー2 「これまでの活動の紹介・現在進行中の取り組み」	鷺見哲男、松村博之、横山ひとみ、 川島 聡
経営学部イノベーションラボ（課題解決型学習）のご紹介ー3 「課題解決型学習への協働・参画のお誘い」	川島 聡、鷺見哲男、横山ひとみ、 松村博之

学生・関係機関との協働による「まちの保健室」の取り組み	安藤智子（千葉科学大学）、 岩瀬靖子（千葉科学大学）、 銚子大洋自動車教習所 脳若トレーナー、 地域商社 NPO 法人ちょうしがよくなるくらぶ、 銚子市地域包括支援センター
ガス温度計測を題材とした計測器の取扱教育教材の開発	近藤千尋
VR を活用した寸法感学習スキーム「スケトレ量編」の開発とその効果の実証	馬淵大宇
企業で活躍できるグローバルリーダーを育成する「IB 教育」	高木志保、眞砂和典
学校数学におけるインフォーマルな統計的検定に関する教具・教材の開発研究	福田博人、日本女子大学
活力ある子どもを育成する小学校と大学との協働的実践研究	笹山健作、小川孝司、森 敏昭
災害復興に向けたデジタルゲーム開発プロジェクト	山根信二

F 生物・環境分野

発表テーマ	発表者
竜脚類の旋回特性の解明のための基礎研究	衣笠哲也、吉田浩治、林 良太、 石垣 忍、伊東和輝
エンドトキシン測定による飲用水中グラム陰性菌による汚染の履歴	猶原 順、陸 鑫藝、千代田工販(株)
UV-LED による水中のクリプトスポリジウムに対する不活化効果	猶原 順、千代田工販(株)、 大阪府立大学、大阪市立大学
UV-LED による各種微生物の感受性	猶原 順、大窪一輝、掛谷直幸、 川元啓次朗、中島健太、千代田工販(株)
岡山県南部の花崗岩中に見られる粘土鉱物	能美洋介、(株)エイト日本技術開発
実際に稼働中の研究現場を展示する ー岡山理科大学恐竜学博物館の試みー	石垣 忍、奥田ゆう、實吉玄貴、 林 昭次、高橋亮雄
産学官協働による CLT モデル建築物「道の駅あわくらんどイレ」の設計	弥田俊男、秋山典裕、高橋慧一、 中村匠吾、岡山県、 (一社)岡山県建築士事務所協会、 銘建工業(株)
斜めに配置した CLT 壁の壁脚接合部の強度・剛性に関する実験的研究	余 雯静、小林正実、銘建工業(株) (株)西建築設計事務所

G バイオテクノロジー分野

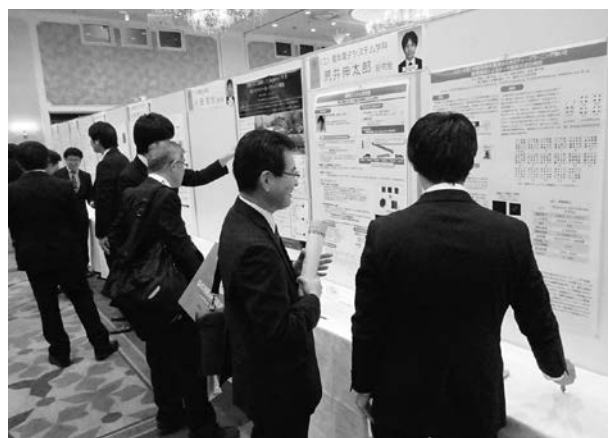
発表テーマ	発表者
ワインをはじめとした醸造・発酵と食品の評価	金子明裕
活性酸素が引き起こす皮膚の老化現象（しみ・しわ・くすみ）に挑む	江口琴音、上田暁仁、岡本美波、 長瀬彩里、井阪壮志、吉本 聖、 安藤秀哉
皮下脂肪細胞の炎症が皮膚組織に及ぼす影響の解析研究	苫居奈美、神尾真誠、鶴田純将、 柳 大樹、吉本 聖、安藤秀哉
飲食店等から排出する含油排水中の油脂の回収とバイオ燃料化	近藤千尋、一宮暢希、滋賀県立大学
担子菌 Tremella fuciformis（シロキクラゲ）の生活環に関する研究	三井亮司、矢野嵩典、(株)ビナン食販
乾燥耐性生物に着目した生体分子保護機構の解明とその応用	古川敦士、岡野将平、本田海美、 南 善子、森田理日斗
クロロフェノール分解遺伝子導入による種々微生物の分解能力の獲得	山室拓也、坂出智優、八田 貴

H 医療・医療工学分野

発表テーマ	発表者
交流高電圧プラズマを用いた人工血管の内壁への DLC コーティング技術	國竹真司、中谷達行、福江紘幸、岡山大学、ストロープ(株)
陰極真空アークプラズマを用いた医療用の新規 ta-C：H 膜の摩擦摩耗特性	ムハンマド アミヌル ヘルミ、中谷達行、清水一郎、岡山県工業技術センター
反応性バイポーラ HiPIMS プラズマによる医療用 DLC コーティング技術	福江紘幸、中谷達行、クルモフパレリー、小山裕雅、東京電子(株)、岡山県工業技術センター
ベンチュリー効果を利用したファインバブルの発生と直径変化評価	松浦宏治、(株)大生工業
3次元デジタルホログラフィ顕微鏡での生殖細胞の観察	松浦宏治、(株)マクシスエンジニアリング
精子運動性制御と評価に関する技術開発の取り組み	松浦宏治
人工関節用材料 Crosslinked-UHMWPE の耐摩耗性要因の解明	松浦洋司、宗藤真央、金枝敏明、帝人ナカシマメディカル(株)
タンパク質導入法を使った細胞機能の人工制御技術開発	斎藤夢奈、今谷友昭、山瀬貴大、周 伯陽、中野智貴、二見 翠
タンパク質をリガンドとして固定化した血液（血漿）吸着器の開発	原崎怜佳、河野伸太郎、原田雄作、二見 翠
表面筋電位を用いて操縦するロボットアームの操縦訓練支援システムの開発	澤田拓弥、林 良太、山川権一郎、酒井孔士、衣笠哲也、吉田浩治
ペンドラムテストにおける大腿骨－脛骨接触点移動の下腿運動への影響	石田 新、橋本一輝、東 和範、松浦佑樹、道西博行、太田寛志、岡山大学、川崎医療福祉大学
生体内組織形成術を用いて作製した再生医療用生体組織片の脱細胞化と評価★	長島 諒、岩井良輔、大分大学、国立循環器病研究センター、北海道大学
温度制御による細胞脱着が可能な動物細胞の大量培養用ビーズの開発	大梅有香、小松大貴、岩井良輔、北海道大学
細胞の自己集合化誘導剤とバイオプリンターを用いた新規 3D 細胞凝集塊作製法の開発	草加直幸、橋本真悟、岩井良輔、日産化学(株)
IDH 賦活化による癌細胞悪性化抑制効果の検討	植村 仁、神吉けい太
肝小葉模倣組織構築に向けた環状細胞凝集体の作製	福島竜弥、神吉けい太

I 獣医学分野

発表テーマ	発表者
アネキシン A5 を利用した GnRH 作用の検出	汾陽光盛
MRI を用いたカブトガニの体内の形態に対する三次元的検討	久楽賢治、宇根有美、西条市立東予郷土館



ポスター発表の様子

8.3 岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山県内の大学、研究機関、企業の研究成果を発表し地元企業との連携の機会を提供する目的で、岡山県産業振興財団の主催で実施されている。

< 2017 年度 > 第 22 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会

2018 年 2 月 28 日(水)、テクノサポート岡山にて開催された。ポスター展示の件数は 52 テーマ、オーラル・プレゼンテーションでは 13 件の研究テーマが紹介された。

本学からは下記のとおり 7 テーマを発表し、その内 3 テーマがオーラル・プレゼンテーションを行った。

第 22 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会 発表者一覧

2018 年 2 月 28 日(水) 13:00 ~ 17:15

発表者	テ マ
理学部 応用物理学科 石田 弘樹	超低周波ワイヤレス給電
技術科学研究所 中谷 達行	医療用チューブ内面への DLC コーティング技術の開発 *
工学部 知能機械工学科 藤本 真作	空気圧アクチュエータシステムの開発とその応用 *
工学部 バイオ・応用化学科 野嶽 勇一	ヒト常在菌の有用作用の解析とその新規活用法に関する研究
ワイン発酵科学センター 金子 明裕	ワインをはじめとした醸造・発酵と食品の機能性評価
工学部 生命医療工学科 猶原 順	UV-LED を用いた流水殺菌装置の性能評価方法に関する検討
工学部 バイオ・応用化学科 押谷 潤	振動流動層を用いた粒状混合物の乾式比重分離技術の開発 *

*: オーラル・プレゼンテーションを行った発表テーマ

< 2018 年度 > 第 23 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会

2019 年 2 月 28 日(木)、テクノサポート岡山において実施された。ポスター展示は 59 件。本年度は、大学等の各研究機関による産学連携の取り組みを紹介するコーナーが設置された。

本学からは下記のとおり 10 テーマを発表し、その内 5 テーマのオーラル・プレゼンテーションを行った。

第 23 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会 発表者一覧

2019 年 2 月 28 日(木) 13:00 ~ 16:30

発表者	テ マ
工学部 機械システム工学科 近藤 千尋	固体表面付近を含むガス流動の 2 次元瞬時流速分布計測法の開発
工学部 機械システム工学科 清水 一郎	マグネシウム塑性加工品の性能向上に寄与する局所組織制御技術 *
工学部 電気電子システム学科 秋山 宜生	半導体ナノワイヤーを用いた低電力ガスセンサ
理学部 応用物理学科 石田 弘樹	金属板越しのワイヤレス給電
工学部 知能機械工学科 赤木 徹也	低コスト空気圧制御機器の開発とリハビリテーション機器への応用 *
技術科学研究所 中谷 達行	DLC コーティング技術を応用した小口径人工血管の開発 *

工学部 知能機械工学科 藤本 真作	空気圧アクチュエータシステムを利用したパワーアシストスーツ*
ワイン発酵科学センター 金子 明裕	ワインをはじめとした醸造・発酵と食品の分析と機能性評価
工学部 生命医療工学科 猶原 順	UV-LED による水中のクリプトスピリジウムに対する不活化効果
工学部 バイオ・応用化学科 草野 圭弘	金彩備前焼の微構造と形成メカニズム*

*：オーラル・プレゼンテーションを行った発表テーマ

8.4 次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会

岡山県の次世代産業の振興を目的として、岡山県と岡山県産業振興財団が主催する「おかやま次世代関連技術研究会」が開催された。この中で、大学や高専の保有する研究シーズを参加企業と共有し連携の機会を探るために、「次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会」が開催されており、本学からも毎年研究シーズを提供している。

開催日	発表者	発表題目
2018 年 3 月 16 日	工学部 電気電子システム学科 教授 河村 実生	超伝導スーパーモータ・ジェネレータの研究開発
2019 年 3 月 15 日	工学部 情報工学科 講師 クラ エリス	次世代の IT 技術を使用する IoT 時代 ～実験とシミュレーション～

8.5 新技術説明会（さんさんコンソ新技術説明会）

本説明会は、中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）に加盟した大学が、技術移転可能な研究シーズを企業に紹介しマッチングを図る場である。特に、東京及びその周辺の企業の参加が見込まれるため発信力のある説明会である。

主催は、国立研究開発法人科学技術振興機構と中国地域産学官連携コンソーシアムで、会場は JST 東京本部別館 1F ホールで実施された。

2017 年度はテーマとして「介護工学新技術説明会」を設定し、介護需要に応える技術の研究シーズ紹介を行った。2018 年度は「ライフサイエンス分野」と「情報・通信分野」に関する研究シーズ紹介が企画されたが、本学からはテーマ紹介を行わなかった。

開催日	発表者	発表題目
2017 年 11 月 2 日	理学部 臨床生命科学科 教授 辻極 秀次	早期のリハビリテーションを可能にする頭蓋骨接合技術

8.6 イノベーションジャパン

イノベーションジャパンは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が主催する日本で最大級のマッチングイベントで、毎年、日本全国から 500 を超える大学・ベンチャー・中小企業等が一堂に会し、最先端の研究成果や開発技術が展示される。例年、25,000 名を超える来場者がある。会場は、東京ビッグサイト西展示場にて実施された。

本学からは「JST 大学見本市ゾーン」に以下の 2 テーマを展示した。2 日間の開催期間中それぞれ 100 名以上の来客があり、活発な情報交換や連携の可能性の相談などが行われた。

開催日	出展者	出展テーマ
2018 年 8 月 30 日、31 日	技術科学研究所 教授 中谷 達行	詰まりにくい細い人工血管を実現するチューブ内壁へのプラズマコーティング技術
	理学部 応用物理学科 准教授 石田 弘樹	超低周波ワイヤレス給電

9 知的財産

本学では建学の理念に則り、研究成果を社会に還元するために必要な知的財産の創出および活用についての指針として「知的財産に関する岡山理科大学の基本方針（知的財産権ポリシー）」を掲げている。

知的財産管理においては、知的財産の創造、その権利化による保護、及び事業実施による活用、その結果得られる収益の研究への再投資及び社会貢献という知的創造サイクル（図9-1）が定常的に形成され、円滑に稼働することが理想であり、目標でもある。本学では知的創造サイクルの構築と活性化に向けて「加計学園職務発明取扱規程」を整備し、職務発明判定委員会を中心に、規定に沿った運用を実施している。

職務発明判定委員会は委員長、常任委員及び発明の内容によって選出される専門委員によって組織され、発明届・成果有体物・知的財産権の管理等に関する審議を行っている。

以下に2017年度～2018年度における本学の知的財産の創造、保護、活用の状況をまとめた。



図9-1 知的創造サイクル

9.1 職務発明判定委員会の活動

9.1.1 発明届

教職員から提出された発明届について、職務発明判定委員会により決定した発明の帰属について2004年度以降の推移を表9-1及び図9-2にまとめた。2017年度は13件、2018年度は8件の発明届が提出され、全ての発明が学園帰属となった。

表9-1 発明届と帰属

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
発明届	6	6	8	9	8	11	6	9	5	6	5	10	18	13	8
学園帰属	2	0	2	5	2	5	5	7	3	4	5	8	18	13	8
個人帰属	1	5	2	2	4	5	0	2	2	2	0	2	0	0	0

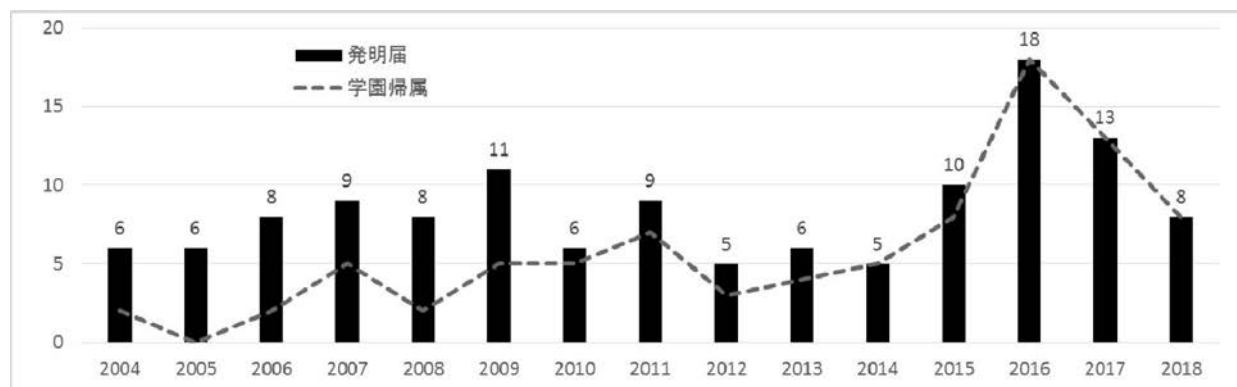


図9-2 発明届と帰属

職務発明判定委員会の専門委員として2017年度及び2018年度に審査を依頼した教職員を以下に記す。

理学部

池田 正五 教授 (生化) 石田 弘樹 准教授 (応物) 米田 稔 教授 (応物)
 橋川 成美 准教授 (臨床) 林 謙一郎 教授 (生化) 佐藤 泰史 准教授 (化学)
 森 嘉久 教授 (基礎)

工学部

赤木 徹也 教授 (知能) 笠 展幸 教授 (電気) 二見 翠 准教授 (生命)
 クラ エリス 講師 (情報) 安藤 秀哉 教授 (応化) 野嶽 勇一 教授 (応化)
 桑木 賢也 教授 (機械) 近藤 千尋 講師 (機械)

獣医学部

星 史雄 教授 (獣医) 北川 均 教授 (獣医) 江藤 真澄 教授 (獣医)

ワイン発酵科学センター

金子 明裕 教授

9.1.2 成果有体物

「学校法人加計学園成果有体物取扱規程」に基づき、教職員からの「成果有体物提供届出書」の提出に対し、職務発明判定委員会で成果有体物の提供の可否などについて審議し、その結果を理事長に報告している。

2017 年度は 1 件、2018 年度は 3 件の成果有体物提供届出書の提出があり、職務発明判定委員会が開催された。

9.1.3 知的財産権管理

特許権の実施許諾・譲渡・取下げ等の際には職務発明判定委員会で権利処分について検討し、公正かつ適正な知的財産権管理を行っている。

2017 年度は 5 件、2018 年度は 1 件の特許権の処分について職務発明判定委員会が開催された。

9.2 特許出願

9.2.1 日本出願

2019 年 3 月末現在で公開されている特許を表 9-2 にまとめた。登録済みが 35 件、出願公開中（審査請求含む）が 26 件、合計 61 件である。この他に出願未公開の特許が 16 件あるため、特許庁に係属している特許の合計は 77 件である。

表 9-2 公開された特許（出願番号順）

	特許番号	発明の名称	本学の発明者	共同出願
	出願番号			単独出願
1	特許第 4456442 号	窒化炭素の製造方法	財部健一	共同出願
	特 願 2004-256438			
2	特許第 4737608 号	マッキベン型アクチュエータ及びマッキベン型 アクチュエータによる負荷牽引装置及び方法	堂田周治郎、赤木徹也	単独出願
	特 願 2005-223937			
3	特許第 4665252 号	人工飼育水による養殖システム	山本俊政	共同出願
	特 願 2006-354868			
4	特許第 5062550 号	人工飼育水	山本俊政	共同出願
	特 願 2006-328673			

5	特許第 4894004 号 特 願 2007-076513	尿素濃度測定方法及び尿素濃度測定装置	中川益生、岡林 徹、 尾崎真啓	単独出願
6	特許第 4931065 号 特 願 2007-087260	衝突型マイクロミキサー	吉澤秀和、平野博之、 妹尾典久	共同出願
7	特許第 5259984 号 特 願 2007-132212	無限軌道装置及びこの無限軌道装置を備えた移動装置若しくはロボット	衣笠哲也、吉田浩治、 大谷勇太、大須賀公一	単独出願
8	特許第 5234449 号 特 願 2007-238382	尿素濃度測定方法及び尿素濃度測定装置	中川益生、石丸哲平	単独出願
9	特許第 5504526 号 特 願 2008-078924	マイクロリアクターを用いてスラグ流を形成する方法	平野博之	共同出願
10	特許第 5376305 号 特 願 2009-107198	画像表示方法及び画像表示装置並びに画像表示プログラム	島田英之	共同出願
11	特許第 5622140 号 特 願 2009-111897	複合粒子を含む粉体及びその製造方法	福原 実、草野圭弘、 小林俊介	共同出願
12	特許第 5578401 号 特 願 2009-178426	観賞魚飼育水、トリートメント水、及び観賞魚用トリートメント水生成物質	山本俊政	共同出願
13	特許第 5684464 号 特 願 2009-203355	D- マンデル酸誘導体脱水素酵素	三井亮司、田中三男	単独出願
14	特許第 5717119 号 特 願 2010-10403	L- 乳酸の製造方法及び新規微生物	滝沢 昇、村上 翔	単独出願
15	特許第 5487377 号 特 願 2010-068848	人工飼育水による養殖システム	山本俊政	共同出願
16	特許第 4665258 号 特 願 2010-068849	人工飼育水による養殖システム	山本俊政	共同出願
17	特許第 5487378 号 特 願 2010-068850	人工飼育水	山本俊政	共同出願
18	特許第 5364874 号 特 願 2010-068851	人工飼育水	山本俊政	共同出願
19	特許第 5669059 号 特 願 2010-109575	超伝導モーター又は超伝導発電機	河村実生	単独出願
20	特許第 5700445 号 特 願 2011-168061	超伝導モーター	河村実生	単独出願
21	特許第 5967873 号 特 願 2011-155370	人工股関節	金枝敏明	共同出願
22	特許第 5294177 号 特 願 2011-216588	3次元形状データ処理方法、3次元形状データ処理装置	島田英之	共同出願
23	特許第 5120904 号 特 願 2011-539381	微結晶セレンからなるガス感受性材料及びそれを用いたガスセンサ	秋山宜生、大谷楓男	単独出願
24	特許第 6124404 号 特 願 2013-94304	サーチュイン活性促進剤の製造方法並びにサーチュイン活性促進剤及びそれを含む組成物	益岡典芳	共同出願
25	特許第 5641459 号 特 願 2013-187712	透析排液から患者の体液内の初期溶質量を決定する装置	中川益生、尾崎真啓、 堀 純也、門脇弘樹	単独出願
26	特許第 5637300 号 特 願 2013-507602	試料溶液濃度測定方法及び試料溶液濃度測定装置	中川益生、櫻武敬祐	共同出願
27	特許第 6372817 号 特 願 2014-065688	臓器線維化抑制剤	林 謙一郎	共同出願

28	特許第 6099056 号 特 願 2014-139118	光電流を利用したセレンナノワイヤーのガスセンサ	秋山宜生	単独出願
29	特許第 6057477 号 特 願 2014-210680	無線給電方法及び装置	石田弘樹	共同出願
30	特許第 5804438 号 特 願 2014-533156	ガスセンサ、ガス分析方法及びガス分析システム	秋山宜生	単独出願
31	特許第 6284159 号 特 願 2014-548466	エリスロポエチン発現増強剤	林 謙一郎	共同出願
32	特 願 2015-24181	尿素濃度測定方法及び尿素濃度測定装置	中川益生	共同出願
33	特 願 2015-88466	電気化学発光を用いた抗酸化力測定装置	永谷尚紀	共同出願
34	特許第 6462490 号 特 願 2015-109433	超伝導モーター及び超伝導発電機	河村実生	単独出願
35	特 願 2015-152489	ミトコンドリア局在蛍光化合物	林 謙一郎	共同出願
36	特 願 2015-238080	表面組織の緻密化によるセラミックスの強度向上方法	清水一郎	共同出願
37	特許第 6056949 号 特 願 2015-240627	エビカニ、シャコ等の甲殻類の種苗養殖水とこれを用いた種苗養殖方法	山本俊政	共同出願
38	特許第 6233858 号 特 願 2015-545269	ガスセンサ及びガスセンサアレイ	秋山宜生	単独出願
39	特 願 2015-240970	ミトコンドリア病治療剤	林 謙一郎	共同出願
40	特 願 2015-236979	医療用ガイドワイヤー	中谷達行	共同出願
41	特 願 2015-239709	生体吸収性医療器具及びその分解速度調整方法	中谷達行	共同出願
42	特 願 2016-127040	メラニン生成抑制剤	安藤秀哉	共同出願
43	特 願 2016-155465	超伝導回転機	河村実生	単独出願
44	特 願 2016-146056	超伝導モーター	河村実生	単独出願
45	特 願 2016-164271	電流制御 DC/DC コンバータのスイッチングリプル低減法	麻原寛之	単独出願
46	特 願 2016-203970	交流モータの制御方法及び制御装置	笠 展幸	単独出願
47	特 願 2016-214676	乾式比重選別装置	押谷 潤	共同出願
48	特 願 2016-257901	乾式比重差選別装置	押谷 潤	共同出願
49	特 願 2016-220997	ライソゾーム病の治療剤	林 謙一郎	共同出願
50	特 願 2016-228643	頭蓋骨接合部材	辻極秀次	単独出願
51	特許第 6502405 号 特 願 2017-36047	危険個所に防災気象情報発表基準を設定する方法	佐藤丈晴	共同出願
52	特 願 2017-063353	半導体ナノワイヤーを用いた水素ガスセンサ	秋山宜生	単独出願
53	特 願 2017-063230	粘土焼成建材	清水一郎	共同出願
54	特 願 2017-017130	生体吸収性ステント	清水一郎	共同出願
55	特 願 2017-017131	マーカーを備えた生体吸収性ステント及びその製造方法	清水一郎	共同出願
56	特 願 2017-042037	成膜方法	中谷達行	共同出願
57	特 願 2017-084312	推力方向制御装置	丸山祐一	単独出願
58	特 願 2017-118094	高機能 CO ₂ 回収剤	林 宏哉	単独出願
59	特 願 2017-087536	窒化处理装置	中谷達行	共同出願
60	特 願 2017-547621	コラーゲン産生抑制剤	林 謙一郎	共同出願
61	特 願 2017-553597	滅菌用コンタクトレンズケース	中谷達行	共同出願

9.2.2 外国出願

外国出願は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受けて出願することを原則としている。公開された外国出願について、出願状況を表 9-3 に示す。

表 9-3 外国出願の状況

外国出願番号	移行国登録番号	発明の名称	発明者	備考
PCT/JP2008/054943	独：11 2008 000 740	尿素濃度測定方法及び尿素濃度測定装置	中川益生 岡林 徹 尾崎真啓	単独出願
	日：特許第 4894004 号			
PCT/JP2008/066354	日：特許第 5234449 号	化学発光測定方法及び化学発光測定装置	中川益生 石丸哲平	単独出願
PCT/JP2009/064738	独：11 2009 002 012	尿素濃度測定方法及び尿素濃度測定装置	中川益生 石丸哲平	単独出願
PCT/JP2010/069614	米：USP 9,134,265	微結晶セレンからなるガス感受性材料及びそれを用いたガスセンサ	秋山宜生 大谷楓男	単独出願
	韓：10-1447788			
	日：特許第 5120904 号			
PCT/JP2012/57913	独：11 2012 001 473.1	試料溶液濃度測定方法及び試料溶液濃度測定装置	中川益生 櫻武敬祐	共同出願
	日：特許第 5637300 号			
PCT/JP2013/073577	米：USP 9,759,676 日：特許第 5804438 号	ガスセンサアレイ、ガス分析方法及びガス分析システム	秋山宜生	単独出願
PCT/JP2013/006916	中：ZL 201380071092.6 米：USP 6,284,159 欧：EP 2923700	エリスロポエチン発現増強剤	林 謙一郎	共同出願
PCT/JP2014/078760	日：特許第 6099056 号	ガスセンサ及びガスセンサアレイ	秋山宜生	単独出願
PCT/JP2015/005455		臓器線維化疾患の治療剤	林 謙一郎	共同出願
PCT/JP2015/084081		エビカニ、シャコ等の甲殻類の種苗養殖水とこれを用いた種苗養殖方法	山本俊政	共同出願
PCT/JP2016/004714		コラーゲン産生抑制剤	林 謙一郎	共同出願
PCT/JP2015/84214		滅菌用コンタクトレンズケース	中谷達行	共同出願
PCT/JP2018/002669		生体吸収性ステント	清水一郎	共同出願
PCT/JP2018/008442		成膜方法	中谷達行	共同出願

9.3 知的財産権セミナー

研究・社会連携室では、知的財産についての啓発を目的に、知的財産権セミナーを実施している。このセミナーは、教職員対象と学生対象をそれぞれ実施し、特に学生を対象としたセミナーでは学外から講師を招くなど、内容の充実を図っている。

2017 年度及び 2018 年度の知的財産権セミナーの開催及び参加者は以下の通りであった。

表 9-4 知的財産権セミナーの開催日時と参加人数

開催日	参加者数	カリキュラム
2017 年 7 月 14 日、19 日	20 名	教職員向け知的財産権セミナー
2017 年 10 月 13 日	53 名	第 1 回 学生向け 知的財産権の概要
2017 年 10 月 20 日	37 名	第 2 回 学生向け 特許情報検索実習
2017 年 10 月 27 日	33 名	第 3 回 学生向け 弁理士による特許入門講演
2017 年 7 月 14 日、20 日	15 名	教職員向け知的財産権セミナー（14 日：岡山、20 日：今治）
2018 年 10 月 12 日	42 名	第 1 回 学生向け 知的財産権の概要
2018 年 10 月 19 日	35 名	第 2 回 学生向け 特許情報検索実習
2018 年 10 月 26 日	29 名	第 3 回 学生向け 弁理士による特許入門講演

10 産学官間の協定締結

2017年度～2018年度の協定については、海外においては「岡山理科大学ビジョン2026」に基づき、「海外で研究拠点形成やネットワーク形成」を目的として、本学の重点国としているモンゴルおよびフィリピンの高等教育機関との連携協定の締結を行った。

国内においては、「地域の課題解決や活性化に貢献し、地域と共に発展する大学」を実現するため、岡山県、愛媛県内の公的機関、高等教育機関等との連携協定を行うなど、2年間で11件の協定を締結し、本学の協定締結は、31機関となった。

◇モンゴル国立教育大学

教職員および学生交流、単位互換プログラム、研究交流など教育・研究に係る包括協定書を締結した。具体的には、好適環境水の技術移転を念頭に置いた研究交流、モンゴルでのフィールドワークを想定した交流プログラムの実施などを計画している。

◇倉敷市・ふなおワイナリー有限会社

倉敷市と地方創生、人材（学生）の育成と地域定着を目的とし、包括的に連携、協力する協定を締結した。また、より強固な連携を築くために同日に「ふなおワイナリー有限会社」を加えた三者間協定も締結し、ワイン醸造に用いるブドウの新品種の共同開発を行っている。

◇大阪市天王寺動物園

動物園動物を用いた教育研究の促進、専門的人材の育成、古生物を含む多様な動物に関する調査研究、共催行事の開催による地域社会への貢献など、教育研究分野での相互の機能の充実、発展を目的としている。

◇モンゴル生命科学大学

教職員・学生等の人材交流、教育・研究分野での連携協力を目的とした包括連携協定を締結した。更に、モンゴル生命科学大学獣医学部と本学獣医学部間での連携協定も締結し、獣医学分野において幅広く交流を図ることで、相互の発展を目指している。

◇吉備中央町（岡山県）・吉備高原サブライトレーニング

引退競走馬を活用した観光活性化、地域おこし活動を通して地域振興、人材育成に取り組む包括連携協定を締結した。同時に、本学経営学部イノベーションラボにおける学生の主体的な学びの場となり、地方創生モデルづくりに期待できる。

◇マプア大学（フィリピン共和国）

ワシントン協定に基づいた教育連携、サマープログラムを通じた学生交流、相互の学生派遣、共同研究の実施など教育・研究分野における交流協定を締結した。今後、工学教育分野の国際標準カリキュラムや語学研修などの教育交流、教員交換による研究交流など幅広い交流を計画している。

◇岡山県立大学

学術面や地域社会貢献など幅広い分野で連携、協力する包括協定を締結した。両学は、2015年度より産学官などが一体となって若者が岡山で学び、暮らし、働いて地域に定着することを目指す「おかやまCOC+」事業を協働で推進してきたが、更に連携を深め、相互の強みを生かした交流の拡充が期待できる。

◇今治市（愛媛県）・愛媛県獣医師会

地域及び産業の活性化、教育及び文化振興、人材育成などを目的とした包括的な連携協定を締結した。また、今治キャンパスを災害時のペット同行避難拠点とし、被災者が同行する伴侶動物（犬・猫）の保護、応急手当、健康管理などを行う『災害時における動物救護活動及び被災者への救助活動に関する連携協定』も締結した。

◇岡山県ゴルフ協会

ゴルフを通してルールやマナー、チームビルディングなどの社会人基礎力を養成していくことを目的として包括連携協力協定を締結した。教育研究活動での連携に加え、地域での各種ゴルフ競技、ジュニア育成事業への参画と協力などを通して地域貢献を行う。

協定締結機関（2019年3月31日時点 31機関 ※締結日順）

中小企業金融公庫（現 日本政策金融公庫）岡山支店（2006年2月）
国土交通省 中国地方整備局（2007年3月）
日本ネットワークセキュリティ協会（2007年3月）
おかやま信用金庫（2008年2月）
国立大学法人 岡山大学（2008年6月）
有限会社屋久島野外活動総合センター（2008年11月）
国立大学法人 京都大学化学研究所（2009年8月）
株式会社トマト銀行（2009年10月）
ナカシマホールディングス株式会社（2009年11月）
津山工業高等専門学校（2010年4月）
浅口市岡山天文博物館（2011年10月）
株式会社林原（2013年10月）
モンゴル科学アカデミー古生物学研究センター（2013年10月）
一般財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（2014年6月）
福山市立動物園（2015年3月）
岡山県生涯学習センター（2015年6月）
ワライラック大学（2016年7月）
吉備路文学館（2016年8月）
tetta 株式会社、新見市（2017年3月）
国立大学法人 愛媛大学（2017年3月）
モンゴル国立教育大学（2017年8月）
倉敷市（2018年2月）
ふなおワイナリー有限会社（2018年2月）
大阪市天王寺動物園（2018年3月）
モンゴル生命科学大学（2018年5月）
吉備中央町（岡山県）・吉備高原サラブリトレーニング（2018年8月）
マプア大学（フィリピン共和国）（2018年9月）
岡山県立大学（2018年11月）
今治市（愛媛県）（2018年12月）
愛媛県獣医師会（2018年12月）
岡山県ゴルフ協会（2019年2月）

11 産学官金連携活動

11.1 地域における主な産学官金連携活動

11.1.1 岡山・産学官連携推進会議

岡山・産学官連携推進会議は、県民力を結集し産業振興を進めるため、産学官の関係機関が広く議論し、構成機関の自主的な活動のもと、産学官連携による岡山県の産業振興を推進することを目的に2003年3月に設立された。これまでの推進会議の取組等により、産学官連携に対する産業界・大学等の認知度や重要性も高まり、県内でも産学官が連携した取組が多く展開される状況となっている。

11.1.1.1 全体委員会

構成機関のトップによる全体委員会は、本県の産業振興の大きな方向性について議論する場とし、必要に応じて開催する。

2017、2018 年度開催なし。

11.1.1.2 幹事会

岡山・産学官連携推進会議全体の企画・運営等について協議、決定する場として、全体委員会の下に設置し、経済界・大学等の代表者が指名する者（実務者レベル）で構成される。

推進会議の目的を達成するため、産学官連携情報の発信、コーディネート機能の強化、共同研究・共同開発の機会創出支援、その他必要な事業を行う。

【幹事会】

(2017 年度)

行事名	日程	内 容	本学参加者
第1回幹事会	2017 年 5 月 23 日	・ 2016 年度事業報告、2017 年度事業計画等について ・ コーディネート力向上セミナー	中村 桑本、多田
企業訪問	2017 年 12 月 22 日	・ 工業技術センター ・ モリマシナリー	桑本、多田
幹事会 WG		・ 岡山・産学官連携推進会議の取り組みについて	中村

(2018 年度)

行事名	日程	内 容	本学参加者
産学官交流事業	2018 年 11 月 20 日	和気郡企業等経営者交流会	桑本
第1回幹事会	2019 年 2 月 12 日	・ 2017 年度事業報告、2018 年度事業計画等について ・ 大学と連携した地域産業振興事業について	中村、桑本
企業訪問	2019 年 2 月 21 日	オーエヌ工業	桑本
幹事会第1回 WG	2019 年 3 月 19 日	・ 大学と連携した地域産業振興事業について	中村、桑本

11.1.2 おかやまコーディネータ連絡会

大学をはじめ産業支援機関や産学官連携組織、金融機関等に配置されているコーディネータ等の相互の交流や情報の共有化およびマッチング効果を上げるための実践的な活動を通じたネットワークの強化等を行い産学官連携による地域発イノベーションの創出を図る。

(2017 年度)

行事名	日程	内 容	本学参加者
おかやまコーディネータ連絡会	2017 年 5 月 23 日	(1) コーディネート力向上セミナー 演題 『医療人と企業人の夢を早期実現する「やさしい医工連携」』 講師 島根大学 産学連携センター 地域医学共同研究部門 教授 医学部兼任教授 中村 守彦 様 (2) 総会 ・2016 年度事業実績について ・2017 年度事業計画（案）について	
産学官連携フォローアップセミナー	2018 年 2 月 13 日	・講演Ⅰ：“儲ける”ことを創造する産学金官連携について 四国 TLO 株式会社テクノネットワーク四国 技術移転部 マネージャー 辻本 和敬 氏 ・講演Ⅱ：産学金官連携に係るコーディネータ活動の報告 岡山県立大学 地域共同研究機構 産学官連携推進センター コーディネータ 森安 賢治 氏 ・講演Ⅲ：産学金官連携に関する取組みと事例発表 おかやま信用金庫 価値創造部 ビジネスサポートグループ 課長代理 工藤 真人 氏	桑本

(2018 年度)

行事名	日程	内 容	本学参加者
おかやまコーディネータ連絡会	2018 年 5 月 22 日	(1) コーディネート力向上セミナー ・演題：「共同研究の実績から見る産学連携の実情と産学連携コーディネータ」 講師：島根大学 学術研究院 理工学系 教授 北村 寿宏 様 (2) 総会 ・2017 年度の事業実績について ・2018 年度事業計画（案）について	中村、横溝 桑本
産学官連携フォローアップセミナー	2019 年 2 月 4 日	・講演Ⅰ：新たな産学金官連携“金融モデル”を目指して 山形大学大学院理工学研究科 ものづくり技術経営学専攻 副専攻長 教授 博士（学術） 山形大学産学連携推進本部長 理事 （副学長）特別補佐 C&C ひがしね チーフプロデューサー 小野 浩幸 氏 ・講演Ⅱ：藤クリーン株式会社の産学金官連携事例 ～“がれき”（建設混合廃棄物残渣）の再資源化に向けた高度選別技術の開発研究～ 株式会社コンケン 専務取締役 近藤 隆志 氏 グループワーク：「ケーススタディ」 岡山大学 研究推進産学官連携機構 産学官融合センター 教授 博士（学術） 藤原 貴典 氏	桑本

11. 1. 3 ミクロものづくり岡山推進協議会

精密生産技術を核とした岡山版産業クラスターの形成を目指し、産学官連携による新技術・新製品の開発、人材育成、販路開拓等、各種事業に取り組んでいる。

11.1.3.1 ミクロものづくり岡山推進協議会総会

来年度の活動方針等の協議と「ミクロものづくり岡山」の今後の活動の方向性を探るためのセミナーを開催している。

年度	日程	内 容	本学参加者
2017 年度	2018 年 1 月 17 日	総会 ①開会挨拶 会長（岡山県知事）伊原本隆太 氏 ②2017 年度の活動状況報告（推進協議会事務局） ③2018 年度の活動方針 ブランド戦略委員会委員長 （岡山県立大学 情報工学部長）尾崎 公一 氏 ④閉会挨拶 副会長（岡山県経済団体連絡協議会座長） 中島 博 氏 セミナー モノづくり企業のデザイン活用によるブランド力向上事例 株式会社英田エンジニアリング 代表取締役社長 万殿 貴志 氏	桑本
2018 年度	2019 年 1 月 24 日	総会 ①開会挨拶 会長（岡山県知事）伊原本隆太 氏 ②2018 年度の活動状況報告（推進協議会事務局） ③2019 年度の活動方針 ブランド戦略委員会委員長 （岡山県立大学 情報工学部長）尾崎 公一 氏 ④閉会挨拶 副会長（岡山県経済団体連絡協議会座長） 中島 博 氏 事例発表 デザインを活かした自社製品開発 ～町の鉄工所ならではの美学～ 株式会社タグチ工業 代表取締役 田口 裕一 氏	折田、桑本

11.1.3.2 ミクロものづくり岡山ブランド戦略委員会

推進協議会の役員会として位置付けて、重点事項の検討、アクションプランを策定し、今後の戦略、具体的活動を推進する。

年度	日程	内 容	本学参加者
2017 年度	2017 年 8 月 31 日	・「ミクロものづくり企業のさらなる発展に向けて 2017 年度～2020 年度の活動の指針」について ・2018 年度に向けて意見交換	桑本
	2017 年 11 月 30 日	・ミクロものづくり岡山推進協議会総会について ・2017 年度の活動状況について ・2018 年度の活動方針について	桑本
2018 年度	2018 年 8 月 31 日	(1) 「ミクロものづくり企業のさらなる発展に向けて 2017 年度～2020 年度の活動の指針」の実施に向けて (2) 2019 年度に向けて意見公開	多田
	2018 年 11 月 27 日	(1) ミクロものづくり岡山推進協議会総会について (2) 2018 年度の活動状況について (3) 2019 年度の活動方針について	桑本

11.1.4 産学官連携に関する広報活動（活動の紹介及び広報誌リエゾンの作成・配布）

11.1.4.1 広報活動

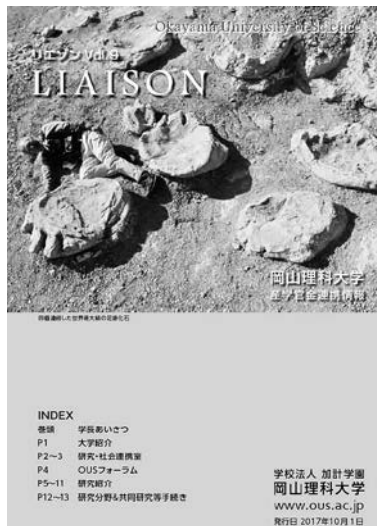
外部団体の依頼を受けて、本学の産学官連携についてプレゼンテーション等を行った。

年度	依頼団体	日程
2017 年度	平成 29 年度支援制度説明会	2017 年 5 月 15 日
	岡山工業会 通常総会懇親会	2017 年 5 月 31 日
	岡山県中小企業家同友会	2017 年 7 月 26 日
	岡山ヘルスケア産業連携協議会	2017 年 8 月 21 日
	BP コンテスト岡山 キックオフカンファレンス	2017 年 8 月 22 日
	しんきん合同ビジネス交流会	2017 年 9 月 13 日
	岡山ヘルスケア産業連携協議会	2017 年 9 月 25 日
	日本公庫岡山友の会	2017 年 10 月 1 日
	さんさんコンソ 新技術説明会	2017 年 11 月 2 日
	しんくみビジネス交流会	2017 年 11 月 22 日
	OTEX2018	2018 年 1 月 17 日
	岡山ビジネスプランコンテスト	2018 年 1 月 18 日
	食品関連技術における大学シーズ活用発表会	2018 年 1 月 19 日
	岡山工業会 新年互礼会	2018 年 1 月 29 日
	真庭市 産学官交流	2018 年 2 月 9 日
	中小企業支援制度説明会（岡山）	2018 年 2 月 16 日
	中小企業支援制度説明会（津山）	2018 年 2 月 21 日
	リサーチパーク研究テーマ展示会	2018 年 2 月 28 日
	次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会	2018 年 3 月 16 日
	食品関連技術における「大学」×「岡山市内企業」マッチング会	2018 年 3 月 19 日
2018 年度	岡山工業会 通常総会懇親会	2018 年 5 月 30 日
	岡山ヘルスケア産業連携協議会	2018 年 8 月 8 日
	イノベーションジャパン	2018 年 8 月 29 日
	第 14 回おかやましんきんビジネス交流会	2018 年 9 月 13 日
	産学官大学シーズ発表会	2018 年 9 月 15 日
	大学生まちづくりチャレンジ事業 中間報告会	2018 年 11 月 3 日
	しんくみビジネスマッチング	2018 年 11 月 14 日
	産学官大学シーズ発表会	2018 年 12 月 12 日
	OTEX2019	2019 年 1 月 24 日
	岡山ビジネスプランコンテスト	2019 年 1 月 24 日
	岡山工業会 新年互礼会	2019 年 1 月 29 日
	KMS メディカルアーク 2019	2019 年 2 月 7 日
	公庫岡山友の会	2019 年 2 月 12 日
	中小企業支援制度説明会（岡山）	2019 年 2 月 15 日
	中小企業支援制度説明会（津山）	2019 年 2 月 21 日
	リサーチパーク研究テーマ展示会	2019 年 2 月 15 日
	次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会	2019 年 3 月 15 日
	岡山産学官連携推進会議	2019 年 3 月 19 日

11. 1. 4. 2 広報誌「LIAISON」

本学の産学官連携活動を紹介する広報冊子「LIAISON リエゾン」を2009年度から年1回発行している。同冊子は本学の研究シーズや産学官連携の紹介を目的に、岡山県内を中心に企業等へ配付し、本学の研究活動の紹介を行っている。

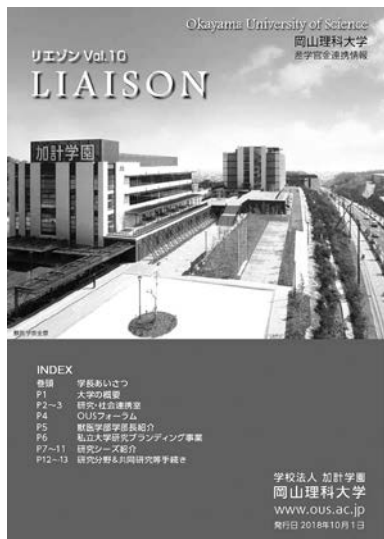
● 2017年10月発行 LIAISON vol.9



掲載記事・研究者

- 「博物館でマーケティング?!」 石垣 忍
「ワインをはじめとした醸造・発酵と食品の機能性評価」 金子 明裕
「世界に通用する人材を育成するために」 眞砂 和典
「うつ病発症に関係する新たなタンパク質を発見」 橋川 直也
「新たなビジネスモデルに向けた価値共創マーケティングの展開」 村松 潤一
「つながりのある小中高の新たな英語教育
ーグローバル化に対応した英語教育改革のもとでー」 坂本 南美
「塑性加工品の高精度化・高機能化への挑戦」 寺野 元規
「プロと素人の垣根を越える！VRを用いた共同創作への取り組み」 馬淵 大宇
「理大発の難病ミトコンドリア病治療薬」 林 謙一郎
「常在菌を意識！
ー乳酸菌で元気はつらつ&美肌菌でお肌ぷりっぷりー」 野嶽 勇一
「赤外ー可視分光測定用反射光学顕微鏡の開発」 山本 薫
「モーションキャプチャーの応用研究」 北川 文夫

● 2018年10月発行 LIAISON vol.10



掲載記事・研究者

- 「獣医学部開設にあたって」 吉川 泰弘
「チーム『オール理大』、恐竜に挑む」 石垣 忍
「地域・社会に期待される役割を具現化する『イノベーション・ラボ』とは？」 鷺見 哲男
「土と炎が織りなす芸術の科学ー金彩備前焼の微構造と再現ー」 草野 圭弘
「生きた遺産＝リビング・ヘリテージのまちづくり」 八百板季穂
「社会ニーズに応えた次世代有機材料の開発」 東村 秀之
「臨床生命科学科で恐竜研究？」 辻極 秀次
「高い耐久性を有する有機機能性材料の創出」 岩永 哲夫
「ソーシャルビッグデータを用いた観光の分析」 廣田 雅春
「古代の種子から食べ物の歴史を探る」 那須 浩郎

11.1.5 大学生まちづくりチャレンジ事業

岡山市は、地域づくりの次代を担う人材が、地域に定着し活躍できる環境づくりを進める目的で、大学生が地域や企業、NPO 等と協働して取り組む、地域における活動に対し補助金を交付し支援する「大学生まちづくりチャレンジ事業」を 2017 年度から実施しています。

本学では 2018 年度の活動に 3 グループが参加しました。そのうち、岡山理科大学経営学部イノベーション・ラボセンターの事業は審査委員特別賞を受賞しました。

団 体 名	団体代表者	事 業 名	参加学生
岡山理科大学経営学部 イノベーション・ラボセンター	川島 聡	岡山市内 33 駅を対象とした、学生・障害者・関係主体の協働によるバリアフリーマップの作製	岡田 磨生 他 10 名
科学ボランティアセンター 学生スタッフ会	高原 周一	科学を通じた地域の学び場づくり	伊藤 巧馬 他 8 名
岡山日本酒応援隊 OMACHI	猪口 雅彦	岡山の酒造りの魅力を伝えるパンフレットづくり	柴田 京香 他 2 名

11.2 産学官金連携推進における外部団体役員一覧

(2019年3月現在 順不同、敬称略)

(岡山地域)

水島工業地帯産学官懇談会	(学長；会員)
岡山県・産学官連携推進会議	
全体委員会	(岡山理科大学；構成メンバー)
幹事会	(中村、桑本；幹事)
ミクロものづくり岡山推進協議会	(岡山理科大学；会員)
ミクロものづくり岡山ブランド戦略委員会	(桑本；委員)
(公財)八雲環境科学振興財団	(星野；評議員)
岡山セラミックスフォーラム	(星野；委員)
岡山県企業誘致推進協議会	(滝澤、クルモフ、池田正、三井、松浦、近藤、中村修、桑本)
(企業誘致アドバイザー)	
大学コンソーシアム岡山	
運営委員会	(平野、宮本正；委員)
将来構想委員会	(平野；委員)
共同教育委員会	(上嶋、村上；委員)
障がい学生支援委員会	(大熊；副委員長)
社会人教育委員会	(山口；委員)
就職支援委員会	(河野敏；委員)
地域貢献委員会	(高原；副委員長)
岡山地区高分子懇話会	(大坂；幹事、山田真；会計幹事)
(特非)メディカルテクノおかやま	(金枝；会員)
岡山県医用工学研究会	(金枝；副会長、神吉、木原；幹事)
岡山バイオマスプラスチック研究会	(山田真、石原；会員)
おかやまバイオアクティブ研究会	(濱田、三井；委員)
岡山新材料技術融合フォーラム	(清水一；事務局、中井；幹事)
おかやま生体信号研究会	(松浦；幹事、堂田；監事)
半導体ネットおかやま	(財部；代表、笠；副代表)
解析シミュレーションネット OKAYAMA	(矢城、近藤；運営委員)
岡山地区化学工学懇話会	(平野、永谷；会員)
岡山県呼吸ケア研究会	(尾崎真、堀；実行委員)
(一社)岡山県臨床工学技士会	(堀；事務局補佐)
(特非)NPO 救命おかやま	(堀；理事)
倉敷市立自然史博物館	(小林祥；協議会委員)
岡山県湖沼水質保全計画策定検討会	(齋藤；委員)
岡山市環境総合審議会	(汪；委員)
岡山市水道事業審議会	(杉山；副会長)
岡山県自然環境保全審議会	(波田、小林秀；委員)
岡山市公害対策審議会	(横山崇；委員)
岡山市景観審議会	(弥田；委員)
岡山市都市・消防政策審議会	(後藤；会長)
岡山市まち・ひと・しごと創成市民会議	(鷺見；委員)
岡山県 CLT 建築開発検討会	(小林正、弥田；委員) 2017 年度終了
岡山県建築士事務所協会 CLT 研究開発委員会	(弥田；委員)
岡山県構造計算適合性判定専門委員会	(小林正；委員)
新見市まちづくり審議会	(山口隆；計画策定アドバイザー)
倉敷市伝統的建造物群保存地区保存審議会	(江面；委員)

牛窓しおまち唐琴通りの保存と活性化プロジェクト	(山口隆；メンバー)
岡山県環境放射線等測定技術委員会	(大橋；委員)
岡山県環境影響評価技術審査委員会	(大橋；委員)
赤磐市第2次山陽遺跡整備委員会	(亀田；委員)
津山市歴史文化基本構想等審議会	(能美；委員)
真庭市文化財審議会	(白石；委員)
岡山市教育委員会文化財課	(武山；専門委員)
岡山県野生動植物調査検討会	(星野；委員)
岡山県生涯学習センター運営協議会	(高原；委員)
岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア専門委員会	(高原；副委員長)
岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター（ゆうあいセンター）運営委員会	(高原；委員)
備前市空家等対策協議会	(八百板；副会長)
188cm 望遠鏡運営委員会	(福田；運営委員)

(その他)

(公財)医療機器センター臨床工学技士国家試験	(堀；試験委員)
(一社)日本臨床工学技士教育施設協議会	(堀；監事)
医療工学技術者創成のための再教育システム	(松木；理事)
日田市史跡咸宜園整備委員会委員	(江面；委員長)
福山市特別史跡廉塾ならびに菅茶山旧宅保存管理計画策定委員会	(江面；委員)
倉吉市伝統的建造物群保存地区保存審議会	(江面；委員)
大山町所子伝統的建造物群保存地区審議会	(江面；委員)
内子町伝統的建造物群保存地区保存審議会	(江面；会長)
大洲市歴史的風致維持向上計画推進協議会	(江面；委員)
岡山県文化財保護審議会委員	(江面；委員)
香川県文化財保護審議会委員	(江面；委員)
安芸市伝統的建造物群保存地区保存審議会	(江面；委員長)
日田市文化財保存審議会	(江面；委員)
渡名喜村伝統的建造物群保存地区保存審議会	(江面；会長)
文化財修理技術保存連盟	(江面；参与)
社寺美術協議会	(江面；顧問)
日本伝統建具技術保存会	(江面；評議員)
(一社)日本茅葺き文化協会	(江面；理事)
(一財)因幡街道ふるさと振興財団	(江面；理事)
(特非)IGDA 日本	(山根；理事)
中四国ゲームジャム実行委員会	(山根；委員長)
(一社)クリエイティブシティ高梁推進協議会	(山根；設立理事)
宇多津町まちづくりファンド選定委員会	(山口隆；選定委員)
環境省アカミミガメ対策に関する意見交換会	(亀崎；検討委員)
明石・神戸アカミミガメ対策協議会	(亀崎；会長)
兵庫県農林水産総合研究センター	(亀崎；外部評価委員)
農都ささやま外来生物対策協議会	(亀崎；会長)
文部科学省文化財審議会（文化財分科会）	(亀田；専門委員)
鳥取県文化財保護審議会	(亀田；委員)
国土交通省中国地方整備局	(佐藤丈；防災ドクター)

国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所岡山地域道路防災検討部会

(佐藤丈；部会員)

文部科学省中央教育審議会・実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会

(寺田；委員)

名古屋大学宇宙地球環境研究所運営協議会

(兵藤；委員)

日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会地質年代学小委員会

(兵藤；委員)

大分市高崎山管理委員会

(清水慶；副会長)

高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用選定委員会

(畠山；外部選定委員)

12 受賞者

2017 年度、2018 年度において、学会および産学連携の研究発表会において表彰された研究について以下に示す。

(研究連携支援室に報告のあったものを掲載している)

(1) 受賞者名	堀 純也 准教授 (理学部 応用物理学科)
受賞名	第 7 回中四国臨床工学会 Best Presentation Award 一般演題の部 最優秀演題賞
学会・機関名	日本医療福祉設備学会 (2017 年 11 月)
受賞内容	【受賞対象研究題目】演題名「マイクロバブルを利用したダイアライザ内部の拍動流の観測と流速解析」抄録を事前審査し、審査対象 6 演題を選出。選出された演題について当日の発表に対し、①研究目的の明確さ、②研究方法の妥当性、③研究の新規性、④議論・論理展開の妥当性、⑤スライドのデザイン、⑥プレゼンテーションの内容を評価し最も優秀な発表に対し贈られる賞。
(2) 受賞者名	大藪 亮 准教授 (理学部 応用物理学科)
受賞名	オーラルセッション 2017 ベストペーパー賞
学会・機関名	日本マーケティング学会 (2018 年 1 月)
受賞内容	【受賞対象研究題目】「日常的体験における顧客経験の検討」 理事会メンバーにより、ダブル・ブラインド査読の上投票にて審査され、最も優秀な論文に授与された。
(3) 受賞者名	金枝 敏明 特任教授 (工学部 機械システム工学科)
受賞名	精密工学会名誉教授の称号
学会・機関名	(公社)精密工学会
受賞内容	【受賞対象研究題目】精密工学の発達に特に功労のあった者および精密工学会に対し特に功労のあった者で、社員総会の議決をもって推薦された個人に授与される称号。
(4) 受賞者名	平岡 裕 特任教授 (理学部 応用物理学科)
受賞名	溶接学会フェローの称号
学会・機関名	(一社)溶接学会 (2018 年 5 月)
受賞内容	【受賞業績】溶接・接合に関する工学・技術と社会および本会の発展に顕著な貢献をなした者に溶接学会フェロー (以下フェローと略す) の称号を与え、会員の地位向上・国際活動をより円滑にし、あわせて本会のより一層の活性化をはかることを目的とし授与される称号。
(5) 受賞者名	大坂 昇 講師 (理学部 化学科)
受賞名	第 9 回ブリヂストンソフトマテリアルフロンティア賞奨励賞
学会・機関名	(一社)日本ゴム協会 (2018 年 6 月)
受賞内容	【受賞業績】「ゲル、エラストマーの同時的な高強度化・高延性化と小角散乱法を基軸としたナノ構造解析による機構解明」 ゴム技術・ゴム産業の発展を期し、ゴム研究者の拡大と育成を図ることを目的として、ゴムおよび将来ゴム技術・ゴム産業に貢献しうる関連分野での先端的研究を行った若手研究者に授与される賞。
(6) 受賞者名	坂根 弦太 准教授 (理学部 化学科) (他 4 名との共同受賞)
受賞名	第 12 回 DV-X α 研究協会功績賞
学会・機関名	DV-X α 研究協会 (2018 年 9 月)
受賞内容	【受賞業績】「新版 はじめての電子状態計算」の出版と講習会による DV-X α 法の普及活動」 DV-X α 法及び DV-X α 研究協会の発展に貢献し、DV-X α 法を利用して関連分野の科学技術及び産業の発展のために貢献した者に授与される賞。
(7) 受賞者名	中川 恵友 教授、金谷 輝人 名誉教授 (工学部 機械システム工学科) (他 7 名との共同受賞)
受賞名	軽金属学会中国四国支部 研究・開発奨励賞
学会・機関名	(一社)軽金属学会 (2018 年 9 月)
受賞内容	【受賞業績】「2024 相当合金の繰返し負荷による試料表面の微細組織変化」大学、高専、企業、研究機関などで軽金属 (主にアルミニウム、マグネシウムなど) に関する優れた研究を行っている教員、学生、研究者を対象に授与される賞。

(8) 受賞者名	坂本 南美 准教授（教育学部 中等教育学科）
受賞名	JAILA 第7回全国大会優秀発表賞
学会・機関名	日本国際教養学会（2019年3月）
受賞内容	【受賞業績】「日本の公立中学校に勤める ALT の同僚性に関するナラティブ研究」JAILA 第7回全国大会での発表において、昨今の英語教育改革が注目される中で、日本の小中高等学校に勤める ALT（Assistant Language Teacher）のナラティブを捉えた研究が評価され、授与された。
(9) 受賞者名	大橋 唯太 准教授（生物地球学部 生物地球学科）
受賞名	2018年度ウエスコ財団優秀研究者賞
学会・機関名	（公財）ウエスコ学術振興財団（2019年3月）
受賞内容	【受賞業績】「人のバイタル・モニタリングによる寒冷ストレス評価－冷たい局地風「肱川あらし」の事例－」財団の研究活動費助成事業で実施した研究をもとに、学会等に論文として発表することで学術的に評価された研究実績を上げた研究者や、研究成果を実用化させるなど大きく社会に貢献・活用される功績を上げた研究者に授与される賞。

13 活動報告

各年度の研究・社会連携室の活動を表に示す。

13.1 (2017 年度)

月 日	曜	2017 年度 行事
4 月 3 日	月	科研費内定通知
4 月 19 日	水	おかやま信金ビジネス交流会
4 月 24 日	月	きらめき岡山創成ファンド審査
4 月 24 日	月	ちゅうごく産業創造センター
4 月 26 日	水	第 1 回研究・社会連携委員会
5 月 12 日	金	職務関連著作物判定委員会
5 月 15 日	月	岡山県産業振興財団平成 29 年度支援制度説明会
5 月 18 日	木	岡山県産業振興財団来校
5 月 19 日	金	きらめき岡山創成ファンド審査
5 月 19 日	金	関西産学官連携人材育成研究会
5 月 22 日	月	東京理科大学実地検査（防衛装備庁再委託）
5 月 23 日	火	岡山・産学官連携推進会議幹事会
5 月 23 日	火	岡山コーディネータ連絡会、総会、交流会
5 月 28 日	日	若手経営者の会（おかやま信金）
5 月 29 日	月	OPU フォーラム（県大）への参加
5 月 30 日	火	財総合支援窓口運営業務連絡会議（テクノサポート）
5 月 31 日	水	中国地域産学官コンソーシアム運営会議（岡大）
5 月 31 日	水	岡山工業会 H29 通常総会懇親会
6 月 1 日	木	知財基礎教育セミナー@岡山大学
6 月 8 日	木	科研費説明会（東京）
6 月 12 日	月	発明判定委員会
6 月 15 日	木	科研費改革説明会（関西学院大学）
6 月 21 日	水	中小企業団体中央会、トマト BK、商工会議所
6 月 21 日	水	おかやま信金
6 月 27 日	火	産業振興財団と打合せ
6 月 29 日	木	中国経済産業局来学
6 月 30 日	金	第 2 回研究・社会連携委員会
7 月 7 日	金	ビナンバイオ訪問
7 月 12 日	水	中国地域産学官コラボレーション会議
7 月 12 日	水	トマトアグリフーズフェア（ママカリフォーラム）
7 月 14 日	金	知的財産権セミナー
7 月 19 日	水	知的財産権セミナー
7 月 19 日	水	第 1 回ワインシンポジウム（理大ホール）
7 月 21 日	金	RA 協議会事前打合せ（東京）
7 月 24 日	月	経営驚見先生同行高梁市他企業 1 社
7 月 26 日	水	岡山商工会議所訪問
7 月 26 日	水	岡山県中小企業家同友会例会
7 月 31 日	月	著作権セミナー
7 月 31 日	月	次世代技術研究会
8 月 1 日	火	OUS フォーラム特別記念講演者への挨拶
8 月 21 日	月	岡山ヘルスケア産業連携協議会
8 月 22 日	火	BP コンテスト岡山キックオフカンファレンス
8 月 25 日	金	ちゅうごく産業創造センター来学
8 月 25 日	金	医の芽ネット研修会
8 月 29 日	火	RA 協議会
8 月 31 日	木	ミクロものづくりブランド戦略委員会
9 月 5 日	火	JST 目利き人材育成プログラム
9 月 6 日	水	科研費応募説明会
9 月 8 日	金	科研費応募説明会
9 月 8 日	金	つやま産業支援センター
9 月 13 日	水	しんきん合同ビジネス交流会
9 月 15 日	金	産から学へのプレゼンテーション
9 月 15 日	金	第 3 回研究・社会連携委員会
9 月 19 日	火	大学向け安全保障貿易管理説明会
9 月 22 日	金	第 3 回研究・社会連携機構運営委員会
9 月 22 日	金	科研費学内説明会
9 月 22 日	金	岡山市産業観光局（打合せ）
9 月 25 日	月	おかやま次世代産業関連技術研究会
9 月 27 日	水	岡山県中小企業家同友会カルチエ倶楽部
10 月 2 日	月	日本公庫岡山友の会
10 月 4 日	水	商工会議所
10 月 5 日	木	中国地域「産から学へのプレゼンテーション」
10 月 12 日	木	プラザホテル打合せ
10 月 13 日	金	岡山経済団体連絡協議会
10 月 13 日	金	学生向け知的財産権セミナー
10 月 14 日	土	CIS フォーラム参加
10 月 20 日	金	知的財産権セミナー
10 月 23 日	月	岡山ヘルスケア産業連携協議会

月 日	曜	2017 年度 行事
10 月 25 日	水	医の芽ネット「JMS 社ニーズ説明会」
10 月 27 日	金	知的財産権セミナー
10 月 31 日	火	バイオアクティブ岡山企業訪問
11 月 2 日	木	新技術説明会
11 月 4 日	土	第 3 回もんげー岡山の国際協力 1
11 月 5 日	日	職務発明判定委員会
11 月 7 日	火	和歌山市議会議員来学
11 月 8 日	水	職務発明判定委員会
11 月 8 日	水	山陽クレイ工業
11 月 15 日	水	機構運営委員会
11 月 17 日	金	職務発明判定委員会
11 月 20 日	月	次世代産業関連技術研究会
11 月 27 日	月	OUS フォーラム 2017
11 月 30 日	木	ミクロものづくり岡山ブランド戦略委員会
12 月 1 日	金	岡山大学知恵の見本市
12 月 5 日	火	広島安全保障輸出管理研修会
12 月 5 日	火	知財相談窓口@テクノサポート岡山
12 月 8 日	金	リスクマネジメントモデル事業研修会
12 月 15 日	金	大型機器選考会
12 月 15 日	金	岡山大学研究シーズ発表会
12 月 19 日	火	知財相談窓口第 2 回連絡会議
12 月 22 日	金	岡山・産学官連携推進会議視察研修
1 月 12 日	金	職務発明判定委員会
1 月 17 日	水	ミクロものづくり総会
1 月 17 日	水	OTEX コンベックス岡山
1 月 18 日	木	OTEX コンベックス岡山
1 月 18 日	木	ビジネスプランコンテスト岡山
1 月 19 日	金	食品関連技術における大学シーズ活用発表会
1 月 19 日	金	研究・社会連携機構運営委員会
1 月 23 日	火	岡山市機能性食品創出 PJT 連携相談会
1 月 24 日	水	中小企業家同友会カルチエ倶楽部
1 月 24 日	水	安全保障貿易制度アドバイザーによる説明会
1 月 29 日	月	倉敷市との協定打合せ
1 月 29 日	月	職務発明判定会議
1 月 29 日	月	岡山工業会
2 月 5 日	月	日本公庫岡山友の会
2 月 8 日	木	おかやましんきんエリアサポート 2 次審査
2 月 9 日	金	真庭市 産学官交流会（真庭ものづくり産業ネットワーク懇談会の中で開催）
2 月 13 日	火	産学官金連携フォローアップセミナー
2 月 14 日	水	JST 産学官連携事業広聴会
2 月 15 日	木	発明判定委員会
2 月 16 日	金	中小企業支援制度説明会
2 月 16 日	金	研究・社会連携機構運営委員会、評価・計画委員会
2 月 21 日	水	中小企業支援制度説明会
2 月 22 日	木	銚子商工会議所来学
2 月 23 日	金	OUS 技術セミナー
2 月 27 日	火	岡山・産学官連携推進会議：ワーキンググループ会合
2 月 28 日	水	第 22 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会
2 月 28 日	水	倉敷市との調印式
3 月 1 日	木	知財総合支援窓口へ
3 月 6 日	火	津山まちなかカレッジ打合せ 10:00 ～
3 月 9 日	金	廃油業者訪問：倉敷
3 月 9 日	金	岡山県庁産業振興課来学
3 月 12 日	月	岡山自動車関連企業ネットワーク会議に係る会員総会
3 月 12 日	月	H28・29 プロジェクト研究成果報告会
3 月 12 日	月	FD 研修会（安全保障輸出管理）
3 月 13 日	火	おかやま信金エリアサポート表彰式
3 月 16 日	金	次世代産業関連大学高専シーズ発信会
3 月 19 日	月	岡山県産業振興財団来学
3 月 19 日	月	食品関連技術における大学と岡山市内企業マッチング会
3 月 22 日	木	恐竜学博物館プレス向け内覧会と開館式
3 月 23 日	金	岡山ヘルスケア産業連携協議会活動報告会
3 月 23 日	金	つやま産業支援センター運営協議会
3 月 28 日	水	発明判定委員会

13.2 (2018 年度)

月 日	曜	2018 年度 行事
4 月 2 日	月	科研費内定通知
4 月 10 日	火	機能的食品開発研究所訪問
4 月 13 日	金	おかやましんきんビジネス交流会
4 月 13 日	金	岡山県備前焼陶友会
4 月 20 日	金	倉敷市（シラガブドウプロジェクト）学内で打合せ
4 月 20 日	金	研究・社会連携機構運営委員会
4 月 23 日	月	中国地域創造研究センター安平次氏来学
4 月 23 日	月	津山まちなかカレッジ来学
4 月 24 日	火	研究・社会連携委員会
4 月 25 日	水	中小企業家同友会企業連携推進委員会
4 月 25 日	水	岡山県備前県民局農林水産事業部来学
4 月 26 日	木	ヘルスケア産業連携協議会（岡山商工会議所）
4 月 27 日	金	赤磐市総合政策部来学
5 月 11 日	金	職務発明判定委員会
5 月 15 日	火	きらめき岡山創成ファンド
5 月 18 日	金	さんさんコンソ運営会議
5 月 21 日	月	玉島信用金庫打合せ
5 月 22 日	火	産学官連携推進会議
5 月 22 日	火	ヘルスケア産業連携協議会
5 月 25 日	金	「おかやま PRODUCE」結成 6 周年記念講演
5 月 25 日	金	研究・社会連携機構運営委員会
5 月 29 日	火	OPU フォーラム
6 月 1 日	金	自動車関連企業ネットワーク会議総会
6 月 6 日	水	びほく農協・高梁市・備前県民局来学
6 月 8 日	金	知財総合支援窓口連携会議
6 月 22 日	金	研究・社会連携機構運営委員会
6 月 22 日	金	研究・社会連携部会
6 月 25 日	月	中四国アグリテック講演会
6 月 25 日	月	職務発明委員会
6 月 28 日	木	研究・社会連携委員会
7 月 7 日	土	大学生まちづくりチャレンジキックオフ MTG
7 月 10 日	火	トマトアグリフードフェア
7 月 11 日	水	安全保障輸出管理
7 月 11 日	水	おかやま次世代産業関連技術研究会
7 月 11 日	水	商工会議所（OUS フォーラムチラシ相談）
7 月 13 日	金	知的財産権セミナー
7 月 18 日	水	ワインシンポジウム開催
7 月 20 日	金	知的財産権セミナー@今治
7 月 23 日	月	中国地域産学官コラボレーション会議 全体会議（山口）
8 月 8 日	水	岡山市ヘルスケア産業連携協議会
8 月 23 日	木	特別記念講演講師へのご挨拶
8 月 31 日	金	ミクロものづくり岡山委員会
9 月 7 日	金	きらめきファンド審査会
9 月 10 日	月	瀬戸内市との意見交換会
9 月 12 日	水	岡山県しんきん合同ビジネス交流会
9 月 12 日	水	岡山市次世代農業支援事業連携相談会
9 月 13 日	木	科研費公募要領等説明会（関西学院大学）
9 月 14 日	金	研究・社会連携委員会
9 月 15 日	土	産学官連携大学シーズ&民間企業マッチング会 @中国銀行
9 月 18 日	火	中国地域創造研究センター交流会
9 月 19 日	水	中国地域大学等輸出管理ネットワーク（広島）
9 月 19 日	水	JST ワークショップ「公正な研究活動の推進」
9 月 21 日	金	OUS フォーラム出展者説明会
9 月 25 日	火	岡山ヘルスケア産業連携協議会支援機構会議
9 月 29 日	土	CIS フォーラム参加
10 月 1 日	月	日本公庫岡山友の会
10 月 5 日	金	産業振興財団来学
10 月 5 日	金	中国経産局来学
10 月 11 日	木	プラザホテル打合せ
10 月 12 日	金	知的財産権セミナー
10 月 19 日	金	知的財産権セミナー
10 月 22 日	月	職務発明委員会
10 月 22 日	月	研究社会連携委員会

月 日	曜	2018 年度 行事
10 月 22 日	月	研究・評価部会
10 月 26 日	金	学生向け知的財産権セミナー
11 月 3 日	土	大学生まちづくりチャレンジ中間報告会
11 月 6 日	火	テクノサポート創立 100 周年記念式典
11 月 8 日	木	大阪弁護士会
11 月 14 日	水	しんくみビジネスマッチング@笠岡
11 月 14 日	水	自動車関連企業ネットワーク会議
11 月 17 日	土	岡山ヘルスケア産業連携協議会
11 月 20 日	火	産学官連携交流会
11 月 22 日	木	JST 外国出願支援審査@東京理科大学
11 月 26 日	月	OUS フォーラム 2018
11 月 27 日	火	ミクロものづくり岡山@テクノサポート岡山
11 月 28 日	水	岡山市次世代農業支援事業連携相談会
12 月 5 日	水	岡山技研工業@和気
12 月 7 日	金	研究・社会連携機構運営委員会
12 月 12 日	水	産学官大学シーズ発表会
12 月 12 日	水	大型機器選定会議
12 月 13 日	木	岡山次世代産業関連技術研究会
12 月 14 日	金	知財総合支援窓口
12 月 17 日	月	岡山市オオカナダモノの件来学
12 月 20 日	木	JST 外国出願支援対応@東京理科大学
1 月 10 日	木	次世代モビリティフォーラム
1 月 11 日	金	ワイヤレス給電技術講習会
1 月 11 日	金	研究・社会連携機構運営委員会
1 月 16 日	水	岡山コンベンション協会面会
1 月 18 日	金	職務発明判定委員会
1 月 18 日	金	岡山県大学人の会
1 月 22 日	火	中国経済産業局産業部長面会
1 月 24 日	木	ビジネスプランコンテスト岡山
1 月 24 日	木	OTEX（コンベックス岡山）
1 月 25 日	金	OTEX（コンベックス岡山）
1 月 28 日	月	岡山工業会新年互礼会
1 月 28 日	月	岡山信金エリアサポート 2 次審査
2 月 1 日	金	名古屋議定書対応に向けた大学体制構築のための意見交換会
2 月 4 日	月	日本公庫岡山友の会
2 月 4 日	月	産学官金連携フォローアップセミナー
2 月 7 日	木	中国地域大学等輸出管理ネットワーク会議
2 月 8 日	金	産から学へのプレゼンテーション
2 月 9 日	土	大学生まちづくりチャレンジ事業
2 月 12 日	火	岡山産学官連携推進協議会
2 月 13 日	水	岡山県立大学との打ち合わせ
2 月 15 日	金	中小企業支援制度説明会
2 月 15 日	金	リサーチパーク研究展示発表会
2 月 17 日	日	大学生まちづくりチャレンジ事業報告会
2 月 18 日	月	COC+ シンポジウム
2 月 21 日	木	中小企業支援制度説明会 10:30 @津山
2 月 22 日	金	OUS 技術セミナー
2 月 27 日	水	研究・社会連携部会
3 月 1 日	金	平成 30 年度私立大学等改革フォーラム
3 月 1 日	金	私立大学研究ブランディング事業説明会（大阪）
3 月 2 日	土	（ブランディング事業）恐竜研究シンポジウム（報告会）
3 月 4 日	月	果実来学
3 月 11 日	月	プロジェクト研究推進事業報告会
3 月 12 日	火	エリアサポート表彰式
3 月 13 日	水	プロジェクト研究推進事業公聴会
3 月 15 日	金	次世代産業に係わる大学高専シーズ発信会
3 月 15 日	金	特別電源報告会
3 月 19 日	火	岡山産学官連携推進会議幹事会
3 月 25 日	月	つやま産業支援センター
3 月 26 日	火	岡山ヘルスケア産業連携協議会
3 月 29 日	金	発明相談、共同研究相談（水野先生、松田先生）@今治

14 人事の推移

14.1 研究・社会連携機構、研究・社会連携センター、研究・社会連携室

(2019年3月)

平野 博之	(副学長兼機構長 2018年度)
○折田 明浩	(副機構長兼センター長 2018年度)
○赤木 徹也	(副センター長 2018年度)
岩永 哲夫	(次長 2018年度)
○中村 修	(教授 2016年度)
○御倉 賀恵	(室長 2017年度)
○竹内 雅彦	(次長兼課長 2018年度)
藤原 俊明	(参与 2017年度)
○桑本 誠	(産学連携コーディネータ 2016年度)
多田 昭利	(産学連携コーディネータ 2017年度)
○倉藤美紀子	(事務職員 2018年度)
○藤原 誉子	(事務職員 2017年度)
太田 謙	(事務職員 2017年度)
近藤美和子	(事務補佐 2016年度)
堀田 和美	(事務補佐 2018年度)

()内は役職及び就任期間

○白書編集担当者

14.2 研究推進機構、研究連携支援センター、研究連携支援室

(2016年度～2017年度)

星野 卓二	(副学長兼機構長 2016年度～2017年度)
松浦 洋司	(副機構長兼センター長 2016年度～2017年度)
三井 亮司	(副センター長 2016年度～2017年度)
近藤 千尋	(次長 2016年度～2017年度)
中村 修	(教授 2016年度)
御倉 賀恵	(室長兼課長 2017年度)
	(参事兼課長 2016年度)
船本 利春	(室長 2016年度)
横溝 精一	(参与 産学連携コーディネータ 2016年度)
桑本 誠	(産学連携コーディネータ 2016年度)
中山 良子	(事務職員 2016年度～2017年度)
岡戸真理子	(事務職員 2016年度～2017年度)
藤原 誉子	(事務職員 2017年度)
太田 謙	(事務職員 2017年度)
細木 真麻	(事務補佐 2016年度)
近藤美和子	(事務補佐 2016年度)
林 里美	(事務補佐 2016年度～2017年度)

14.3 学外連携推進室 (就任年度順、1999年度～2015年度)

滝 晨彦	(室長 1999年度～2005年度)
瀧本 孝志	(課長 1999年度～2003年度)
平松 和子	(事務職員 1999年度)

辻 歩 (事務職員 2000 年度～ 2004 年度)
 吉田 茂二 (参与 産学連携コーディネータ 2002 年度～ 2004 年度)
 新倉 正和 (教授 産学連携コーディネータ 2003 年度～ 2013 年度)
 田邊 昇 (参事 2004 年度～ 2008 年度)
 黒田由紀子 (事務職員 2004 年度～ 2005 年度)
 猶原 順 (次長 2005 年度～ 2007 年度)
 倉藤美紀子 (事務職員 2005 年度～ 2008 年度)
 金枝 敏明 (室長 2006 年度～ 2013 年度)
 (顧問 2014 年度～ 2015 年度)
 白神 陽子 (事務職員 2006 年度～ 2008 年度)
 安井 茂男 (産学連携コーディネータ 2006 年度～ 2015 年度)
 細木 真麻 (事務補佐 2007 年度～ 2015 年度)
 高原 周一 (次長 2008 年度～ 2010 年度)
 財部 健一 (副室長 2008 年度)
 木村 宏 (副室長 2008 年度～ 2012 年度)
 池田 正五 (副室長 2009 年度)
 金子 典正 (次長 2009 年度～ 2011 年度)
 御倉 賀恵 (課長 2009 年度～ 2014 年度)
 (参事兼課長 2015 年度)
 瀬戸 徹也 (事務職員 2009 年度～ 2015 年度)
 益岡 典芳 (副室長 2010 年度～ 2011 年度)
 小夜美知子 (課長 2010 年度)
 横溝 精一 (参与 産学連携コーディネータ 2010 年度～ 2015 年度)
 松浦 洋司 (次長 2011 年度～ 2013 年度)
 谷本 文奈 (事務職員 2011 年度～ 2013 年度)
 三井 亮司 (次長 2012 年度～ 2015 年度)
 江見 智嘉 (参事 2012 年度～ 2013 年度)
 堂田周治郎 (副室長 2013 年度)
 守屋 薫 (事務補佐 2013 年度～ 2014 年度)
 平野 博之 (室長 2014 年度～ 2015 年度)
 島田 英之 (副室長 2014 年度～ 2015 年度)
 中村 修 (教授 産学連携コーディネータ 2014 年度～ 2015 年度)
 太田 慶之 (主任 2014 年度)
 今井 俊夫 (事務職員 2014 年度)
 桑本 誠 (産学連携コーディネータ 2015 年度)
 中山 良子 (事務職員 2015 年度)

以上

15 研究・社会連携白書編集を終えて

建学の理念に沿った明確な方針・目標として掲げた「岡山理科大学ビジョン 2026」に向かった事業計画に沿って研究・社会連携部で実施された直近 2 年間の取り組みを「研究・社会連携白書 2018」としてまとめました。この「岡山理科大学ビジョン 2026」では本学が「学生の成長に主眼をおく人材育成拠点」になること、「教育を支える個性的で魅力ある研究を推進する大学」「地域の課題解決や活性化に貢献し、地域とともに発展する大学」であることが掲げられました。研究・社会連携部では、研究が教育を支え、先進的で個性的な研究を育成し、地域に貢献する人材育成につながるとの観点から、ビジョンに沿った計画の実現にまい進してきました。2018 年度は、獣医学部が新設され、より一層の研究体制が構築されたことに加え、モンゴルやフィリピンの大学との協定など研究・社会連携部にとって国際的な研究基盤の構築ができたものと思っております。本白書は直近 2 年間の活動報告の中での業務内容や成果について読み取れるものになっています。

研究の活性化に向けた取り組みにおいては、2016 年度に学内研究シーズの発掘と活性化のためにスタートした「岡山理科大学プロジェクト推進事業」も 3 年目を迎え、2018 年度に新設された獣医学部（今治キャンパス）だけでなく、2016 年度新設の教育学部、2017 年度の経営学部のメンバーと既存学部（岡山キャンパス）のメンバーによるプロジェクトが多数申請されるなど、共同研究の活性化などビジョンに沿った成果が得られたものと喜んでおります。

外部資金の獲得の推進に関しても、主に科学研究費補助金獲得のための申請書のブラッシュアップを各種補助金の申請についても拡張し、2018 年度から申請の構想段階から相談しながらサポートするウォームアップを実施し、さらに学内の皆様のご協力によりブラッシュアップやウォームアップのエディター制度の充実も図れました。また各種研究助成金に関する情報を速報として e メールやホームページで迅速に配信するなどの取り組みも今後継続的に行っていきます。

また、本学の研究科学分野の研究に基づく多様なシーズを発信し、貢献することも研究・社会連携部の大きな役割と考えており、これらの使命のもと、毎年開催している OUS フォーラムでは、獣医学部からの研究シーズ報告も含め、多様な本学のシーズを発信するとともに、地域のニーズとのマッチングを図っています。また 2016 年度に続いて、新設の獣医学部の研究者 55 名を含めた「OUS 研究者ナビゲーター 2018」の Web 版を掲載いたしました。このフォーラム、ナビゲーターともに、今後の皆様のご意見をいただきながらより良いものにして参ります。

今後とも、皆様の研究・社会連携部へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究・社会連携部 一同
2019 年 4 月

【参考資料】

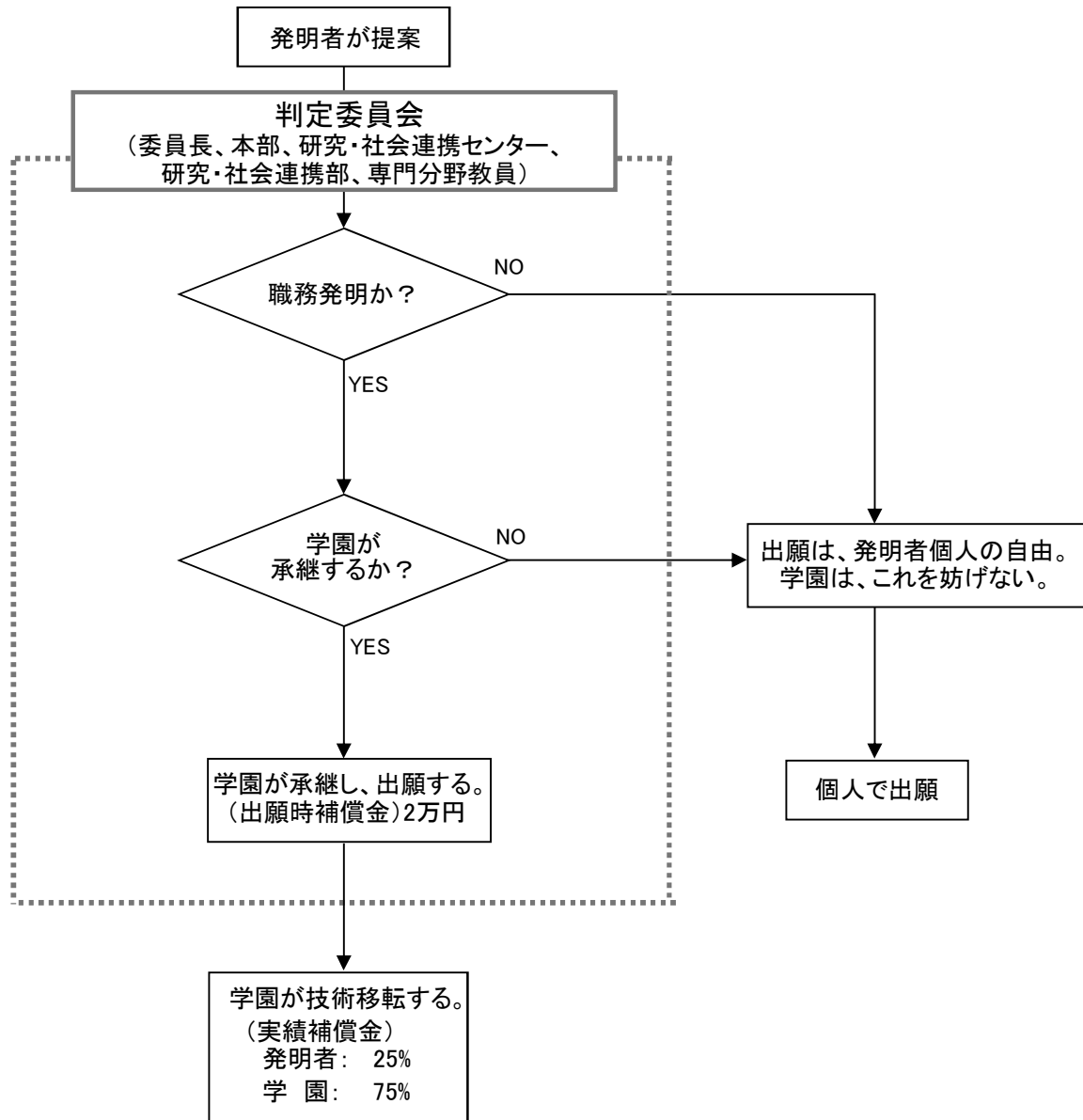
知的財産等のうち特に特許出願を促すために、出願に当たっての出願手続き等の資料を掲載いたします。

知的財産について

- 1 特許出願プロセス 資料・1
- 2 発明審査手続きの流れ 資料・2
- 3 発明審査手続きにおける役割分担 資料・3
- 4 特許出願後の手続きの流れ 資料・4
- 5 知的財産に関する岡山理科大学の基本方針（知的財産ポリシー） 資料・5

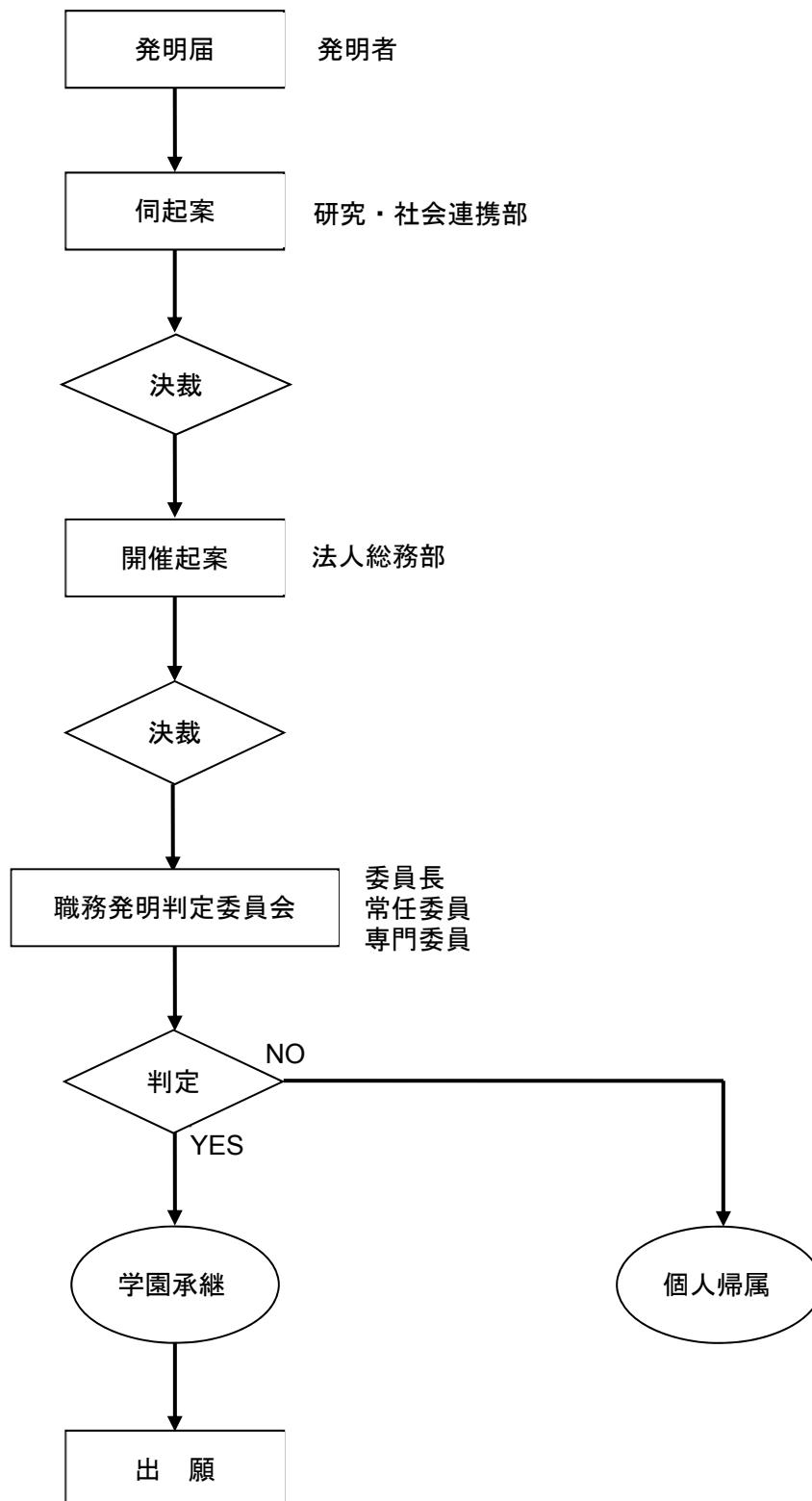
知的財産について

1 特許出願プロセス

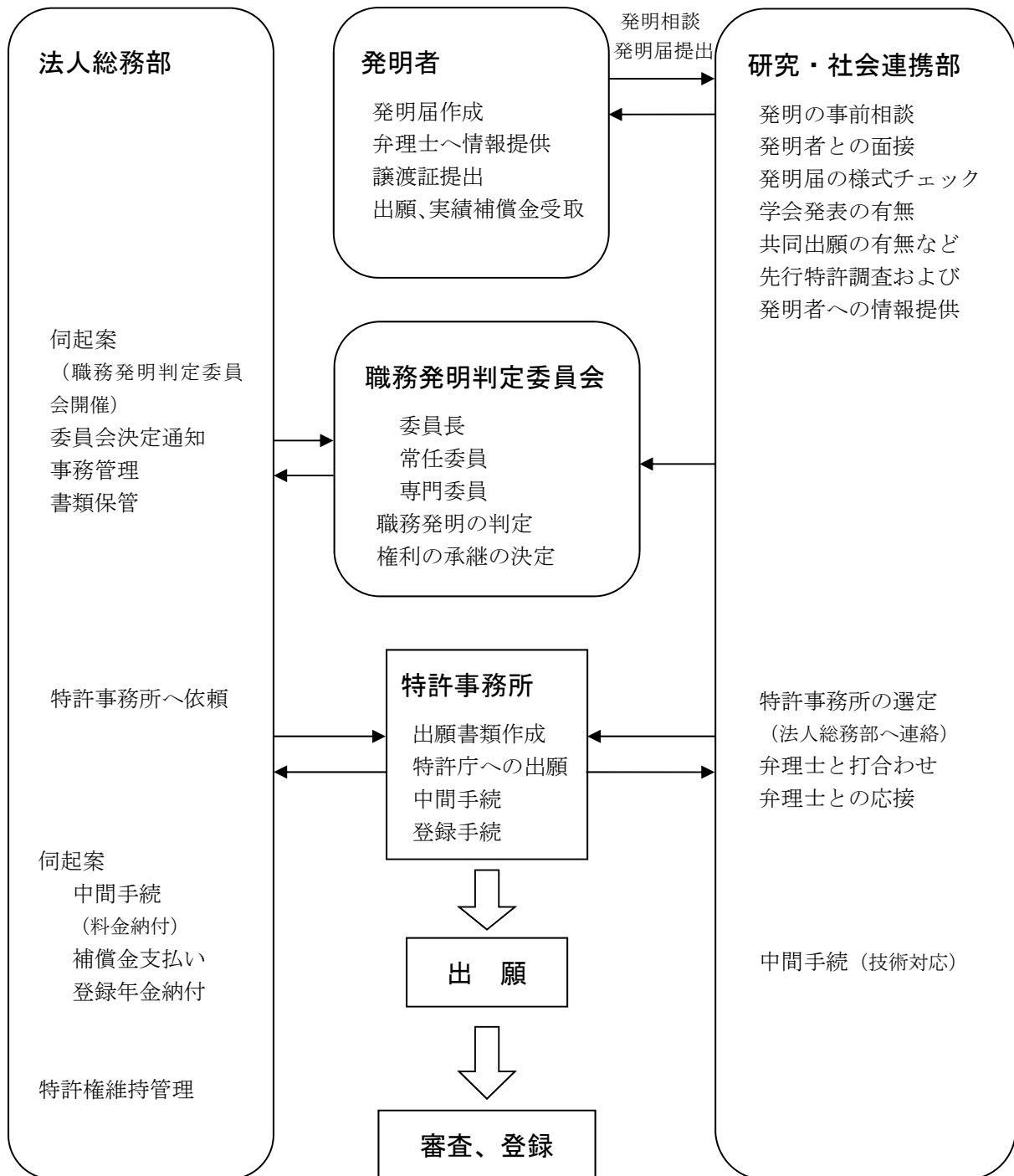


修正

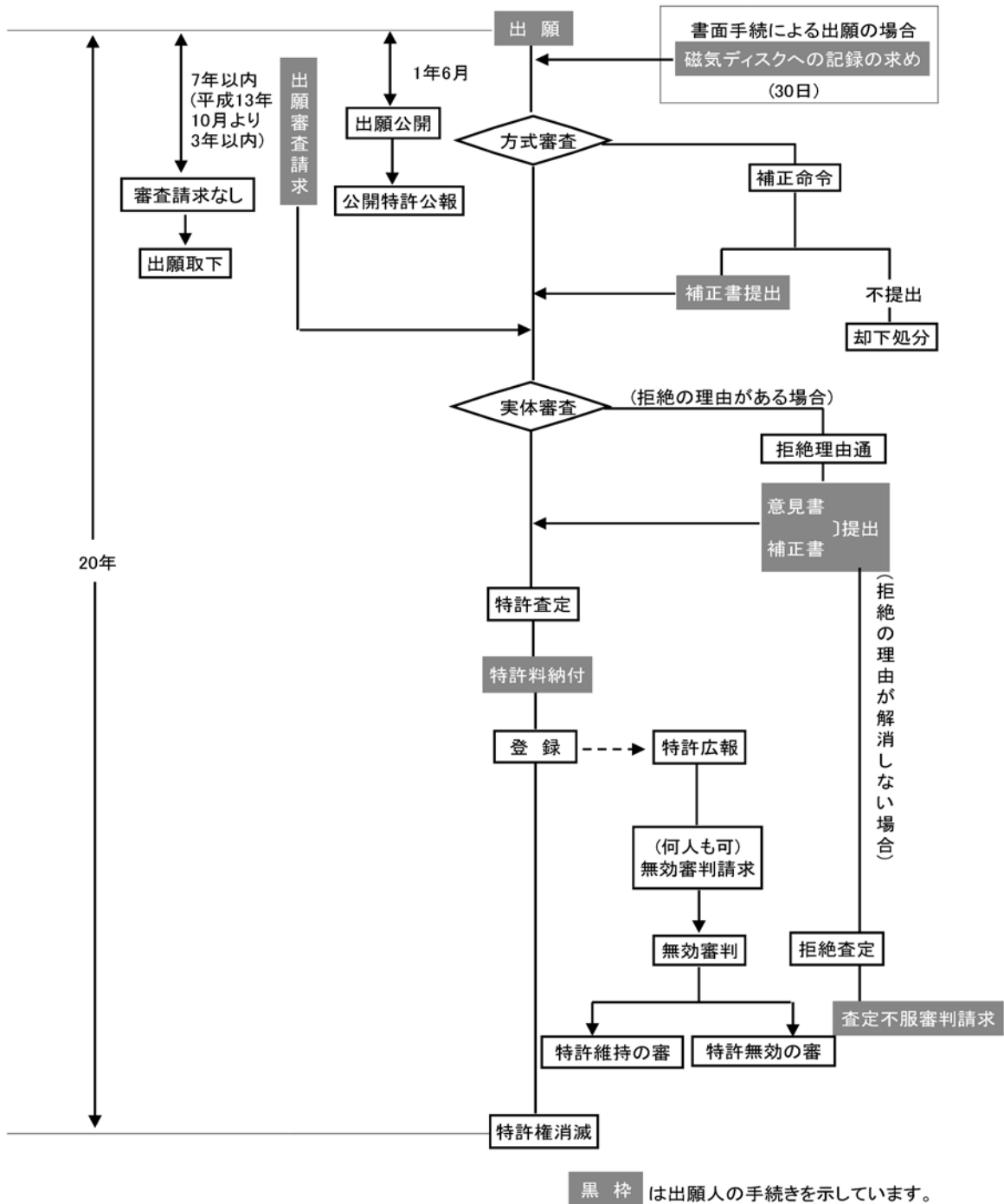
2 発明審査手続きの流れ



3 発明審査手続きにおける役割分担



4 特許出願後の手続きの流れ



出典 特許庁 監修
特許ワークブック 64 頁
「書いてみよう特許明細書 出してみよう特許出願」

知的財産に関する岡山理科大学の基本方針

知的財産ポリシー

平成 16 年 8 月 1 日

平成 31 年 4 月 1 日 改訂

岡山理科大学

I 基本的考え方

1. 岡山理科大学の建学の理念と社会貢献

(岡山理科大学の建学の理念)

岡山理科大学（以下「本学」という。）は、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として、社会に貢献できる人材を養成する」を建学の理念として掲げ、特徴ある教育と研究を行ってきた。現在、理学、工学、総合情報、生物地球、教育、経営、獣医の 7 学部、4 研究科、1 研究所、自然フィールドワークセンター等を擁しているが、開学当初より「学際領域の研究」を推進し、また時代の要請に沿った新しい技術分野に対応した学科新設に積極的に取り組んできた。

(大学の使命としての社会貢献)

大学の使命の基本は、教育・人材育成、真理探究・研究推進、および社会や地域に対する貢献である。産業社会や地域社会の存立・活性化が、経済のグローバル化や技術革新の急激な展開と直結している現在、地域を代表する理系私学として、その広い知的資源を活用して産業社会や地域社会の発展・利益のために直接的に資する努力が求められている。

(私学を取り巻く環境)

一方、日本社会が抱える少子高齢化の流れは、地方都市を拠点とした私学にとって、避けて通れない難題である。伝統ある私学として将来とも存立していくためには、産業社会や地域社会にとって存在感のある大学としての地位を維持し、かつ高めていくことが必須である。産学官連携を推進し、本学の広い知的資源を産業社会や地域社会のために役立てるとともに、本学卒業生の就職機会の増大に繋げることも、私学として必要なことである。

(これまでの取り組み)

本学では、上記のような考え方にに基づき、平成 11 年に学外連携推進室を設立して、社会貢献を積極的に進める体制を整えている。

1) 共同研究・受託研究の受入れ、2) 本学の研究シーズ・ポテンシャルの PR・公開、3) 競争的研究資金の獲得、4) 生涯教育プログラムの開催、等を中心に着実に進展している。また、平成 15 年には、このような活動を全学的に拡充・強化するために、各学科代表も含めた学外連携推進委員会を設置した。

2. 社会貢献としての知的財産の構築・活用

(知的財産の権利化の必要性)

知的財産たる研究成果の権利化は、時代の趨勢であり、これを推し進めなければならない。開発新技術は、知的財産権により守ることによって、経済的価値を生み、また新産業を創出して産業や社会を豊かにすることができる。本学の研究成果についても、権利化し知的財産権として活用しなければ、社会における富を生まないものである。また、研究成果によって経済的価値を生み出すことができるにも拘わらず、

その権利化を怠ることは、授業料を納める学生の付託に充分答えていないとは言えない。権利化して実用化できる発明は、権利化しなければならない。

(知的財産の権利化によるメリット)

研究成果を知的財産権化することは、本学にとってロイヤリティの還流及び更なる研究資金の獲得で次の研究資金を生み出し、研究成果に対し産業界からの評価を受けるという結果ももたらす。そして知的財産の実用化を通して新たな課題を知り、次の研究・発明を生み出すための貴重な機会となる。

以上のことから、研究成果を積極的に知的財産権化することは、本学の重大な使命の一つである。知的財産ポリシーを明文化して、知的財産の構築および活用に関し、全学を挙げて取り組む決意を示すものである。

(本基本方針に関する、研究・社会連携委員会、研究・社会連携部の任務)

本基本方針に関わる意思決定は、研究・社会連携委員会で行うこととする。研究・社会連携部は、その決定に基づいて具体的活動の実施を行う。即ち、知的財産に関し、学内外の窓口になるほか、学内において知的財産の権利化および移転の促進に努め、学内の知的財産マインドの高揚に努める。知的財産の権利化・移転・係争などに関する法務的な事項については、加計学園本部の法人総務部と連携をはかる。

本「知的財産に関する岡山理科大学の基本方針（知的財産ポリシー）」の対象者は、教育職員（教授、准教授、講師、助教、助手）および技術職員（以下、職員と総称する）であり、研究室に配属されている学生・大学院生・研究生もこれに準ずるものとする。

II 研究成果等に関する取扱いと権利の帰属・承継

本学が取扱う知的財産権の対象は、発明、考案、意匠、回路配置、品種、データベース及びプログラムの著作物、ノウハウ、有体物という。

1. 発明及び考案

(1) 発明及び考案の帰属に関する考え方

本学が費用その他の支援をして行う研究等、又は本学が管理する施設設備を利用して行う研究等に基づき、本学の職員が行った発明及び考案（以下「職務発明等」という。）については、原則として学校法人加計学園（以下「学園」という。）に譲渡、承継されて帰属する。但し、学園が承継しないと決定した場合は、発明者に帰属させることができる。その場合、発明者は自ら出願、又は発明等にかかる権利を第三者に譲渡することができる。

職員と共同で発明を行った学生・大学院生・研究生の取扱は、職員に準ずるものとする。

(2) 発明等の届出

本基本方針の対象者は、発明等をしたと判断した場合には、速やかに学園理事長にその発明等に関する届け出をしなければならない。

(3) 帰属の判定

発明等の知的財産権の学園への帰属、承継に関する評価・判定は、学園内に設置される職務発明判定委員会で行う。職務発明判定委員会の委員は、加計学園職務発明等規程に定める委員で構成する。

学園理事長は、発明等の届出があったとき、職務発明判定委員会に対し、発明等に関する事項を諮問し、その報告に基づき職務発明等の該当の可否、知的財産権を学園が承継するかどうかを決定する。

当該発明等に関する決定は、速やかに当該発明者に通知されなければならない。

(4) 発明等の承継手続

学園が承継すると決定した権利にかかる発明等については、加計学園本部総務部で出願等の手続きと、権利化後の管理を行う。発明者は、学園が承継すると決定した権利にかかる職務発明等については、速やかに権利譲渡書を提出しなければならない。

発明者は、学園が承継した職務発明等の出願等、権利化及び権利維持の手続きに協力しなければならない。特に論文発表等の時期・方法について、発明者は学園および本学と協議し、特許権又は実用新案権の取得に支障のないように努めなければならない。

2. 意匠、回路配置、品種、ノウハウ、データベース及びプログラム等の著作物

1 を準用する。

3. 成果有体物

(1) 成果有体物とは、教職員等が、本学の資金、施設、設備その他の資産を用いて行った (i) 研究の結果、(ii) その過程において創作、抽出又は取得した学術的又は財産的価値を有する次に掲げる有体物をいう。但し、論文、講演その他の著作物を除く。

① 材料、試料（微生物株、細胞株、ウイルス株、植物新品種、核酸、遺伝子、抗体、タンパク質、脂質、化合物、土壌、岩石、実験動植物等）。

② 試作品、モデル品、実験装置等。

③ データベース、フローチャート、コンピュータプログラム、画像、図面等の各種情報を記録した電子又は紙の記録媒体等。

(2) 教職員等が本学における研究・教育活動により作製した成果有体物は、学園に帰属する。但し、学園に帰属させることが適切でないと認められるものについては、この限りではない。

Ⅲ 知的財産等の管理・活用の推進、および技術移転

1. 知的財産等の管理

(1) 知的財産等の維持管理

学園がその権利を承継し保有する特許については、加計学園本部総務部が維持管理を行う。学園は速やかに出願、権利化、権利化後の管理をし、また産業界に技術移転し運用する。

学園が保有した特許権については、一定期間毎に職務発明判定委員会において再評価を行い、権利保持を継続するかどうか判断する。

(2) 研究者への知的財産等の返還

学園において特許権を継続保有しないと決定したものについては、発明者に帰属させることができる。発明者が帰属を希望しない場合には、学園は、その特許権を第三者に譲渡し又は放棄することができる。

2. 技術移転

(1) 発明および考案、意匠、回路配置、品種、ノウハウ、データベース及びプログラム等の著作物

発明者と学外連携推進室は、互いに密接な連携を取りながら、知的

財産権に係る技術移転（産業界等へのライセンス活動及び実施許諾等の契約）を進める。技術移転が成されるときには、研究・社会連携部は速やかに学園理事長に報告をしなければならない。同時に、知的財産権の侵害に対して、適切な対策を講じる。

(2) 成果有体物

成果有体物を作製した教職員と研究・社会連携部は、互いに密接な連携を取りながら、成果有体物に係る技術移転（学外の研究機関または産業界等への提供）を進める。この場合、学術研究を目的とする提供は、原則として無償とする。但し、成果有体物の提供に必要な経費は、移転先機関に請求することができる。

産業利用・収益事業を目的とする学外への提供は、原則として有償とする。教職員等は、成果有体物を外部機関へ有償で提供するときは、速やかに学園理事長にその届出をしなければならない。理事長は、届出があったとき、職務発明判定委員会に対し、その提供に関する事項を諮問し、その報告に基づき提供の可否を決定する。

3. 大学発ベンチャー企業への優先実施権許諾

職員が兼業又は独立してベンチャー起業をする場合、加計学園は、当該職員の職務発明等に係る権利で加計学園が承継し権利化したものについて、優先的に通常実施権の許諾又は譲渡等を行うよう努めるものとする。

Ⅳ 知的財産等の実施等に伴う発明者等への報償

発明等の創作は、職員の知恵と技量によって生み出されたことに十分配慮し、職務発明等にかかる権利の承継、保有にあたっては、学園は「加計学園職務発明規程」に従って、補償金を支払うものとする。

また、学園が職務発明等に基づく知的財産権の実施又は処分により収益（収入）を得たときは、当該知的財産権に係る発明等をした発明者に対し、学園は「加計学園職務発明規程」に従って、別途補償金を支払うものとする。これらの補償金を受ける権利は、当該権利に係わる発明者が転職又は退職（死亡を含む。）した後も存続するものとする。

成果有体物の有償による学外提供についても、上述の「加計学園職務発明規程」を準用するものとする。

Ⅴ 職員や学生等の守秘義務

発明等を行った職員及び大学、学園は、当該発明等の内容等の事項について、出願するまでの間、秘密を守らなければならない。当該発明に関する技術内容の学外への公表は、特許出願をした後に行うものとする。ただし、発明を行った職員と大学、および特許権承継者が合意の上で公表する場合はこの限りでない。

また、産学官連携の活動において、職員は加計学園の知的財産権についての守秘義務を果たすだけでなく、連携する相手側の知的財産権をも尊重して自他双方の守秘義務を守る。

Ⅵ 共同研究・受託研究に伴う権利の帰属とライセンスの考え方

本学と企業等との共同研究により生じた発明等については、原則として企業と加計学園の共同出願により権利化するが、個々の取扱いについては、個々の共同研究契約によって定める。ロイヤリティの配分、実施権、不実施補償等に関する事項は、個々の契約で定める。

企業等からの受許研究により生じた発明等にかかる権利は、原則として加計学園帰属とし、加計学園が権利化、管理する。ただし、個々の取扱いについては、個々の受託研究契約によって定める。ロイヤリティの配分、実施権、不実施補償等に関する事項は、個々の契約で定める。

Ⅶ 知的財産等の取扱いに関する異議申立て手続きと処理方法

本学の職員で、知的財産権に関してその取扱い等に異議がある場合には、学長に異議申し立てを行うことができる。

本学の知的財産権の取扱い等に関する異議申し立ての事項及び手続については、「加計学園職務発明規程」に定める。

岡山理科大学 研究・社会連携白書 2018

2019 年 8 月 20 日発行

編集・発行 岡山理科大学 研究・社会連携部

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1

【TEL】(086)256-9731

【FAX】(086)256-9732

岡山理科大学 研究・社会連携部

ENJOY SCIENCE!!

ボクら、科学の子。



岡山理科大学

OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE